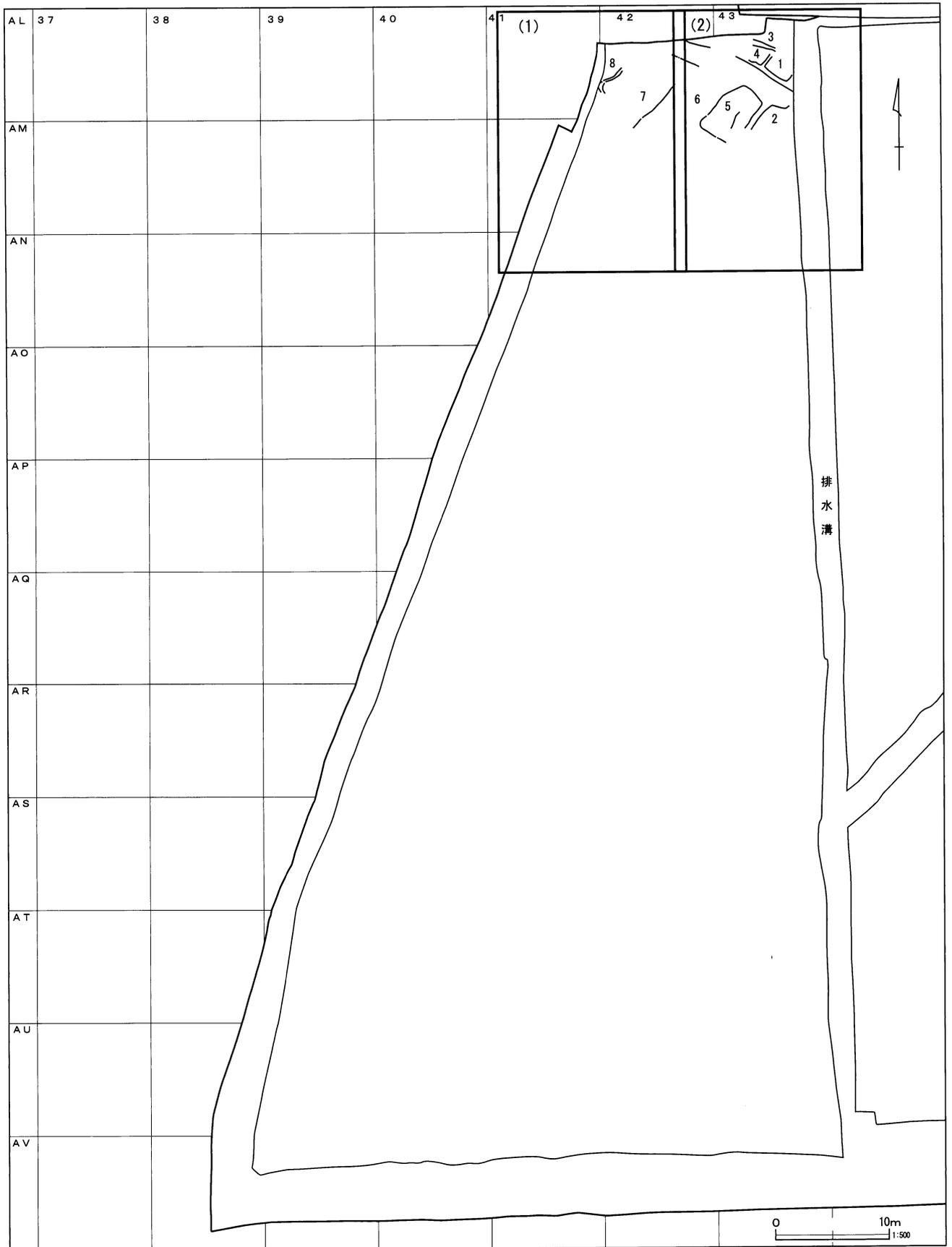
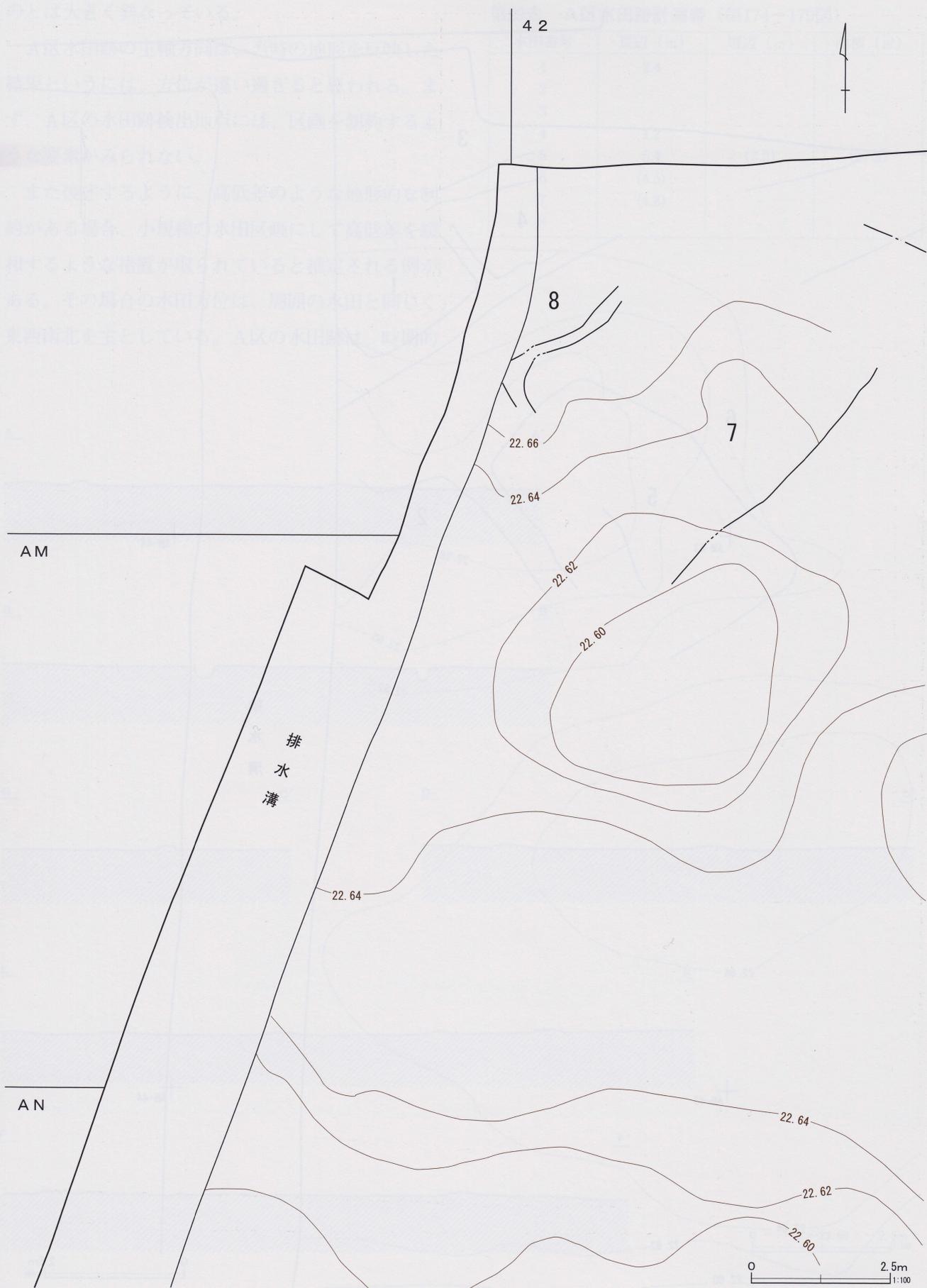


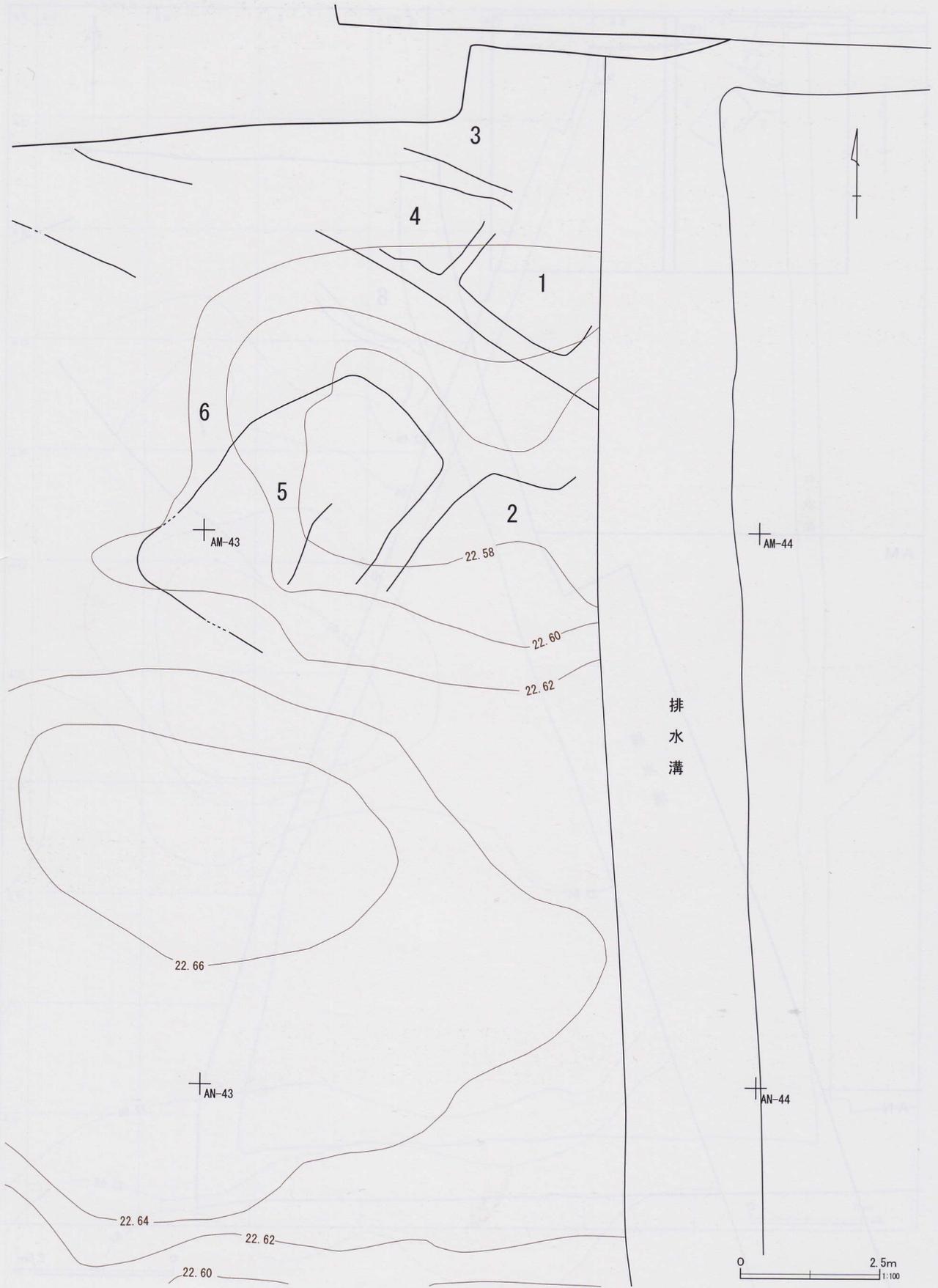
第175図 A区二面水田跡遺構全体図



第176图 A区二面水田跡区割图



第177図 A区水田跡 (1)



第178図 A区水田跡 (2)

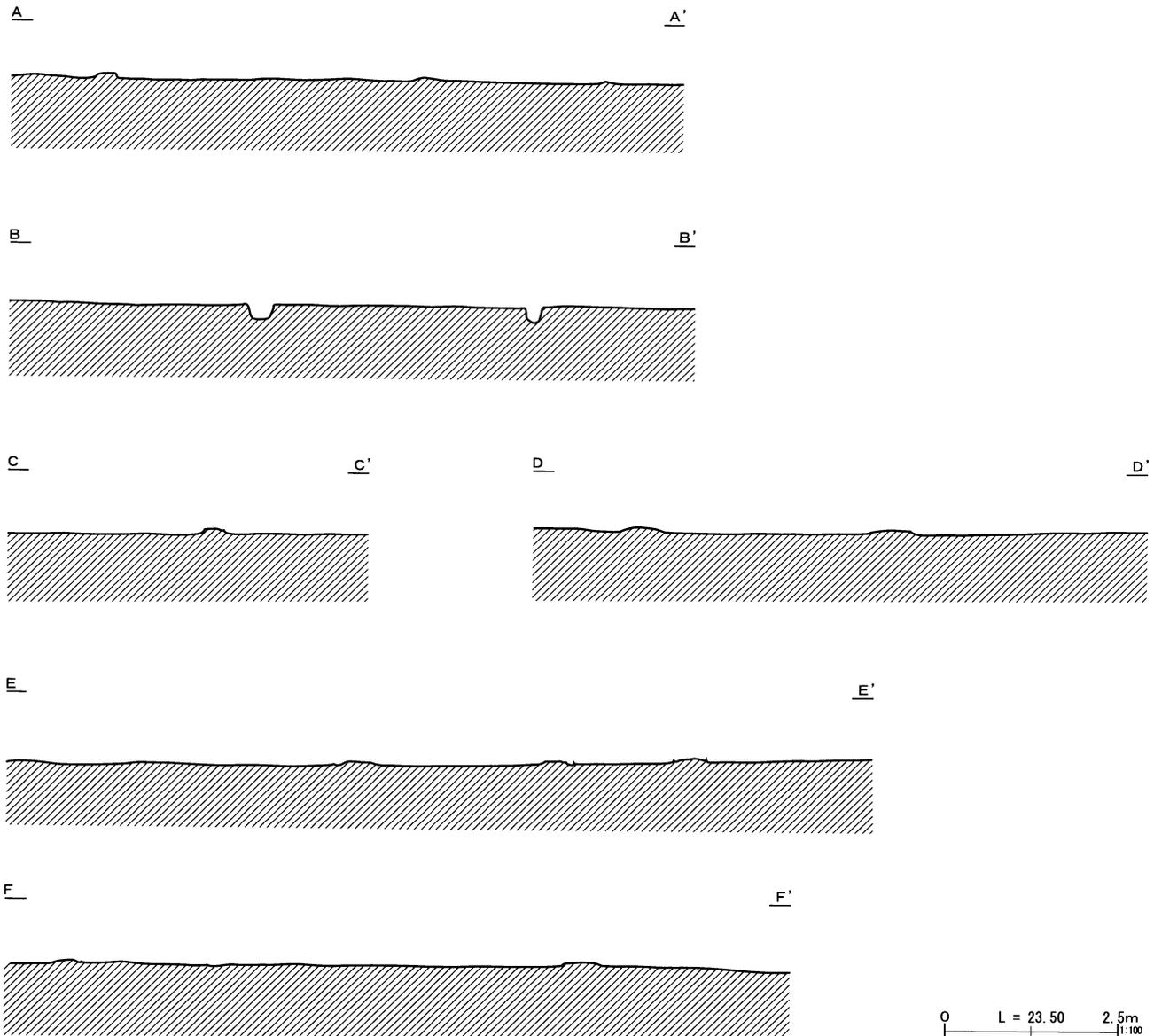
のとは大きく異なっている。

A区水田跡の主軸方向は、当時の地形を反映した結果というには、方位が違い過ぎると思われる。まず、A区の水田跡検出地点には、区画を制約するような要素がみられない。

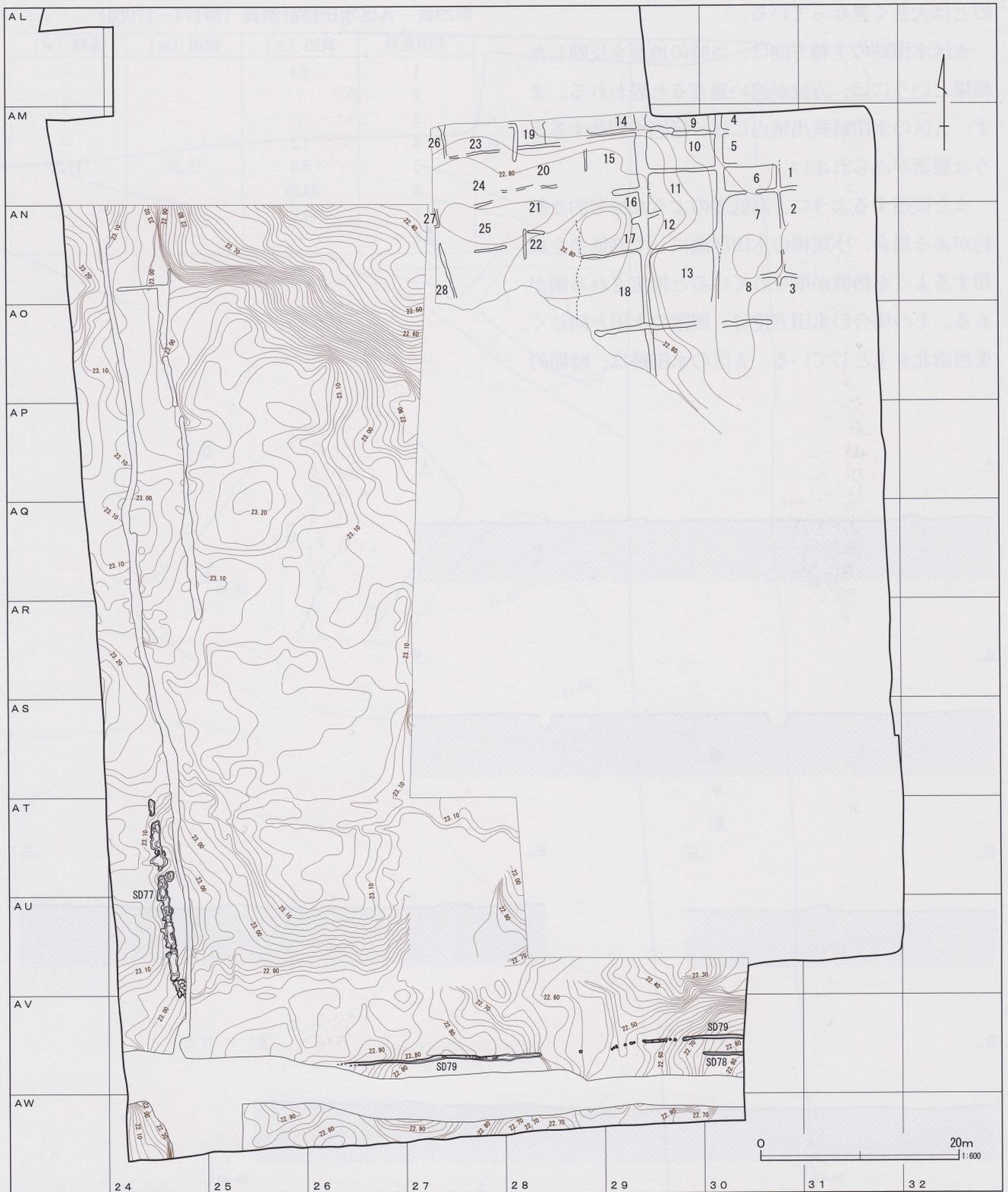
また後述するように、高低差のような地形的な制約がある場合、小規模の水田区画にして高低差を緩和するような措置が取られていると推定される例がある。その場合の水田方位は、周囲の水田と同じく、東西南北を主としている。A区の水田跡は、時期的

第29表 A区水田跡計測表 (第174~179図)

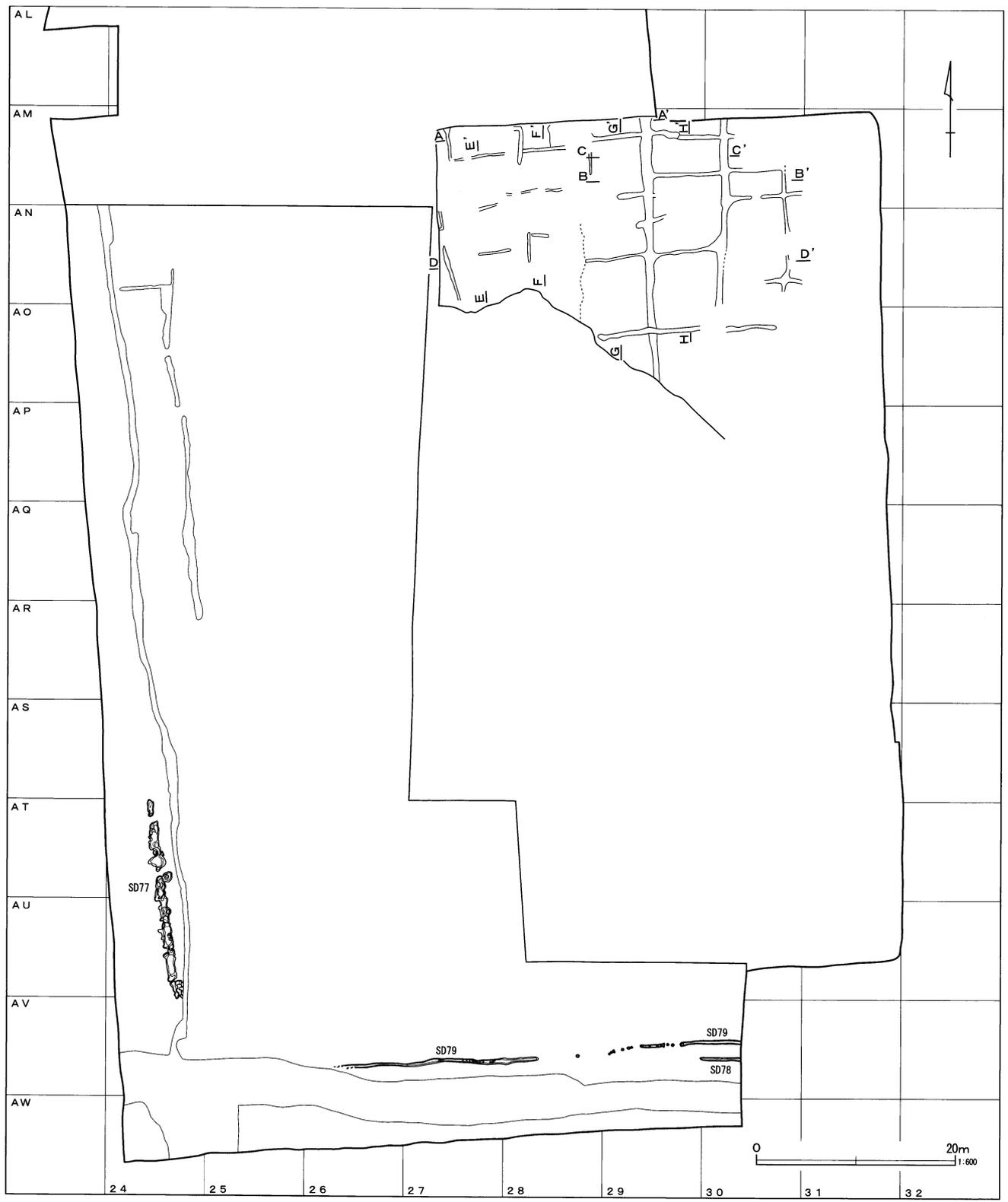
水田番号	長辺 (m)	短辺 (m)	面積 (㎡)
1	2.4	-	-
2	-	-	-
3	-	-	-
4	1.2	-	-
5	5.4	(3.2)	(17.3)
6	(4.5)	-	-
7	(4.2)	-	-
8	-	-	-



第179図 A区二面水田跡エレベーション図



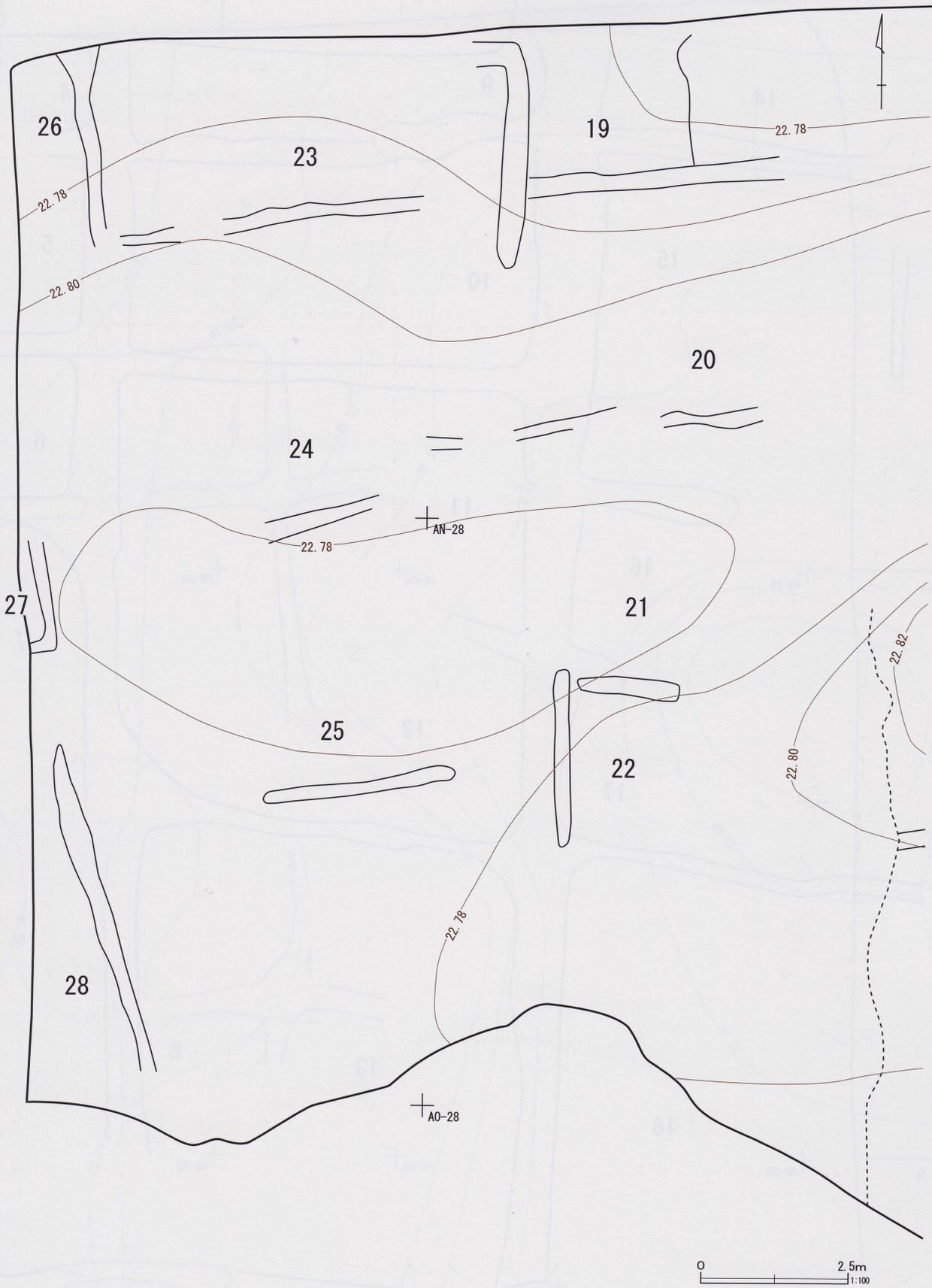
第180図 B区二面水田跡等高線図



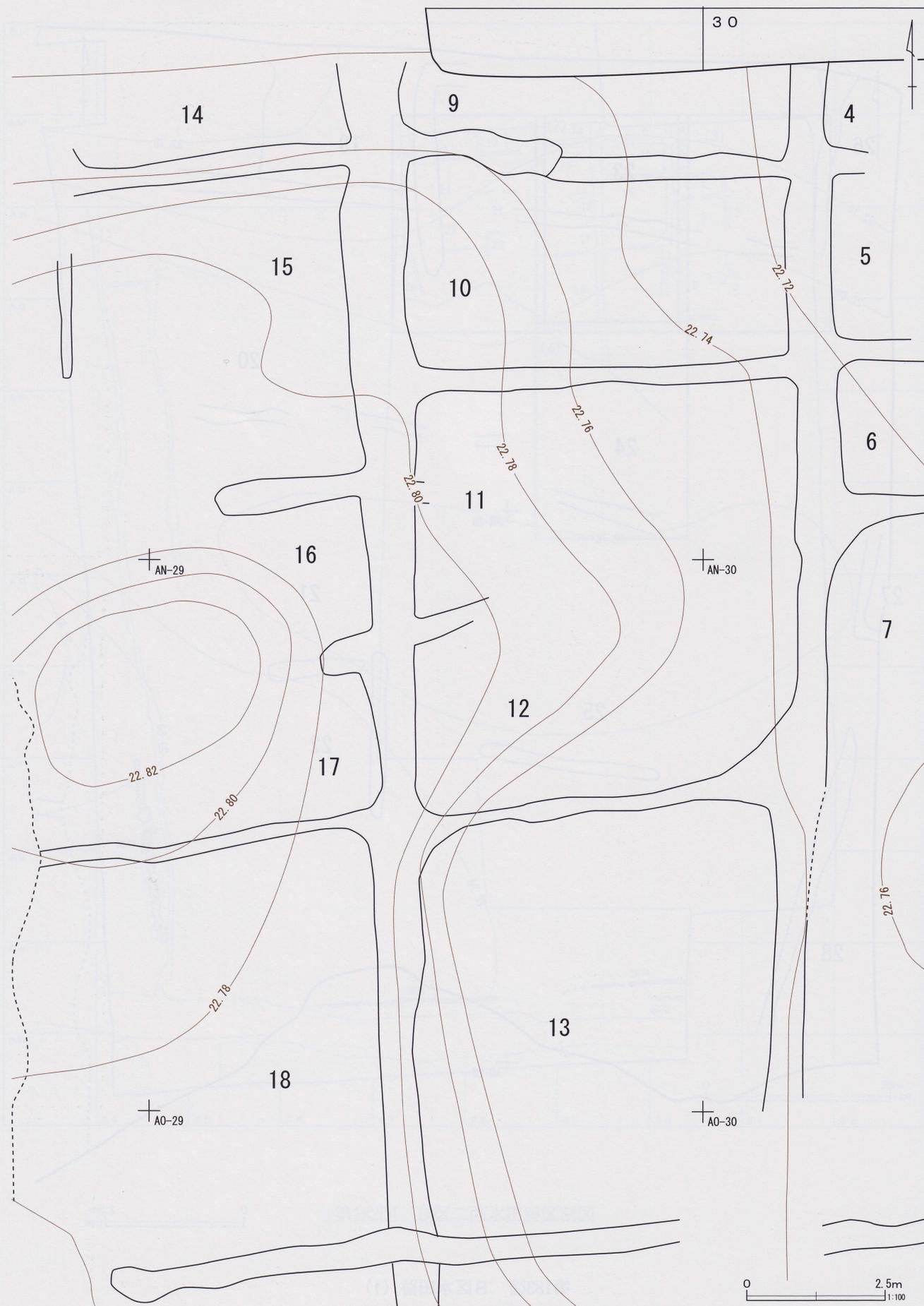
第181图 B区二面水田跡遺構全体図



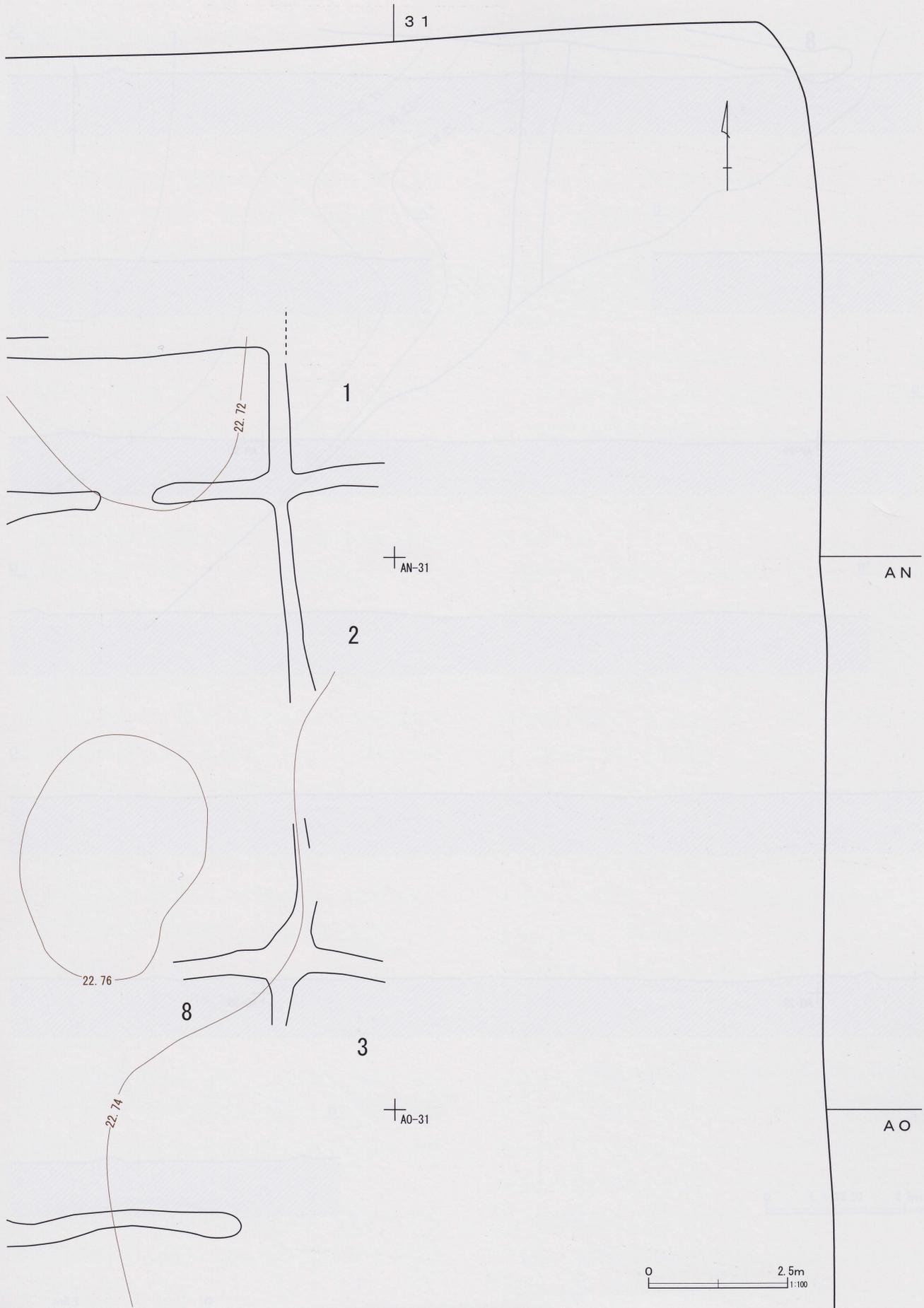
第182图 B区二面水田跡区割図



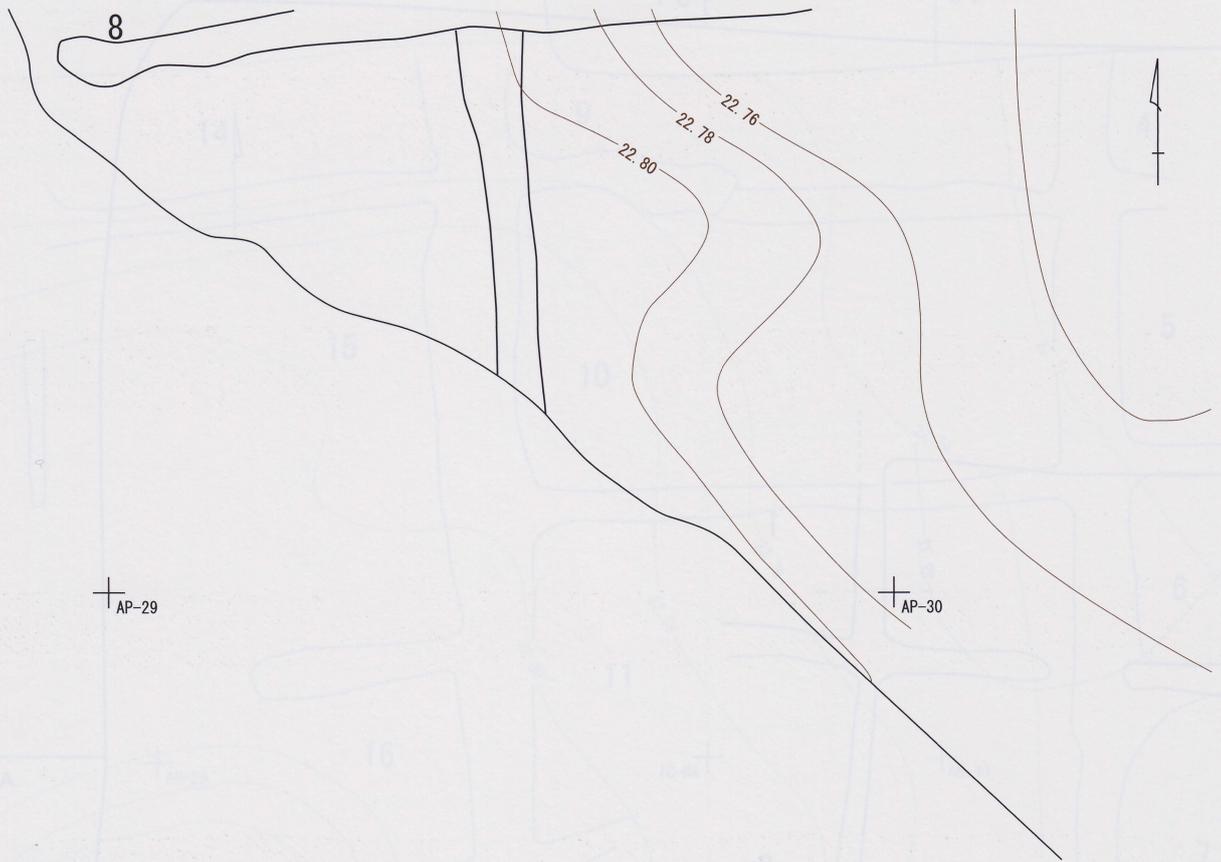
第183图 B区水田迹(1)



第184图 B区水田跡 (2)



第185図 B区水田跡 (3)

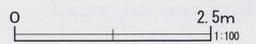


AP-29

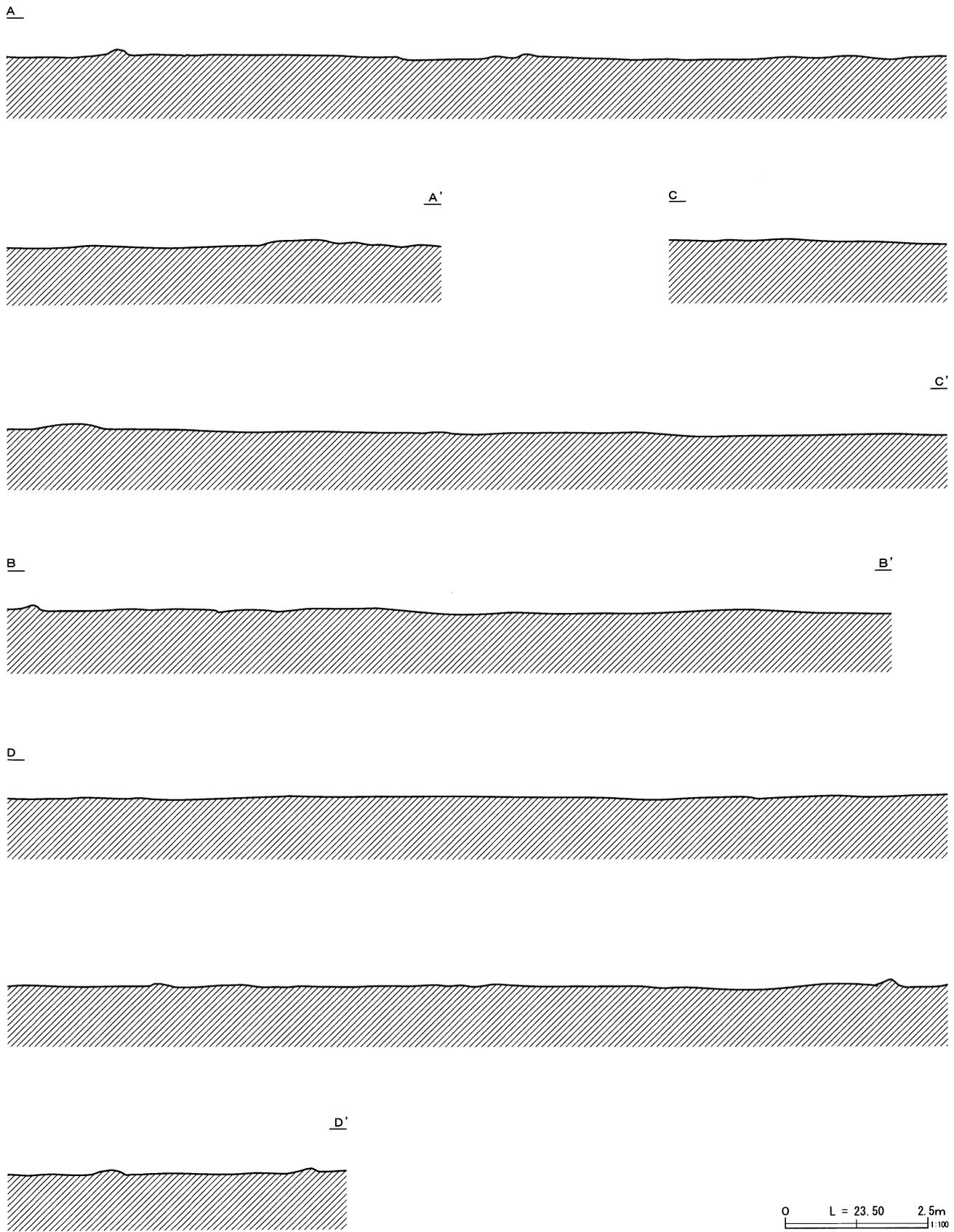
AP-30

AQ-29

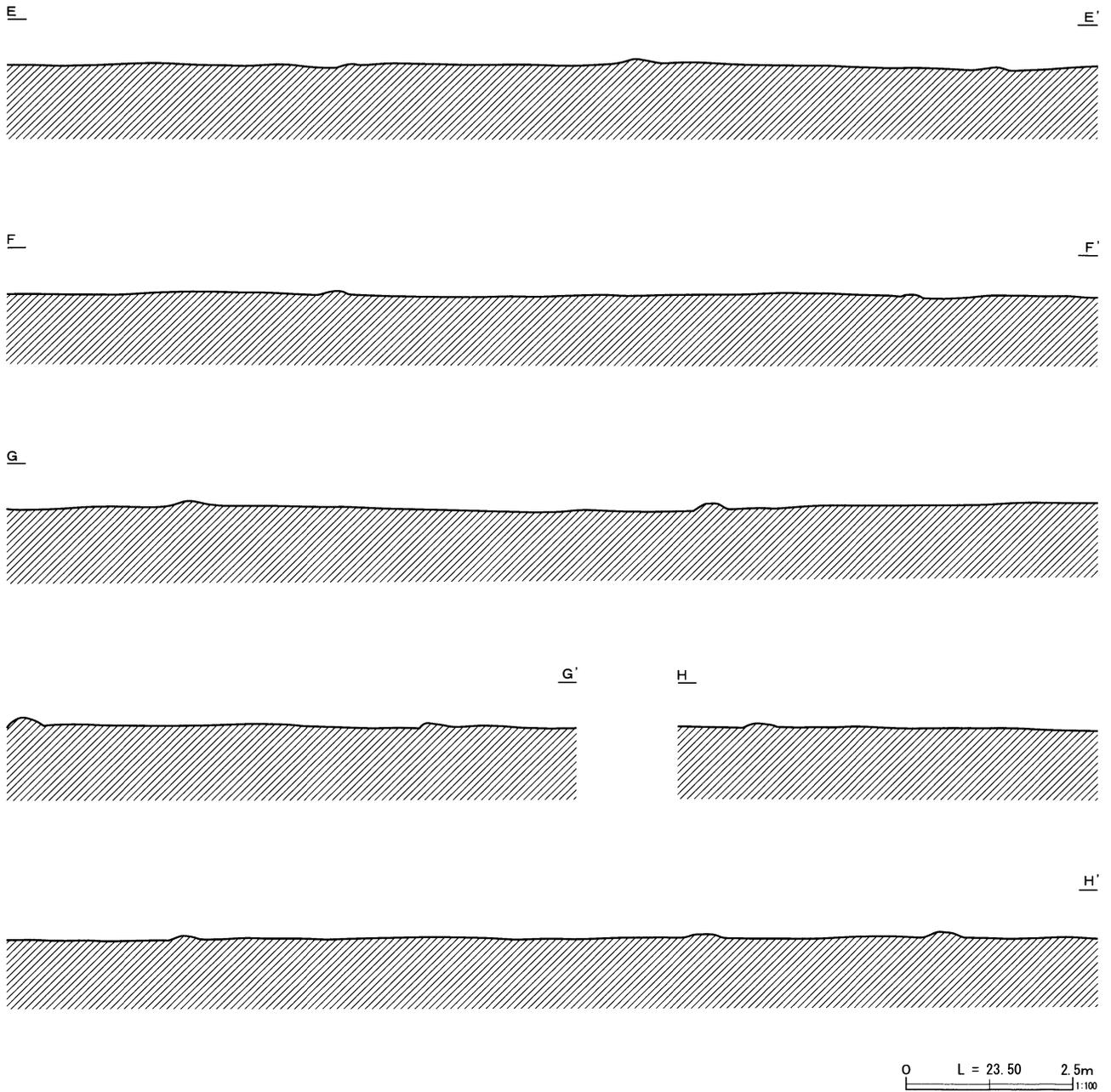
AQ-30



第186图 B区水田跡 (4)



第187図 B区二面水田跡エレベーション図(1)



第188図 B区二面水田跡エレベーション図(2)

第30表 B区水田跡計測表(第180~188図)

水田番号	長辺(m)	短辺(m)	面積(m ²)	水田番号	長辺(m)	短辺(m)	面積(m ²)	水田番号	長辺(m)	短辺(m)	面積(m ²)
1	-	-	-	11	6.6	(3.6)	(23.8)	21	(4.5)	-	-
2	8.2	-	-	12	6.6	(3.4)	(22.4)	22	(5.2)	-	-
3	-	-	-	13	(7.4)	(6.2)	(45.9)	23	7.0	-	-
4	-	-	-	14	(4.8)	-	-	24	4.8	-	-
5	3.0	(5.5)	(16.5)	15	(5.4)	(4.8)	(25.9)	25	4.4	-	-
6	5.2	2.4	12.5	16	(2.4)	(5.1)	(12.2)	26	-	-	-
7	8.2	(6.0)	(49.2)	17	(6.2)	(2.4)	(14.9)	27	-	-	-
8	(6.0)	(4.2)	(25.2)	18	(7.2)	(6.6)	(47.5)	28	-	-	-
9	7.0	-	-	19	-	-	-				
10	6.8	3.8	25.8	20	(6.5)	(3.6)	(23.4)				

に条里水田以前のものであろうか。

確認された8つの水田区画のうち、形状・規模を推定できるのは、僅かに第5区画のみである。検出された畦の痕跡が、この水田跡の形状をそのまま残しているとすれば、規模は5.2×3.2mの、長方形に近い台形を呈しており、面積は17.3㎡と推定される。

しかし、畦痕跡の遺存状況はきわめて悪く、断定するのは危険である。水口と思われる痕跡も、確認されていない。第1・5区画の東畦は、概ね直線状に繋がるが、西畦はややずれている。

現状からみる限り、第1・2・4・5区画はそれぞれ形状・規模が異なっていると思われる。

畦の幅は、15～50cmであるが、40～50cmのものが多い。

第二面A区の水田跡では、水口と推定される切れ間は検出されていない。また、遺物は出土しなかった。

B区水田跡（第180～188図）

第17地点西側で検出された。水田面の検出標高は、22.72～22.82mで、標高の最高地点から最低地点までの距離は約11m、高低差は10cmで、傾斜率は0.9%である。A区の水田跡検出面より15cm程高い。因みに、A区水田面では1.1%、一面での各水田面の傾斜率は、A区1.5%、B区1.6%、C区0.5%と0.7%で全体的には1.1%、D区0.95%、E区0.8%である。二面B区の傾斜率は、二面A区と同様に、中間的な数値といえる。

第6区画と第16・17区画は、12m程の距離で10cmの高低差をもつ。

水田の主軸方向は、第6・7区画の西畦でN-1°-E、第9～13区画の西畦でN-3°-W、第23区画の西畦でN-5°-Wを指しており、比較的整然としたものとなっている。

これに対し、第27・28区画の東畦ではN-17°-Wを指しており、第1～26区画の方位とは若干異なっている。

またこれらの方位は、同じ調査面であるA区の水

田跡の主軸方向(N-36°-E前後)とも異なっている。本調査区の第26～28区画の主軸が、他の水田跡より西に振れている要因は何であろうか。

参考までに、東西方向の畦についてもみておきたい。第5・10・15区画の南畦でN-87°-E、第1・6・10区画の南畦でN-85°-E、第4・9・14・19・23の南畦がN-83°-E、第12・17の南畦がN-83°-E、第8・13・18の南畦がN-84°-Eを指す。

東西方向の畦の痕跡は検出されていないが、第7・13・18区画では本来、南北畦の中央に畦が存在し、南北二枚ずつの水田であったのであろうか。そういった東西方向に長いタイプの水田が、第5・6・10～12・16・17・20・21・24・25区画であると考えられる。

東西方向に長辺をもつ水田跡について、東西畦で方位を計測すると、第9・12・14・17・19・23区画の南畦でN-83°-E、第6区画の南畦でN-85°-E、第5・10区画の南畦でN-87°-Eとなり、比較的近い方位といえよう。第7・13・18区画は、ともに南北に長い水田区画で、面積も49.2㎡・45.9㎡・47.5㎡といったように、形状・規模ともに類似している。

しかし、南北方向の長さを見た場合、第11・12区画をあわせて7.3m、第21・22区画をあわせて8.2m、さらに第24・25区画をあわせて9.2mとなり、第7区画の8.2m、第13・18区画の7.5mと近い数値となる。

東西方向に長辺をもつ水田跡の中で、面積を算定できるのは、第6区画の12.5㎡と第10区画の25.8㎡であるが、推定できるものとしては、第8区画(25.2)㎡・第11区画(23.8)㎡・第12区画(22.4)㎡・第17区画(14.9)㎡等々がある。いずれの水田区画からも、遺物は出土していない。

また、二区画分の可能性を考えた第13・18区画の推定面積は、それぞれ45.9㎡・47.5㎡である。これを、各々二区画分の面積とすると、東西に主軸を有



第189図 A区一面水田跡等高線図

する小区画の水田の面積ときわめて近い数値となる。

以上の点から、この調査区の水田は、東西方向に主軸をもつ短冊形を呈するもので、面積は15~25㎡程と推定される。

幾つかの水田区画について、個別にみていくことにしたい。第1~3区画の西畦は、第3区画の北東コーナーで若干歪むものの、概ね南北に直線状に繋がっている。

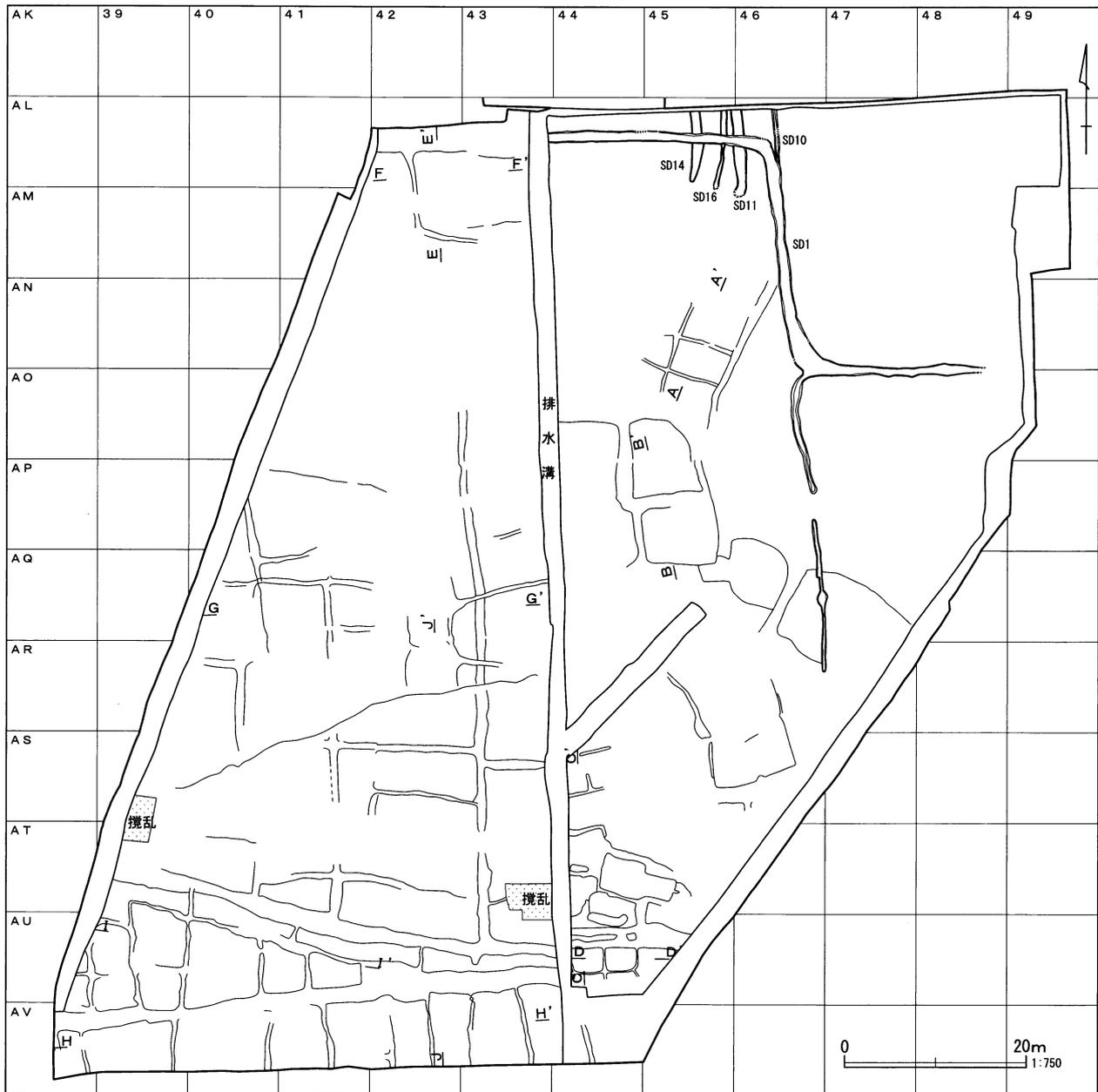
この点では、第4~8、9~13区画の西畦についても同様である。第3・8区画の北畦が、第13・18

区画にまで延びるのであろうか。

第5区画：規模は、南北3.0mで、東西は第6区画との並び具合から5.5mと推定され、面積は16.5㎡と考えられる。水口と思われる切れ間はみられない。

第6区画：規模は、東西5.2m、南北2.4m、面積12.5㎡である。南畦中央に、途切れている箇所があるが、畦の遺存状況が悪いため、水口の切れ間か否かは不明である。第6・16・17区画は、形状・規模がきわめて近いと考えられる。

第7区画：検出し得た範囲内での規模は、東西



第190図 A区一面水田跡遺構全体図

6.0m、南北8.2m、面積59.2㎡となるが、上記の理由から、二区画分との可能性を考えたい。畦の遺存状況が悪いため、水口の切れ間は確認されなかった。

第10区画：規模は、東西6.8m、南北3.8m、面積25.8㎡である。第6区画と共に、水田区画の形状・規模を確定できる遺構である。水口の切れ間は認められなかった。

第11区画：規模は、東西6.6m、南北(3.6)m、面積(23.8)㎡である。南畦は大部分が痕跡を失っているが、第16区画の北畦・南畦とともにN-31°-Eの

方位を指し、北畦・東畦・西畦とは、並行もしくは直行せず歪んでいる。水口の切れ間は認められなかった。第6・11・12・16・17区画は、形状・規模がきわめて近いと考えられる。

第12区画：規模は、東西6.6m、南北(3.4)m、面積(22.4)㎡である。北畦は大部分が痕跡を失っているが、第16区画の南畦とともにN-31°-Eの方位を指し、東畦・南畦・西畦とは、並行もしくは直行せず歪んでいる。水口の切れ間は認められなかった。第6・11・12・16・17区画は、形状・規模がきわめ



第191図 A区一面水田跡区割図

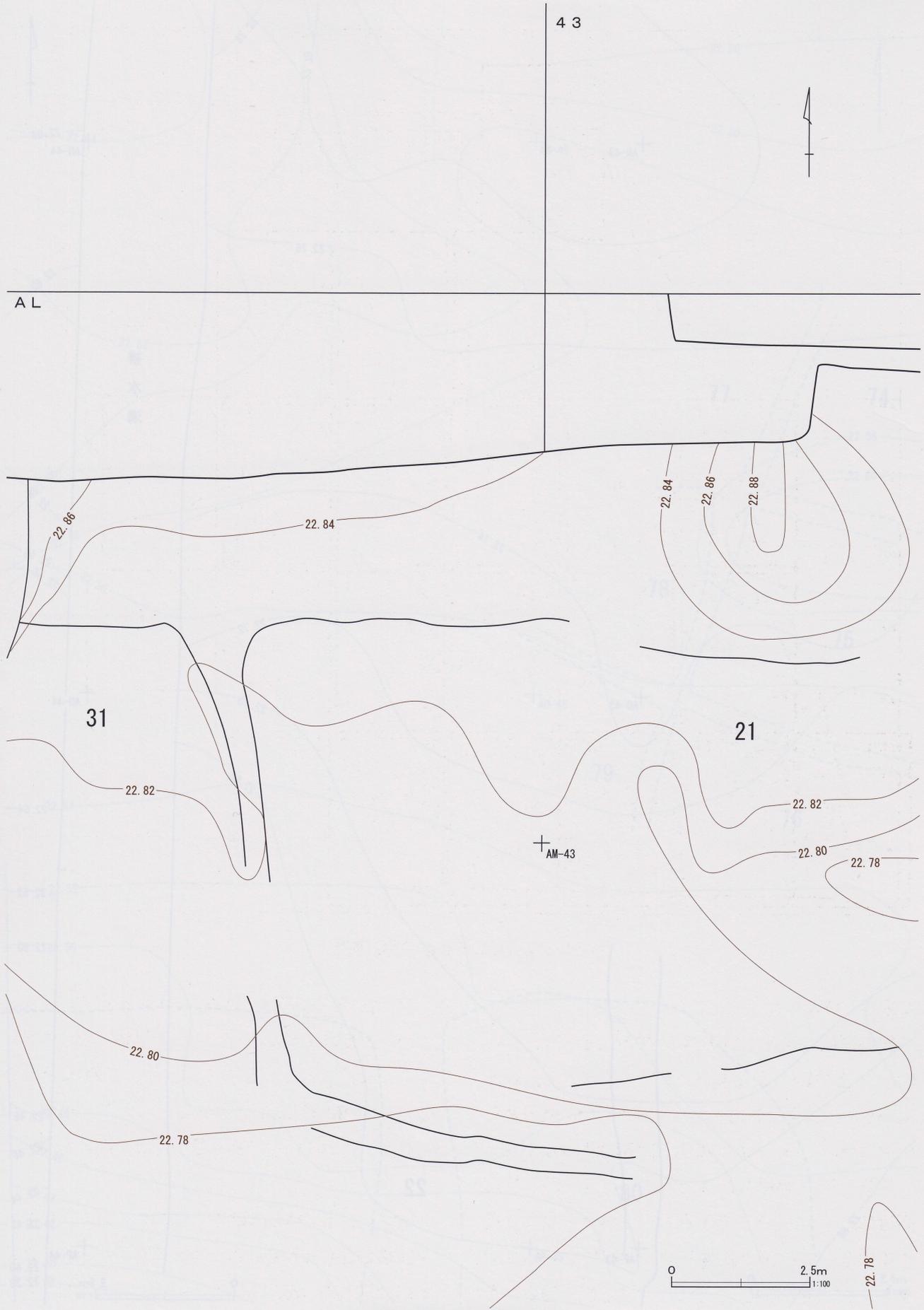
て近いと考えられる。

第13区画：検出し得た範囲内での規模は、東西6.2m、南北7.4m、面積45.9㎡であるが、上記の理由から、二区画分との可能性を考えたい。畦の遺存状況が悪いため、水口の切れ間は確認されなかった。

第15区画：規模は、東西(4.8)m、南北(5.4)m、面積(25.9)㎡である。第15区画の南畦は、東に位置する第5・10区画の南畦とは一直線には連結せず、第1・6区画の南畦と一致している。畦の遺存状況が悪いため、水口の切れ間は確認されなかった。

第16区画：規模は、南北(5.4)mと推定できるのみで、面積は不明である。但し、第15区画の西畦がそのまま南下しているのであれば、東西(5.1)mとなり、面積は(12.2)㎡前後と考えられる。第17区画と共に、この水田域で最も検出標高が高い水田跡である。

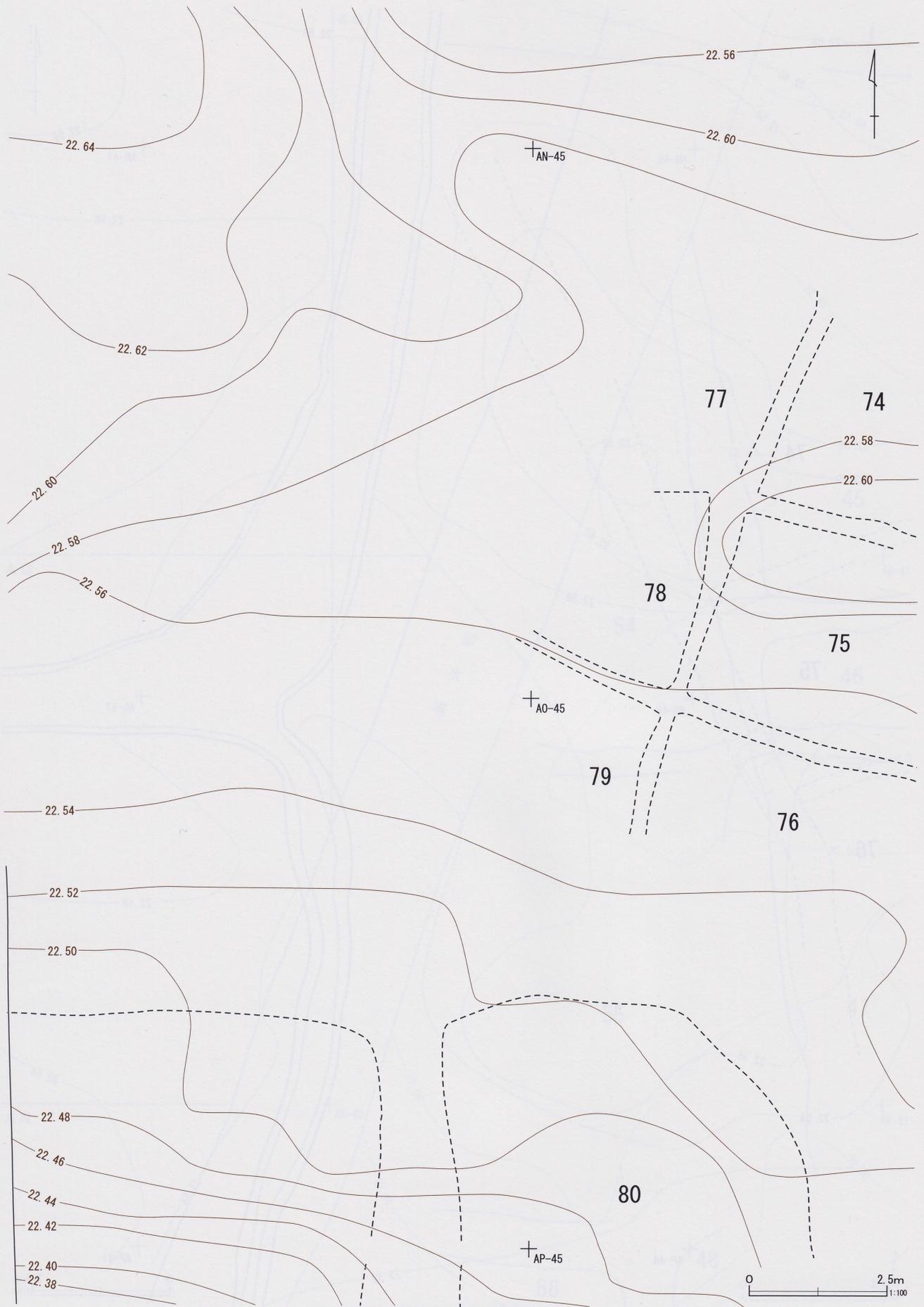
北畦は、第11区画の北畦とはズレており、第2・7区画の北畦と共通する。畦の遺存状況が悪いため、水口の切れ間は確認されなかった。第6・11・12・16・17区画は、形状・規模が極めて近いと考えられ



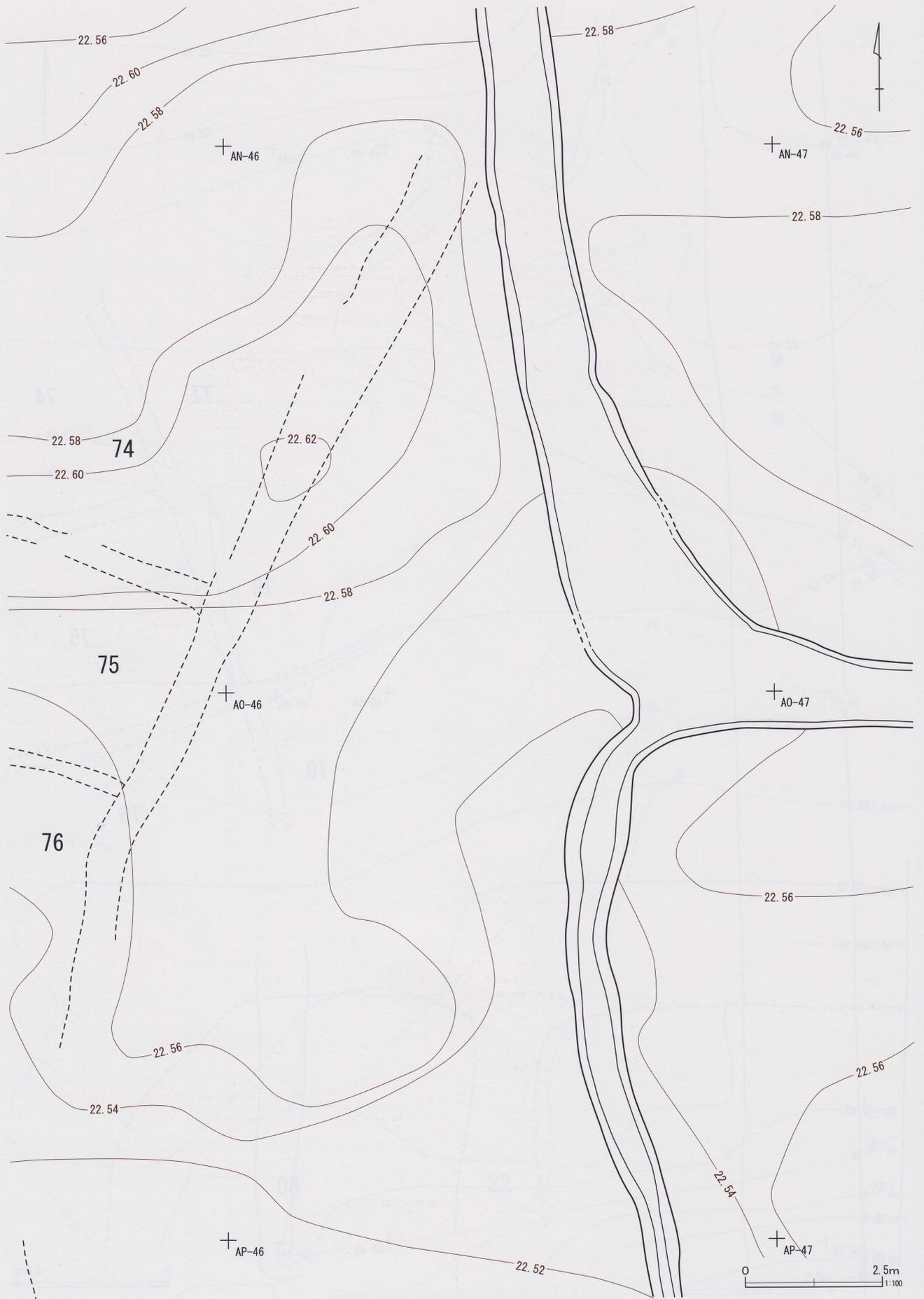
第192图 A区水田迹(1)



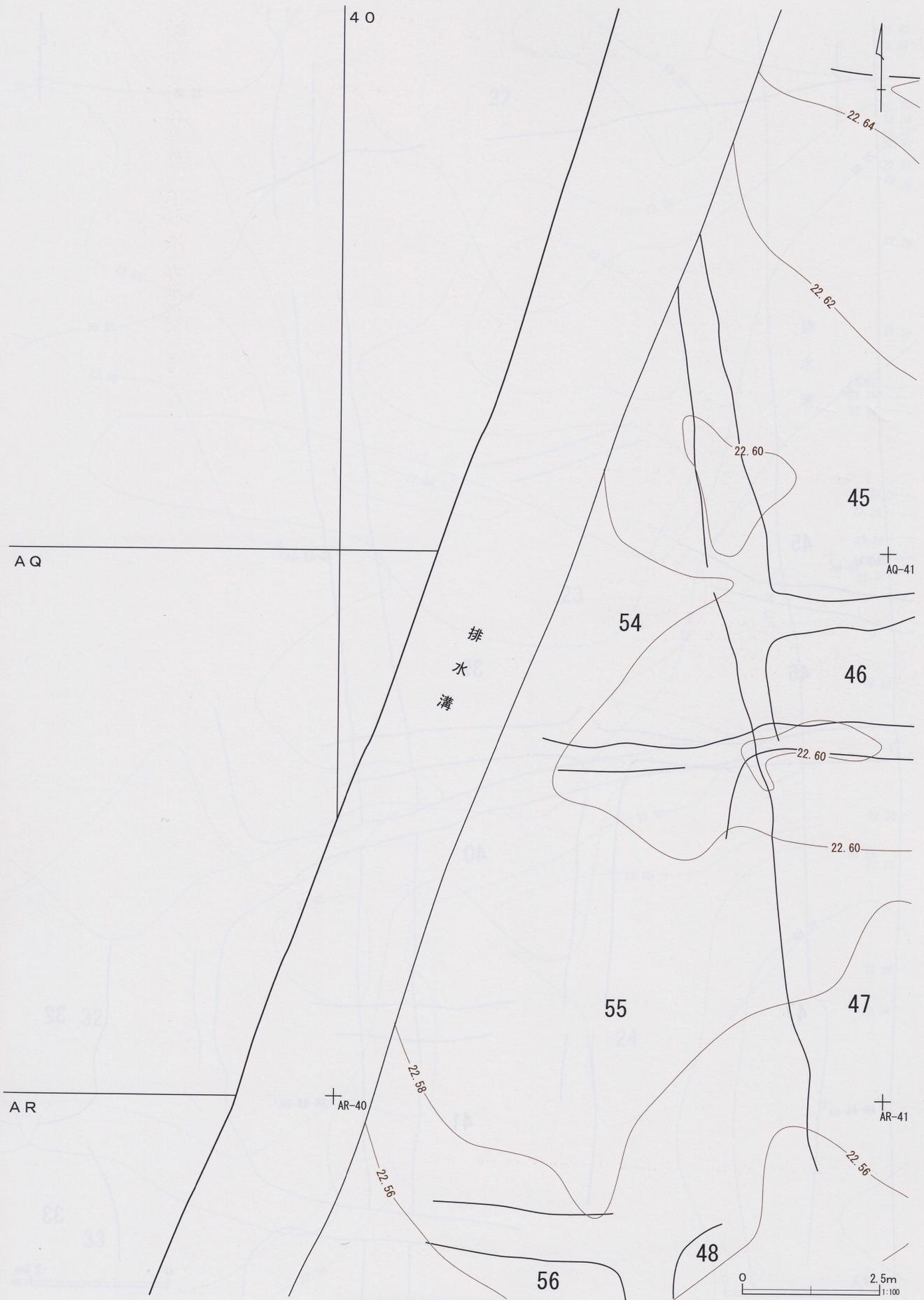
第193図 A区水田跡 (2)



第194图 A区水田跡 (3)



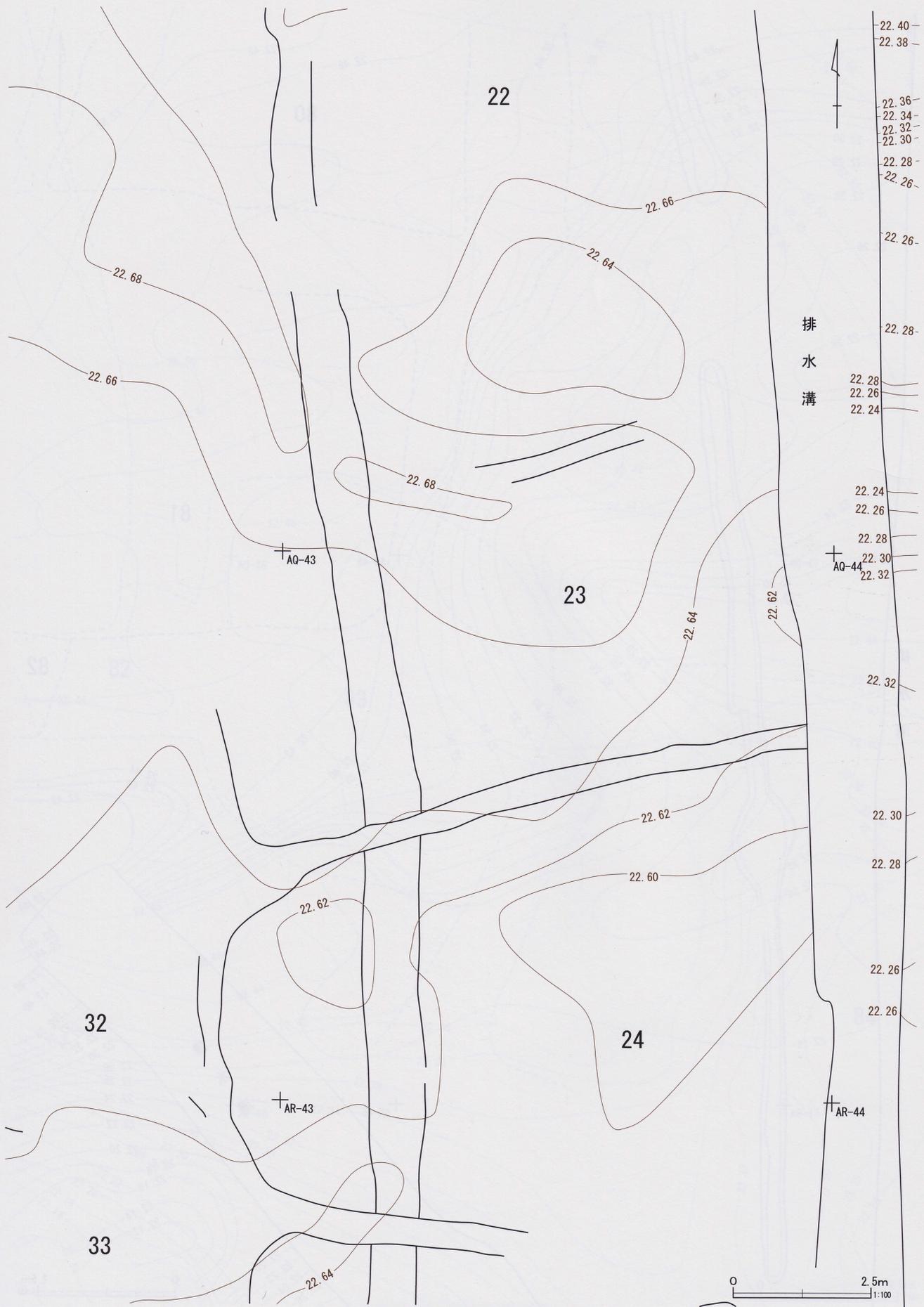
第195図 A区水田跡(4)



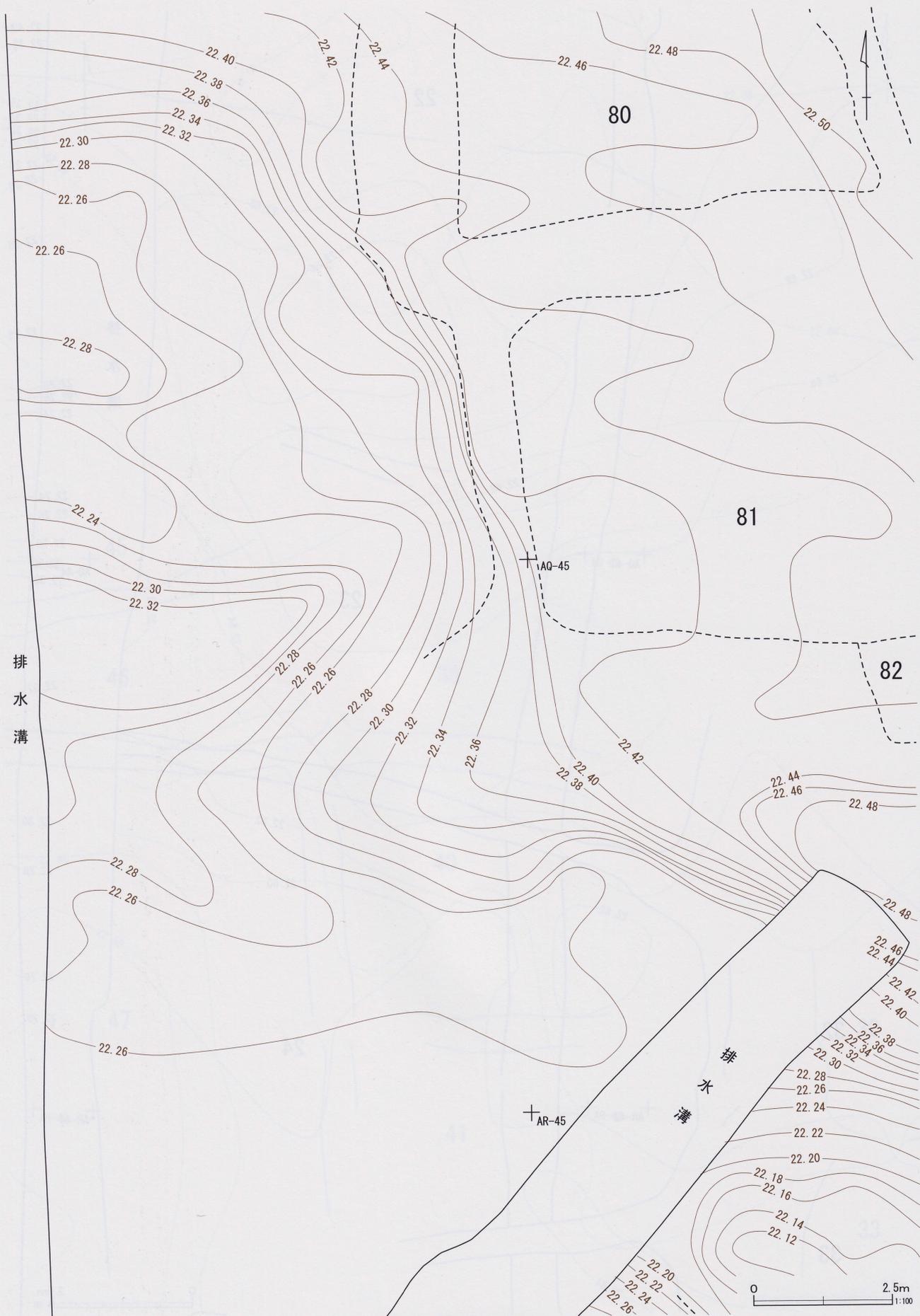
第196图 A区水田跡 (5)



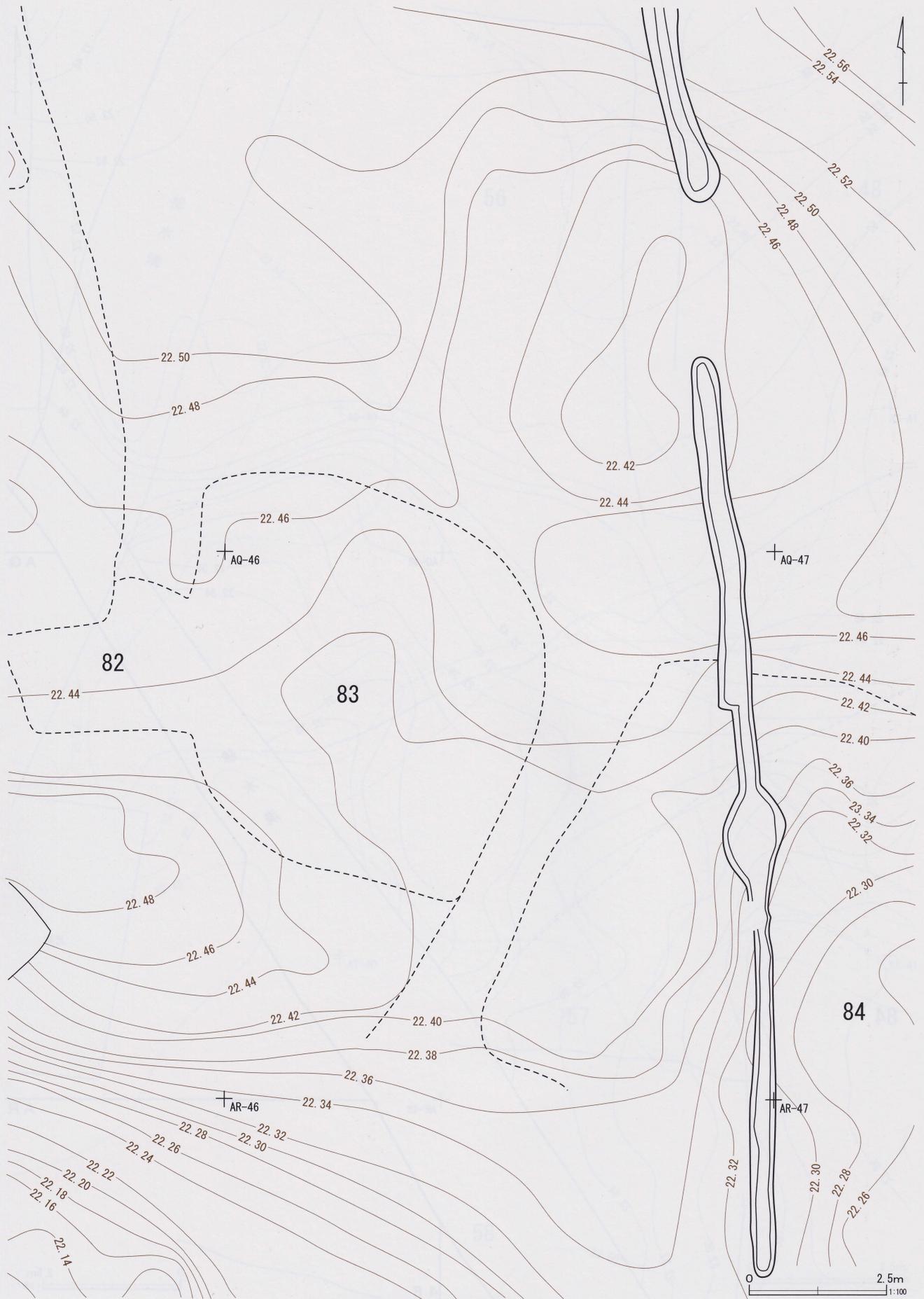
第197图 A区水田迹 (6)



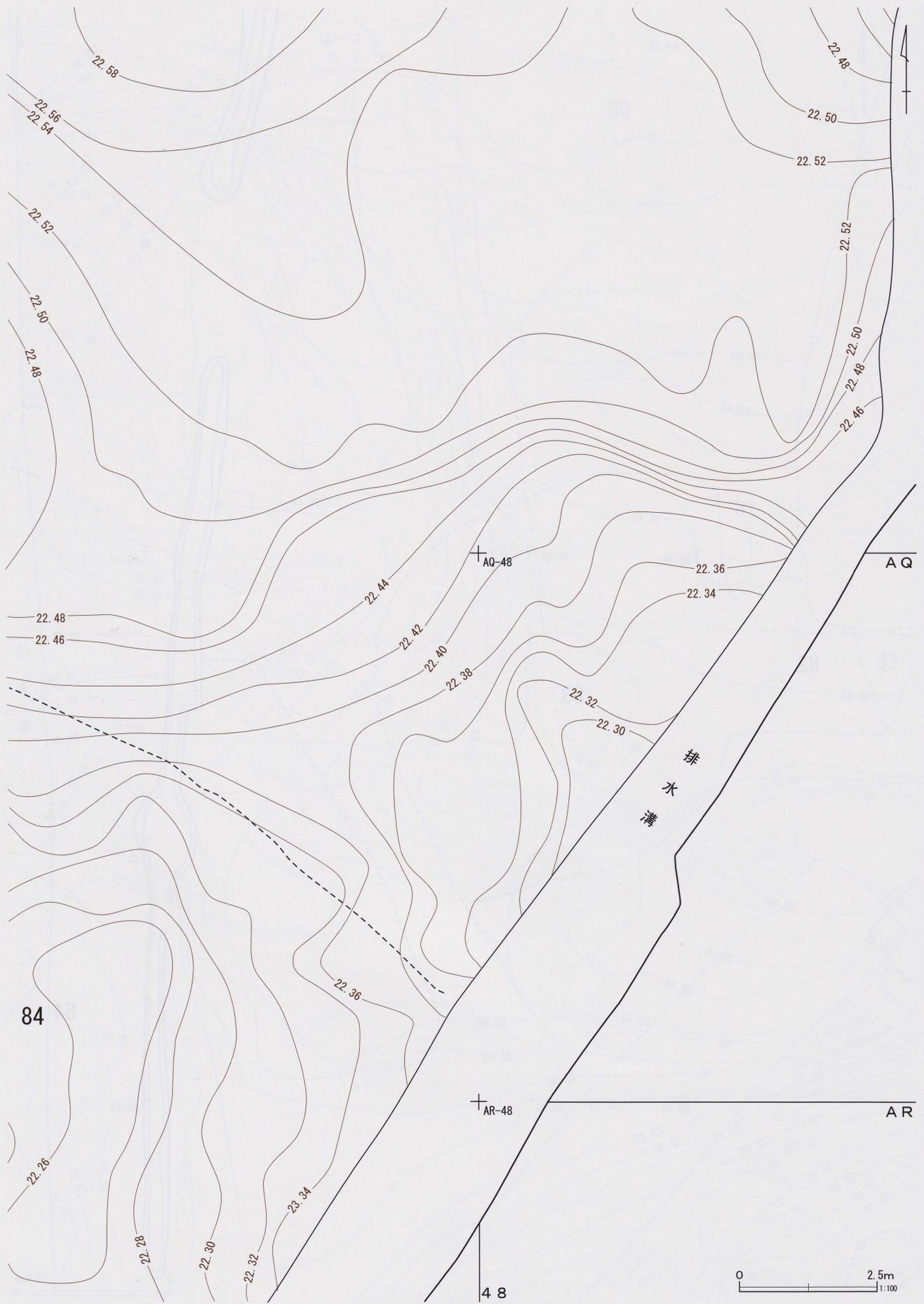
第198図 A区水田跡 (7)



第199図 A区水田跡 (8)



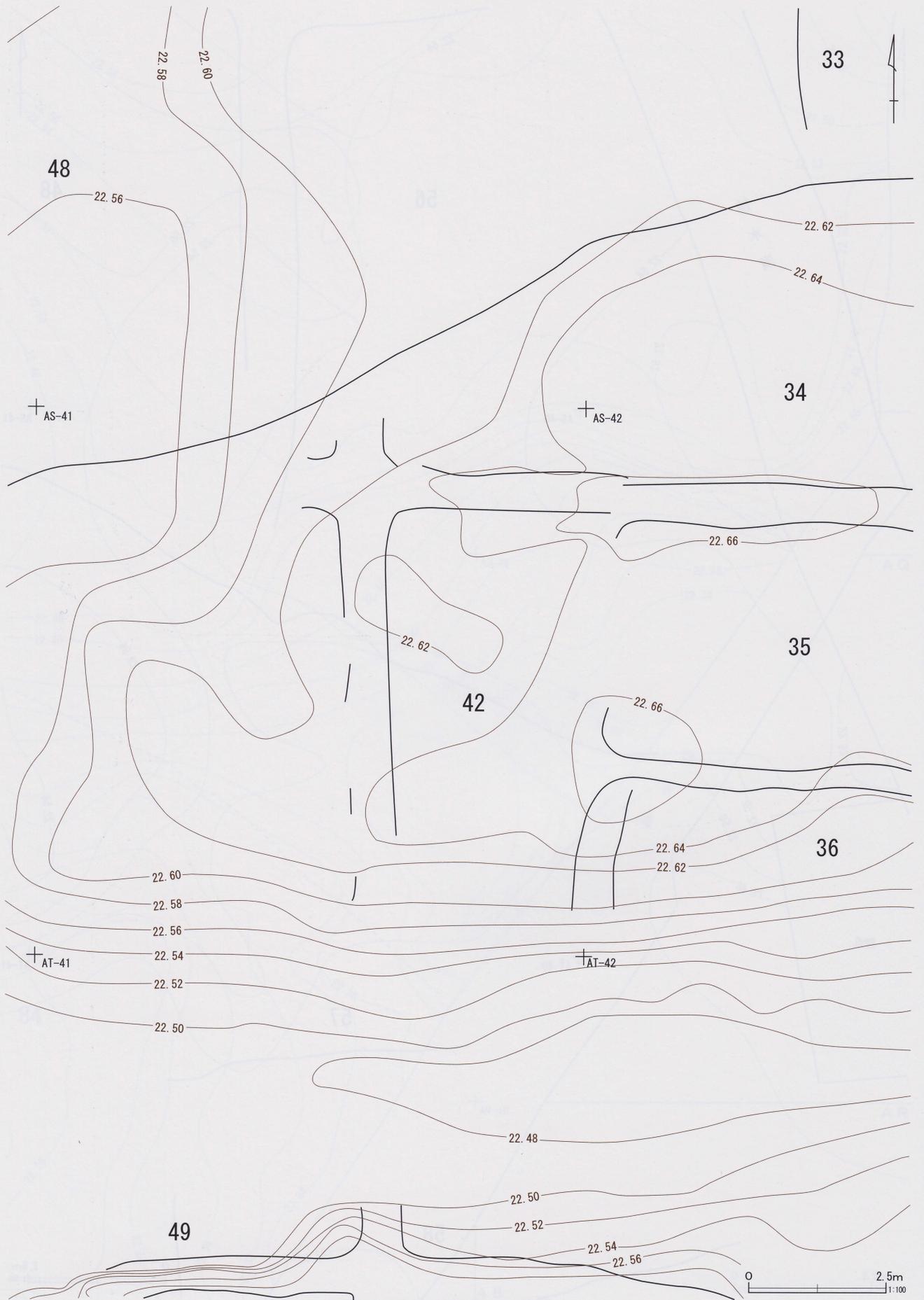
第200图 A区水田迹 (9)



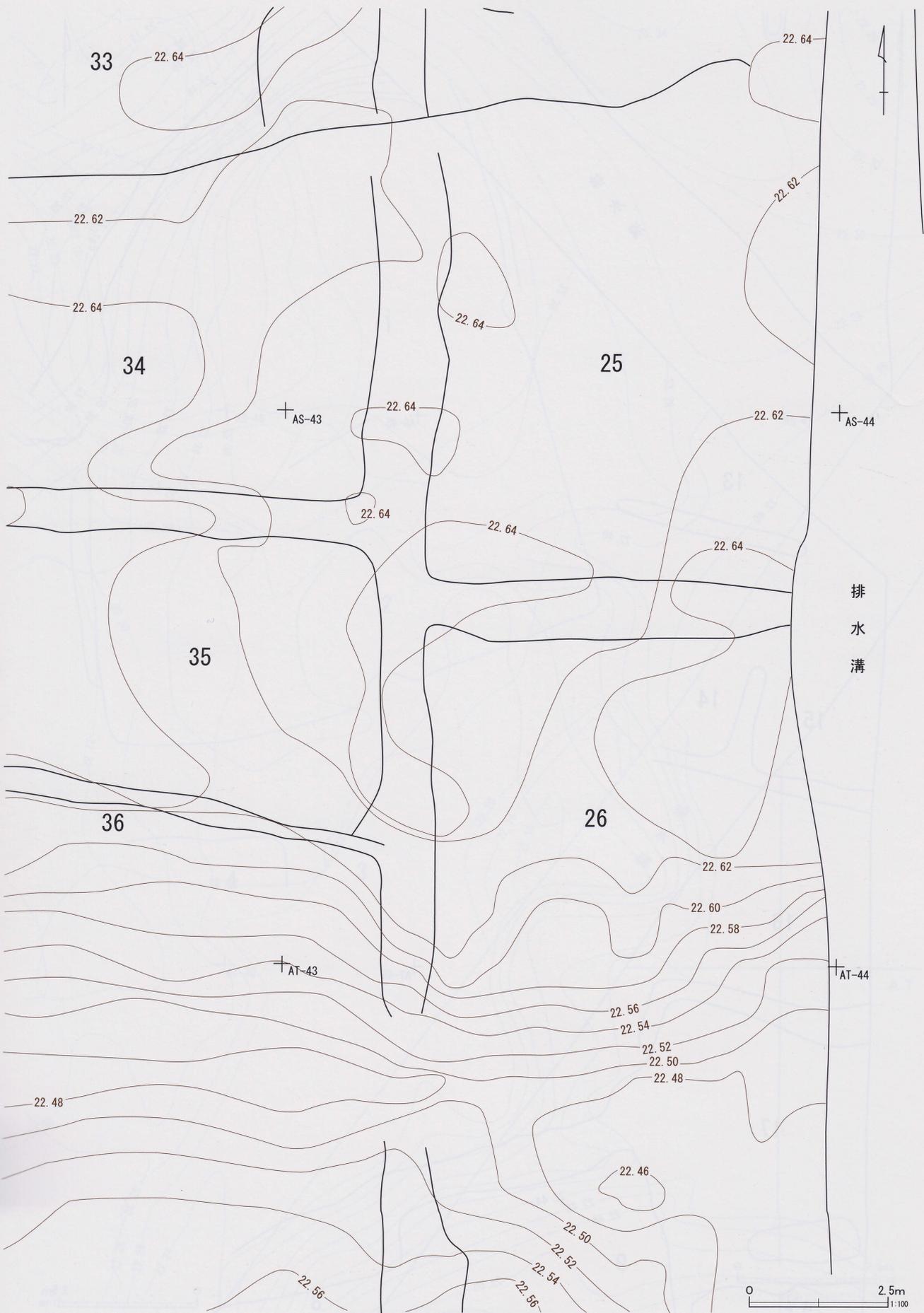
第201図 A区水田跡 (10)



第202図 A区水田跡 (11)



第203图 A区水田跡 (12)



第204図 A区水田跡 (13)



第205図 A区水田跡 (14)



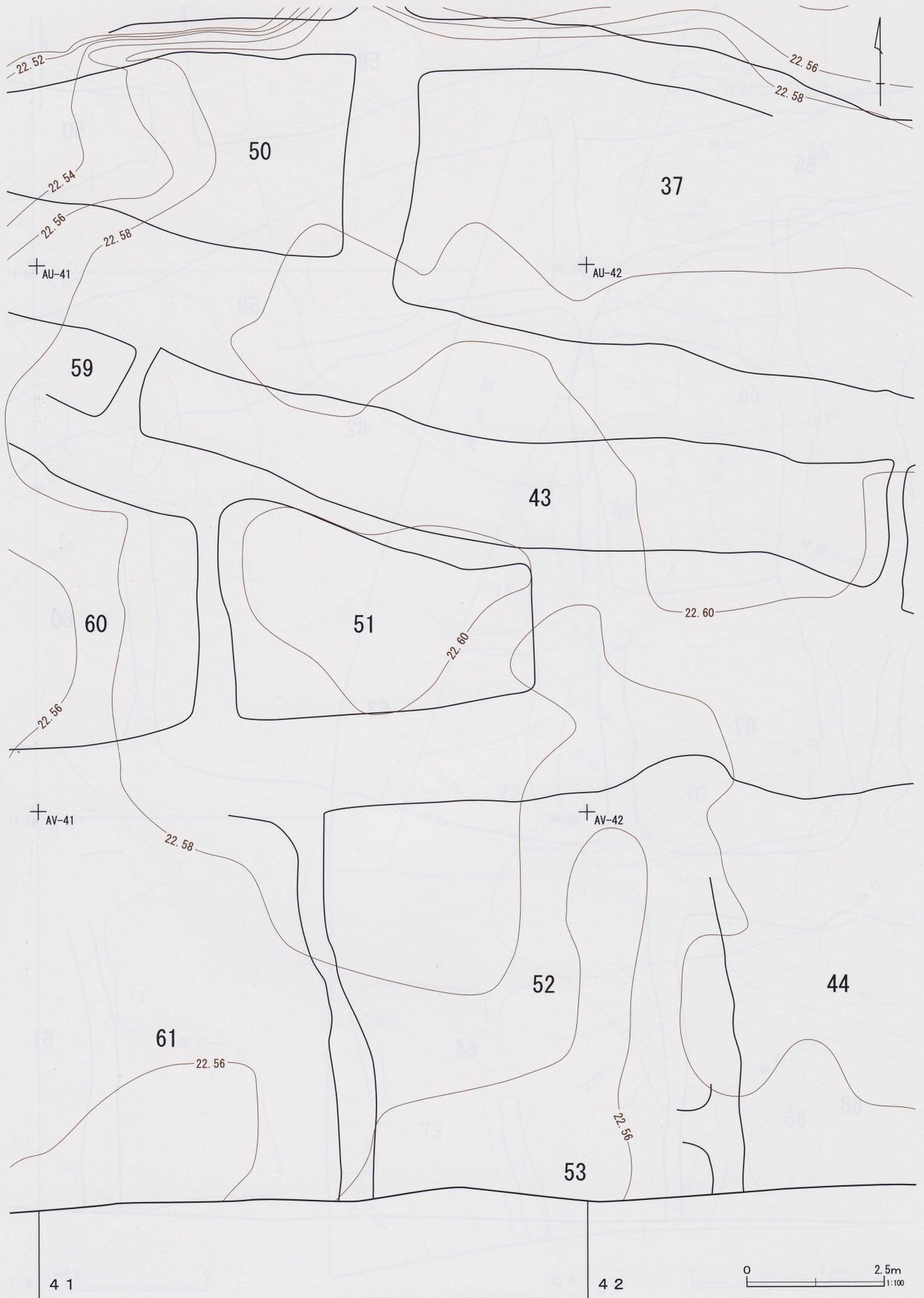
第206図 A区水田跡 (15)



第207図 A区水田跡 (16)



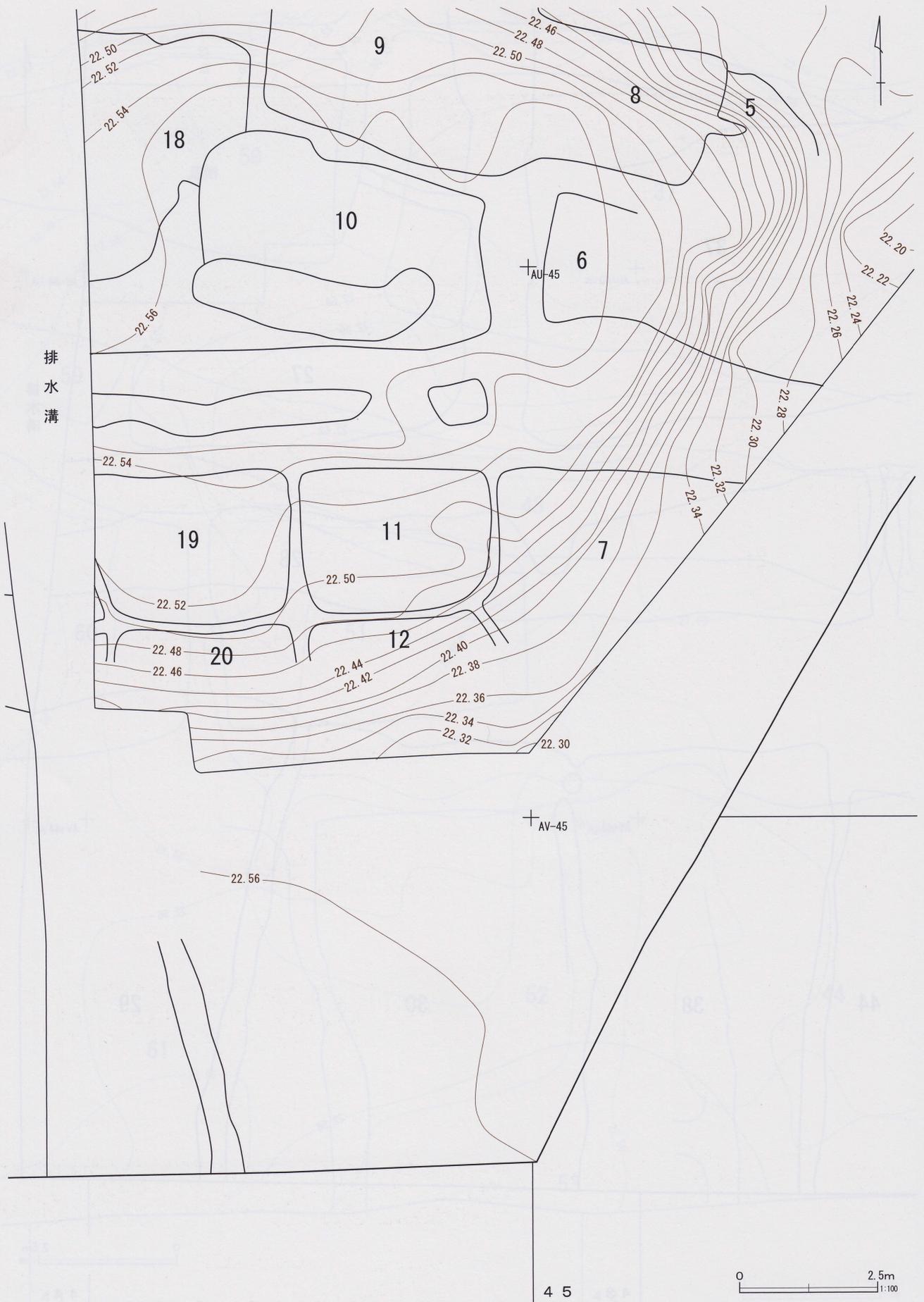
第208图 A区水田跡 (17)



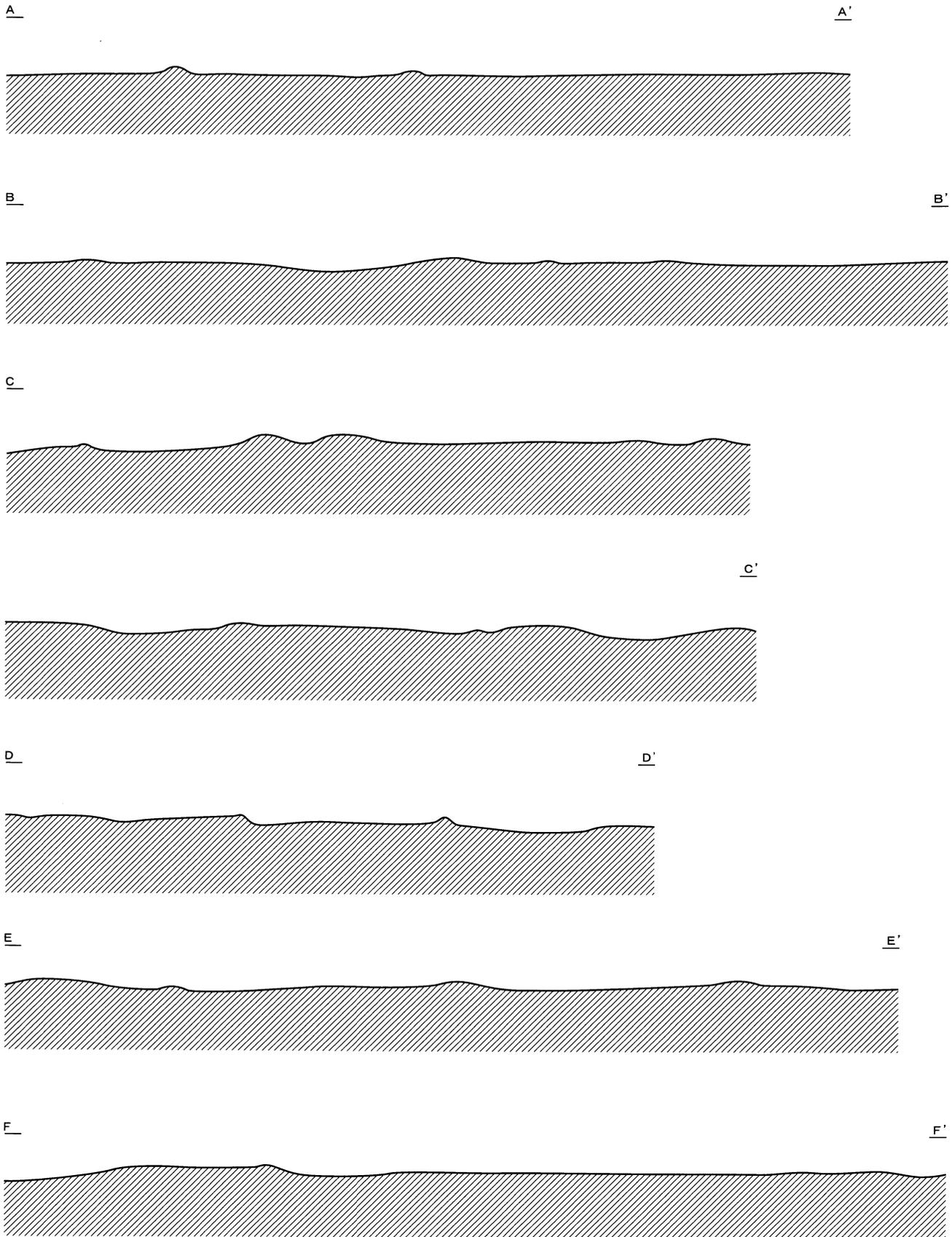
第209図 A区水田跡 (18)



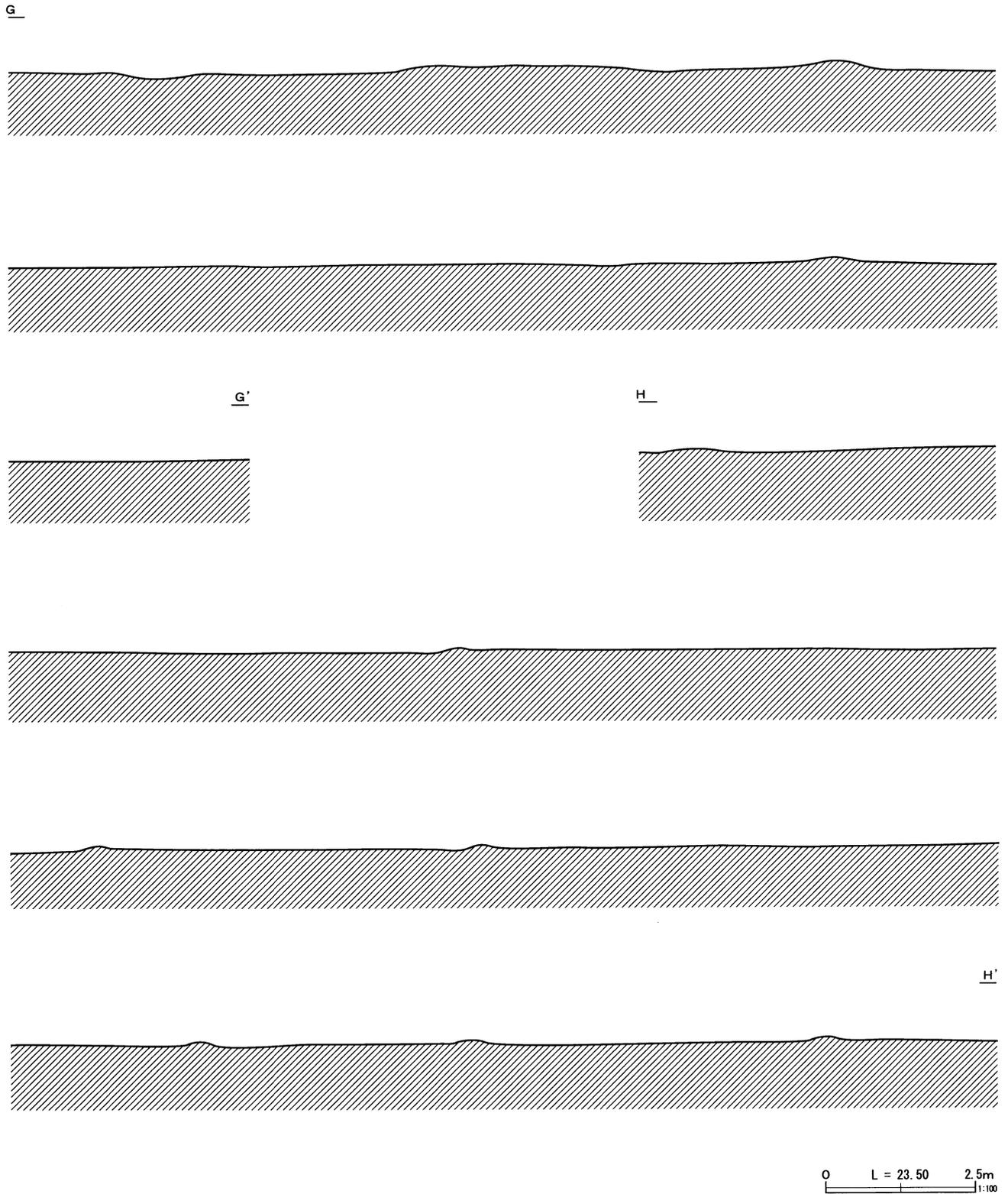
第210図 A区水田跡 (19)



第211图 A区水田跡 (20)



第212図 A区一面水田跡エレベーション図(1)



0 L = 23.50 2.5m
1:100

第213図 A区一面水田跡エレベーション図(2)

る。

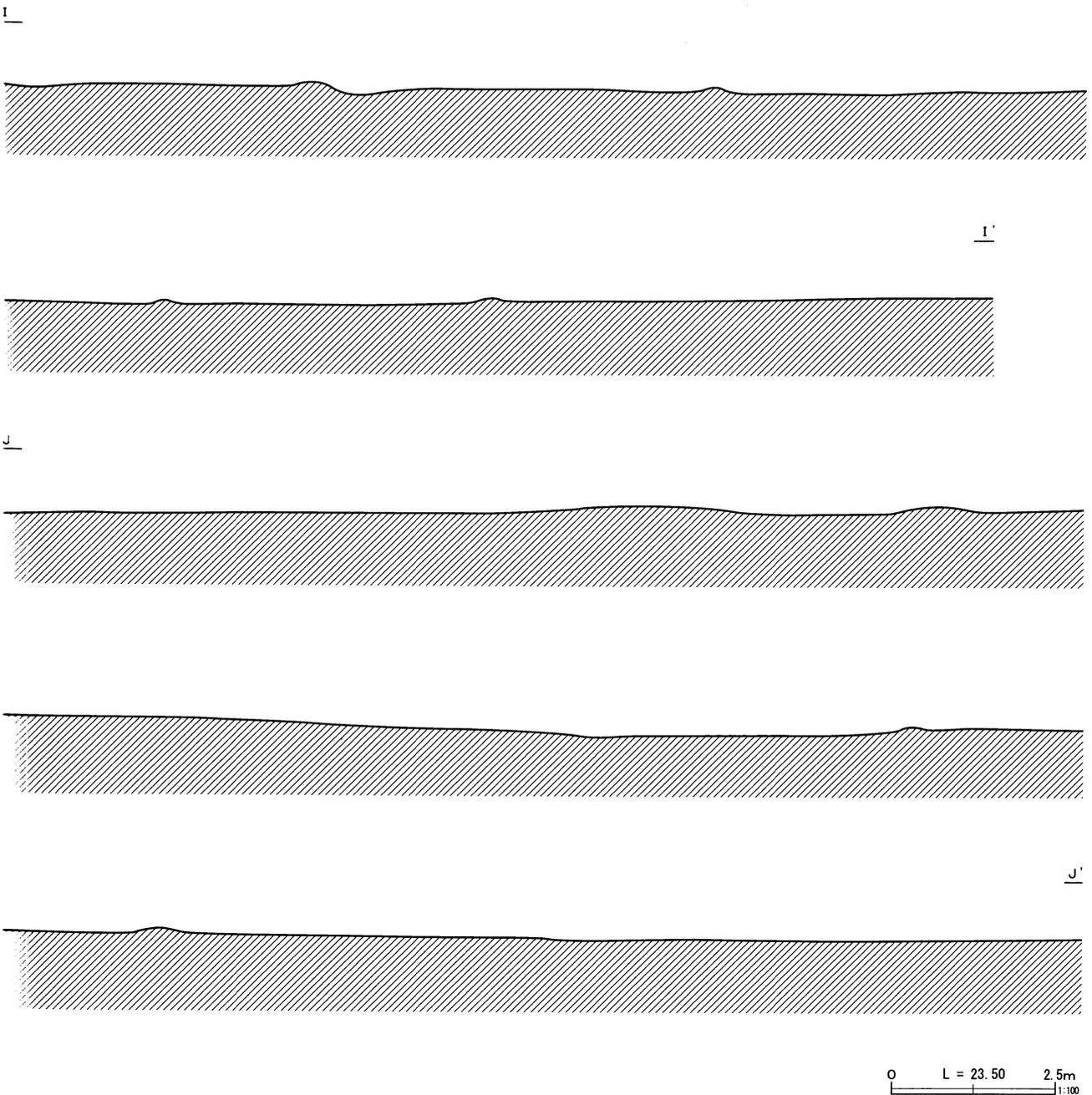
第17区画：規模は、東西(6.2)m、南北(2.4)m、面積(14.9)m²である。第17区画の北畦・南畦は、第12区画のものと直線的に連結する。

東に位置する第5・10区画の南畦とは一直線には連結せず、第1・6区画の南畦と一致している。畦の遺存状況が悪いため、水口の切れ間は確認されなかった。第6・11・12・16・17区画は、形状・規模

が近いと考えられる。

第18区画：検出し得た範囲内での規模は、東西(6.6)m、南北7.2m、面積(47.5)m²であるが、すでに述べた理由から、二区画分との可能性を考えたい。畦の遺存状況が悪いため、水口の切れ間は確認されなかった。

第4・9・14・19・23区画の南畦は、やや西に振れた状態で、直線状に連結している。



第214図 A区一面水田跡エレベーション図(3)

第20区画の南畦は、概ね第5・10区画の南畦との連続性が推定される。また、第25区画の南畦については、第12・17区画の南畦との連続性が想定される。西側では、畦の痕跡の遺存度が低いためか、東側よりも企画性がややみえづらいいえる。東側については、とくに南北方向の畦の通りが良いといえよう。

また、東西方向の畦についても、各水田区画が個々に隣接する区画とズレている場合でも、別の畦と一致しており、規格(条理)に則った範囲内での畦の設定を行っていることが読み取れる。

畦の幅は、20～100cmであるが、40～60cmのものが多い。

水口と推定される切れ間は検出されていない。また、遺物は出土しなかった。

その2 (一面)

一面において報告する水田跡は、天仁元年(1108年)に降灰した浅間B軽石を被ったもので、F区を除いたA～E区で検出されている。

その時期、この一帯は水田域になっていたことを窺わせる。検出された水田区画(坪)はA区が84区画、

B区が104区画、C区が132区画、D区が18区画、E区が30区画の計368区画である。

A区水田跡 (第189～214区)

第17地点東側で検出された。一面A区は、地形的には、概ね西から東へと緩やかに下っていく。畦の遺存状況にばらつきがあるが、A区全域が水田域であったことが読み取れる。

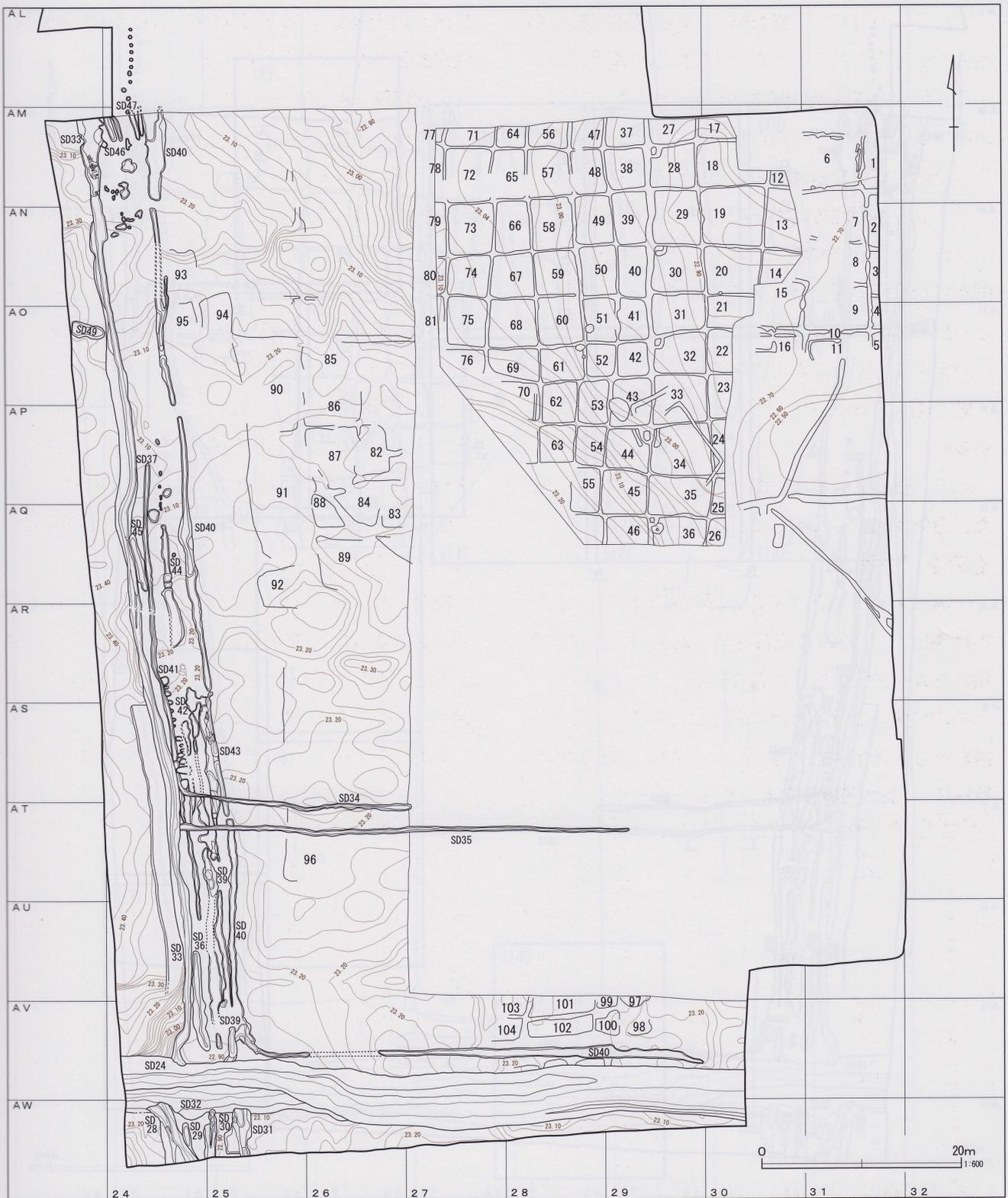
水田面の検出標高は22.32～22.88mである。標高の、最高地点から最低地点までの距離は約37m、高低差は56cm、傾斜率は1.5%である。因みに、二面A区水田面では1.1%、B区では0.9%、一面での各水田面の傾斜率は、B区1.6%、C区0.5%と0.7%で全体的には1.1%、D区0.95%、E区0.8%である。一面A区の傾斜率は、一面B区と同様に、傾斜率が高いといえる。

概ね、F区側のA区中央から、南東部へと谷地形が続き、さらに第18地点方向へと広がっていたと思われる。なお、第18地点は、水田化する以前は、沼沢であったことが判明している。

第28・51・60・63・67・70・72区画の南畦はN一

第31表 A区水田跡計測表 (第189～214区)

水田番号	長辺(m)	短辺(m)	面積(m ²)	水田番号	長辺(m)	短辺(m)	面積(m ²)	水田番号	長辺(m)	短辺(m)	面積(m ²)
1	(7.7)	-	-	29	-	-	-	57	-	-	-
2	(9.0)	(4.0)	(36.0)	30	5.5	-	-	58	-	-	-
3	-	-	-	31	-	-	-	59	2.5	(1.2)	(3.0)
4	-	-	-	32	(4.0)	-	-	60	5.6	4.3	24.1
5	-	-	-	33	5.5	-	-	61	6.2	-	-
6	-	(1.8)	-	34	15.0	-	-	62	7.4	-	-
7	-	(2.4)	-	35	(11.2)	4.0	(44.8)	63	8.2	-	-
8	(3.2)	2.3	(7.4)	36	11.2	(2.4)	(26.9)	64	9.9	-	-
9	(4.6)	3.6	(16.6)	37	15.4	(4.0)	(61.6)	65	2.3	-	-
10	5.0	2.6	13.0	38	4.2	-	-	66	6.7	(5.8)	(38.9)
11	3.3	2.3	7.6	39	(10.2)	-	-	67	(4.2)	(3.2)	(13.4)
12	(2.8)	-	-	40	4.4	-	-	68	9.6	-	-
13	-	-	-	41	(8.3)	-	-	69	(5.5)	(3.6)	(19.8)
14	3.7	-	-	42	-	-	-	70	(5.0)	(3.3)	(16.5)
15	3.7	-	-	43	13.6	1.2	16.3	71	-	-	-
16	(3.5)	-	-	44	3.8	-	-	72	(4.0)	-	-
17	3.7	-	-	45	(9.4)	-	-	73	2.1	-	-
18	(4.4)	-	-	46	2.6	-	-	74	5.6	-	-
19	(3.3)	2.4	(7.9)	47	6.9	-	-	75	5.8	3.0	17.4
20	(2.8)	-	-	48	-	-	-	76	5.0	-	-
21	9.5	-	-	49	-	-	-	77	-	-	-
22	-	-	-	50	7.4	1.1	8.1	78	3.5	-	-
23	5.3	-	-	51	5.4	2.0	10.8	79	-	-	-
24	7.5	-	-	52	(6.2)	(5.8)	(36.0)	80	8.2	7.5	61.5
25	(9.0)	-	-	53	5.8	-	-	81	(8.2)	(5.5)	(45.1)
26	(14.2)	-	-	54	-	-	-	82	2.5	-	-
27	4.5	-	-	55	7.8	-	-	83	(6.7)	(6.2)	(41.5)
28	2.6	-	-	56	(10.5)	-	-	84	(9.5)	-	-



第215図 B区一面水田跡等高線

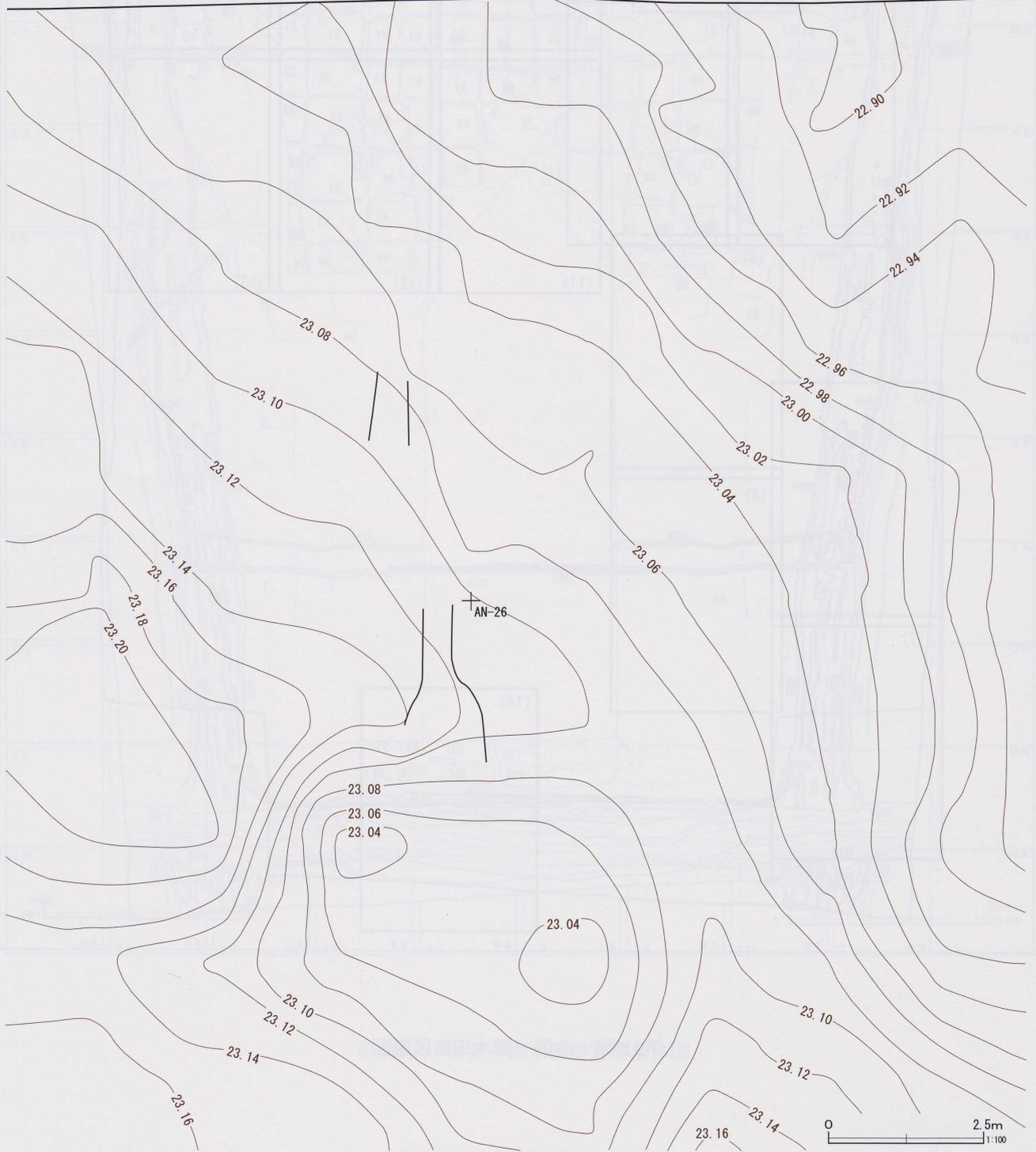


第216図 B区一面水田跡遺構全体図



第217图 B区一面水田迹区割图

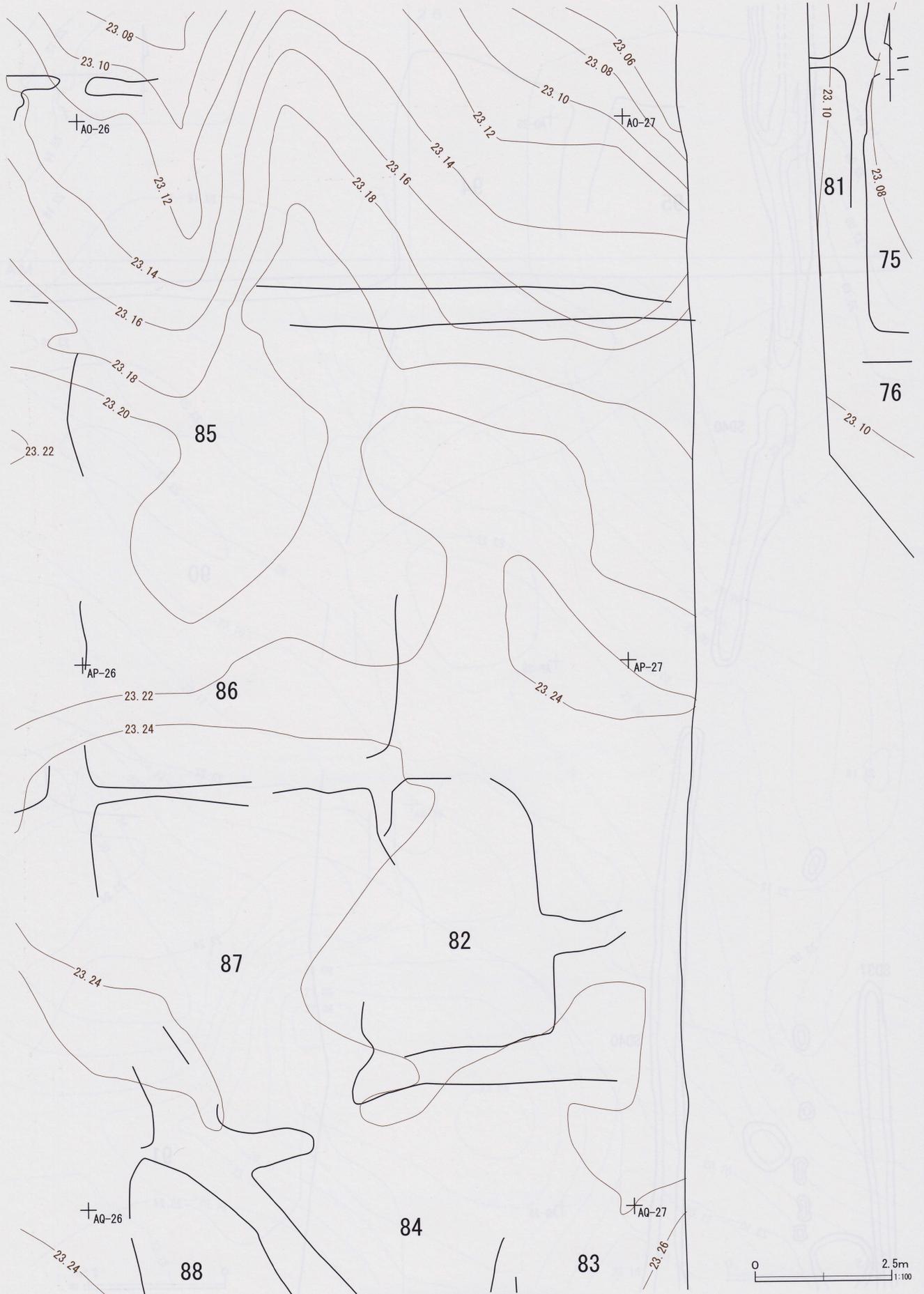
AM



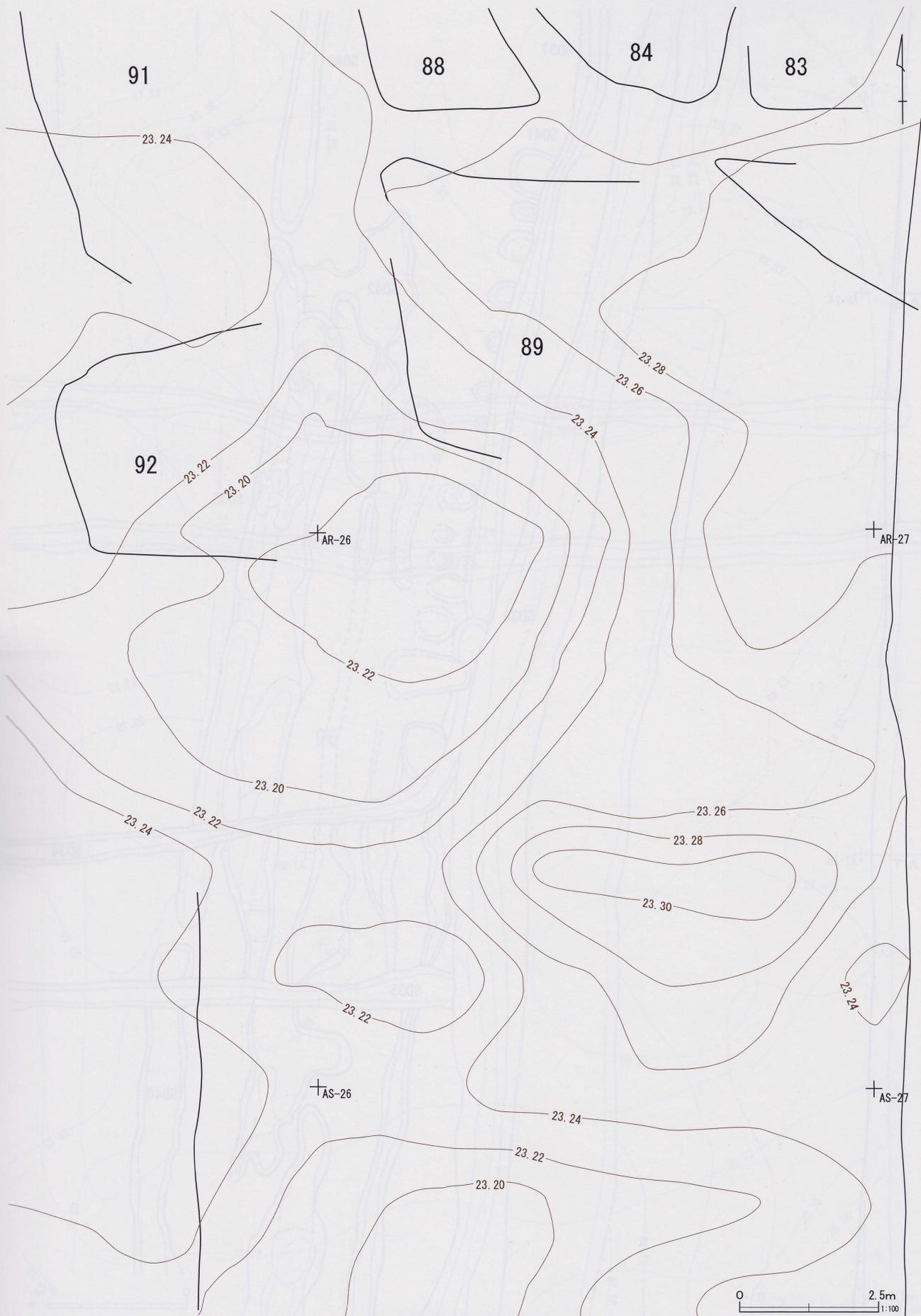
第218图 B区水田跡 (1)



第219图 B区水田跡 (2)



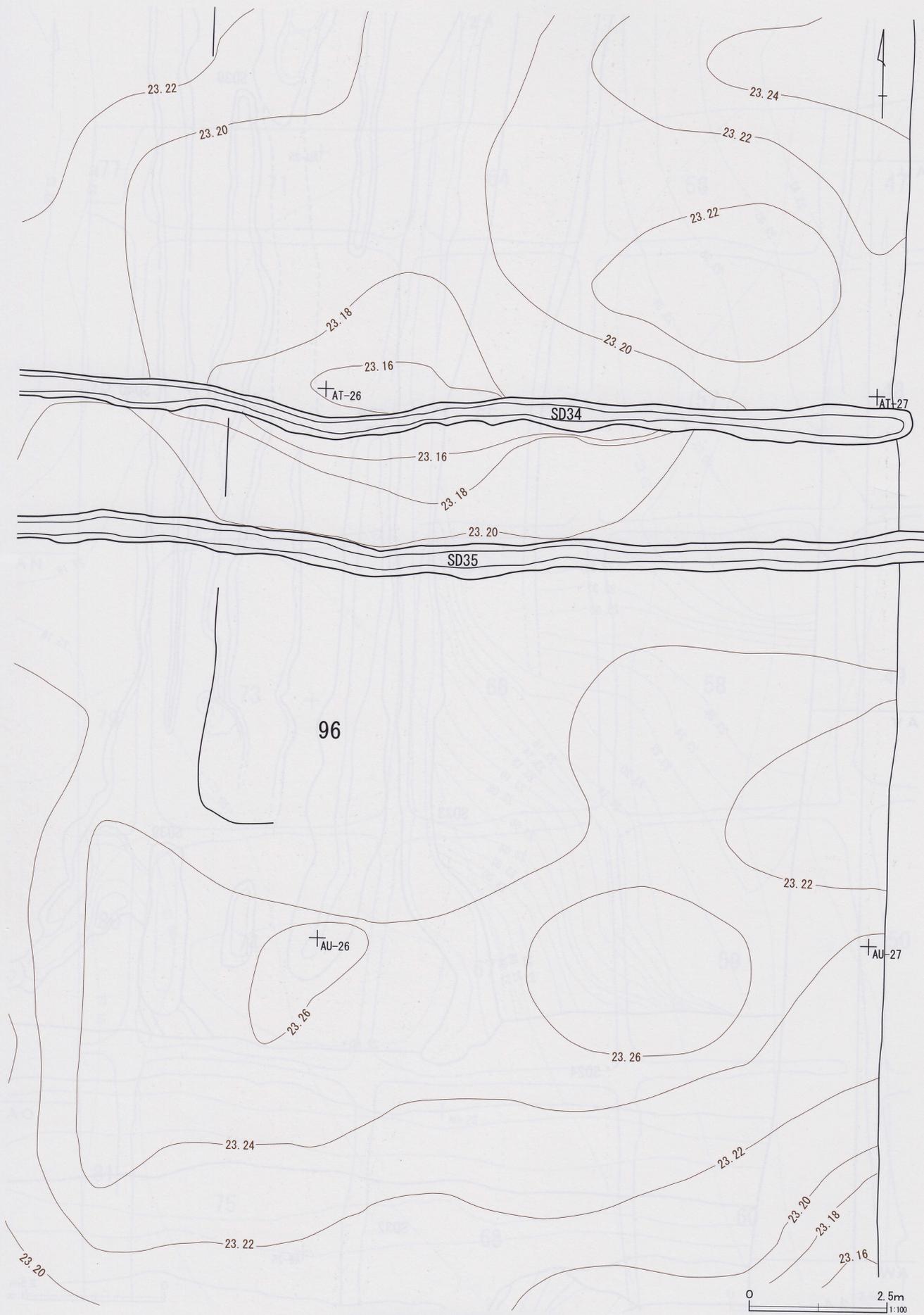
第220图 B区水田跡 (3)



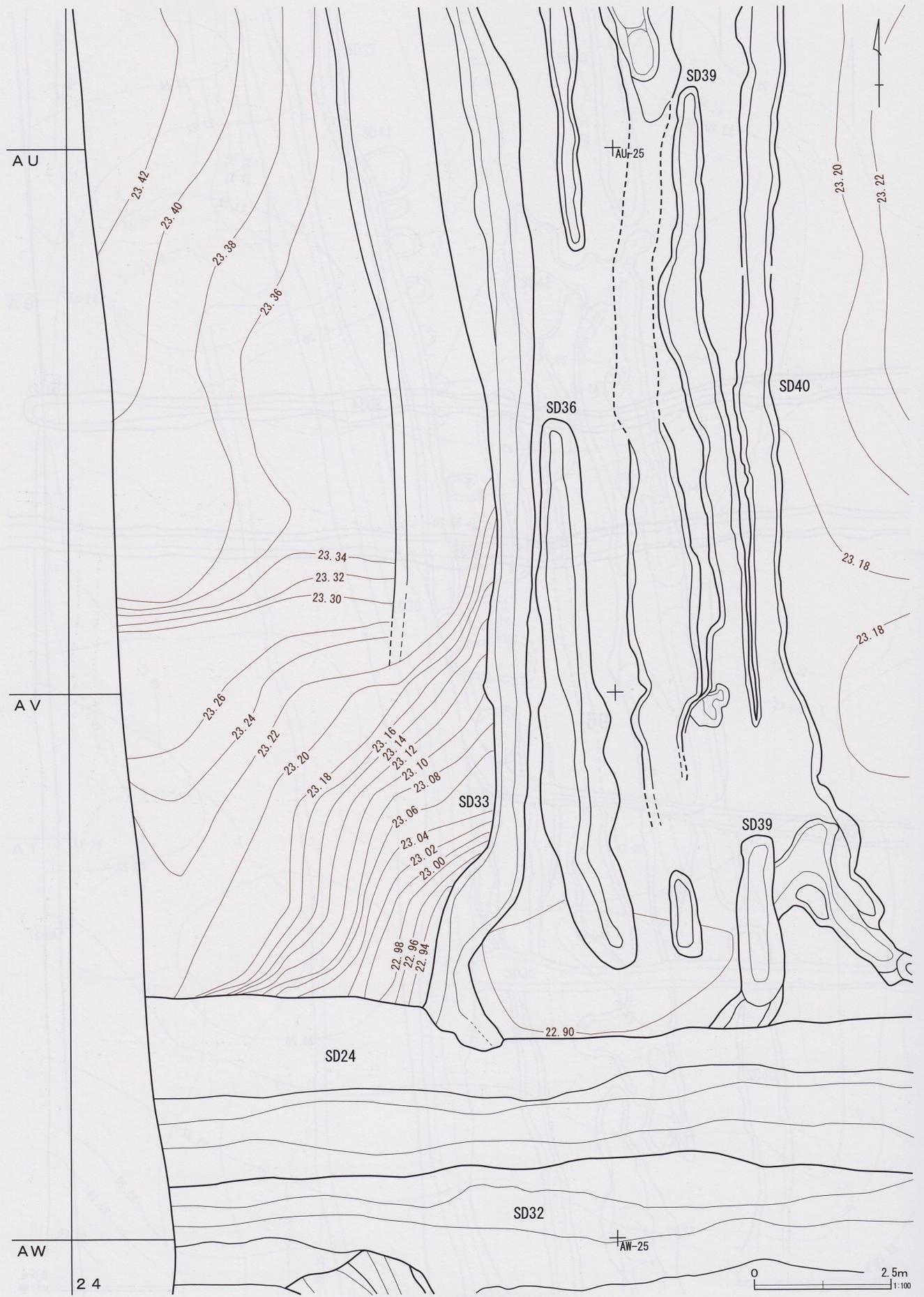
第221图 B区水田迹 (4)



第222図 B区水田跡 (5)



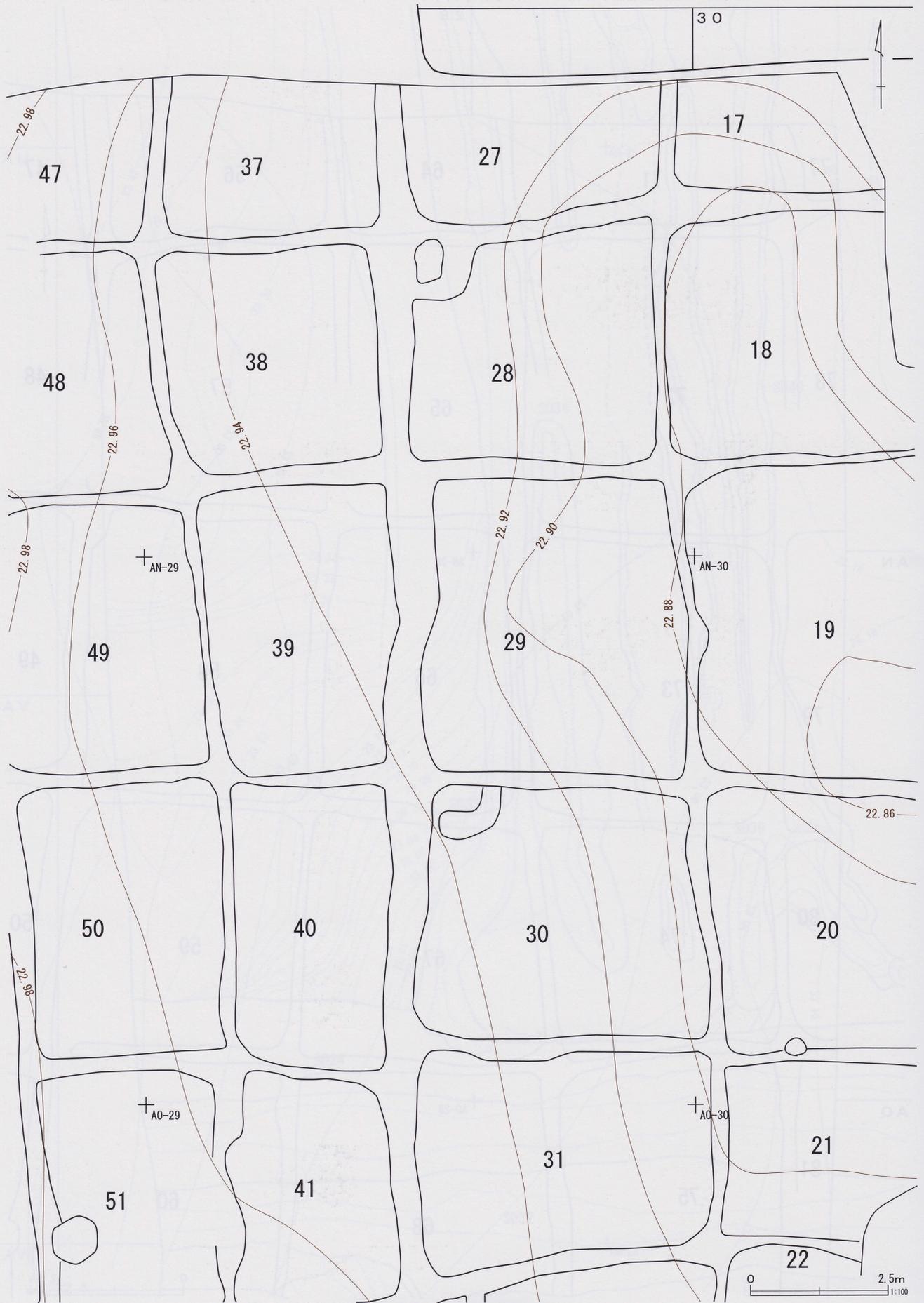
第223图 B区水田跡 (6)



第224图 B区水田跡 (7)



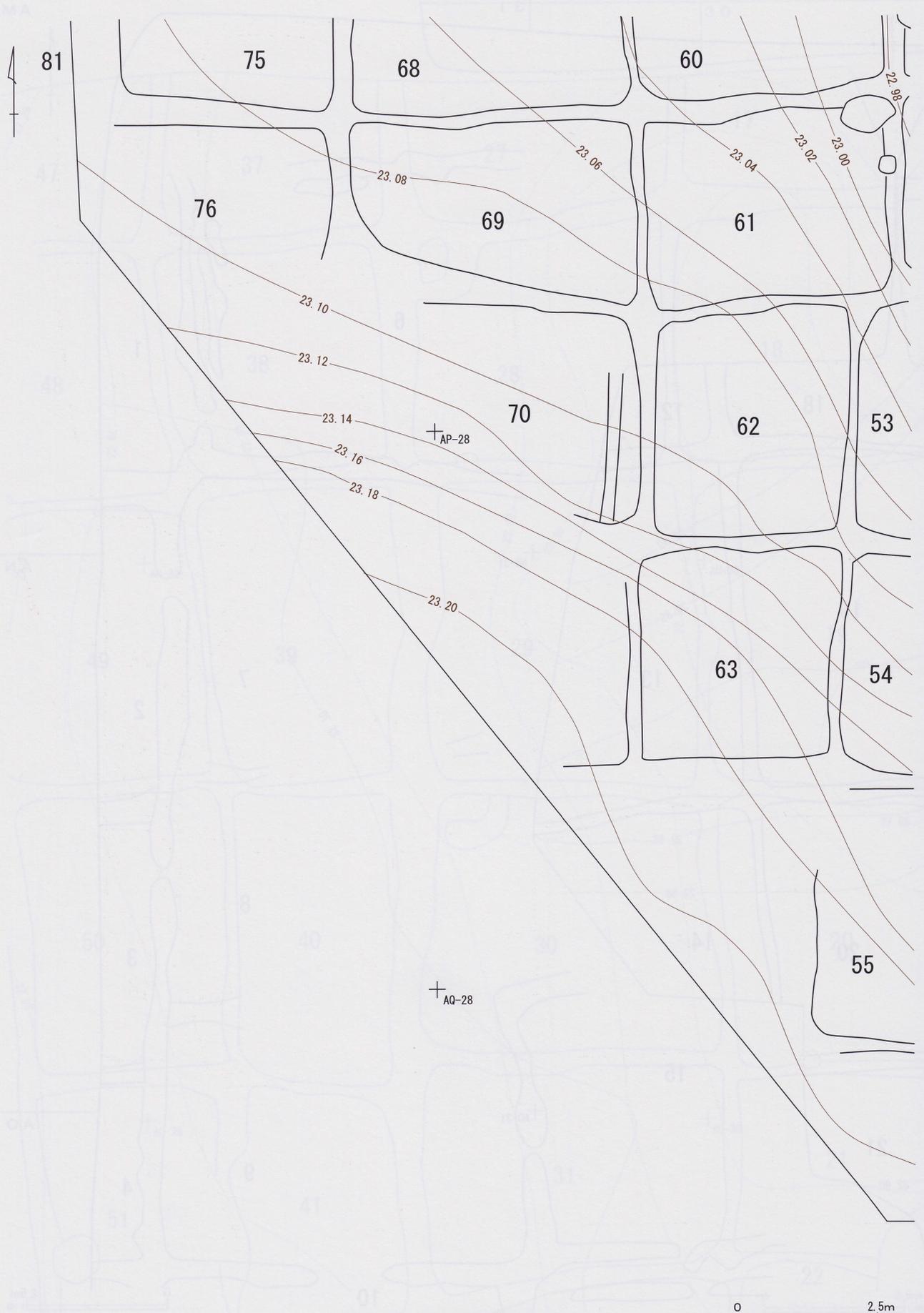
第225图 B区水田跡 (8)



第226图 B区水田跡 (9)



第227图 B区水田跡 (10)



第228図 B区水田跡(11)

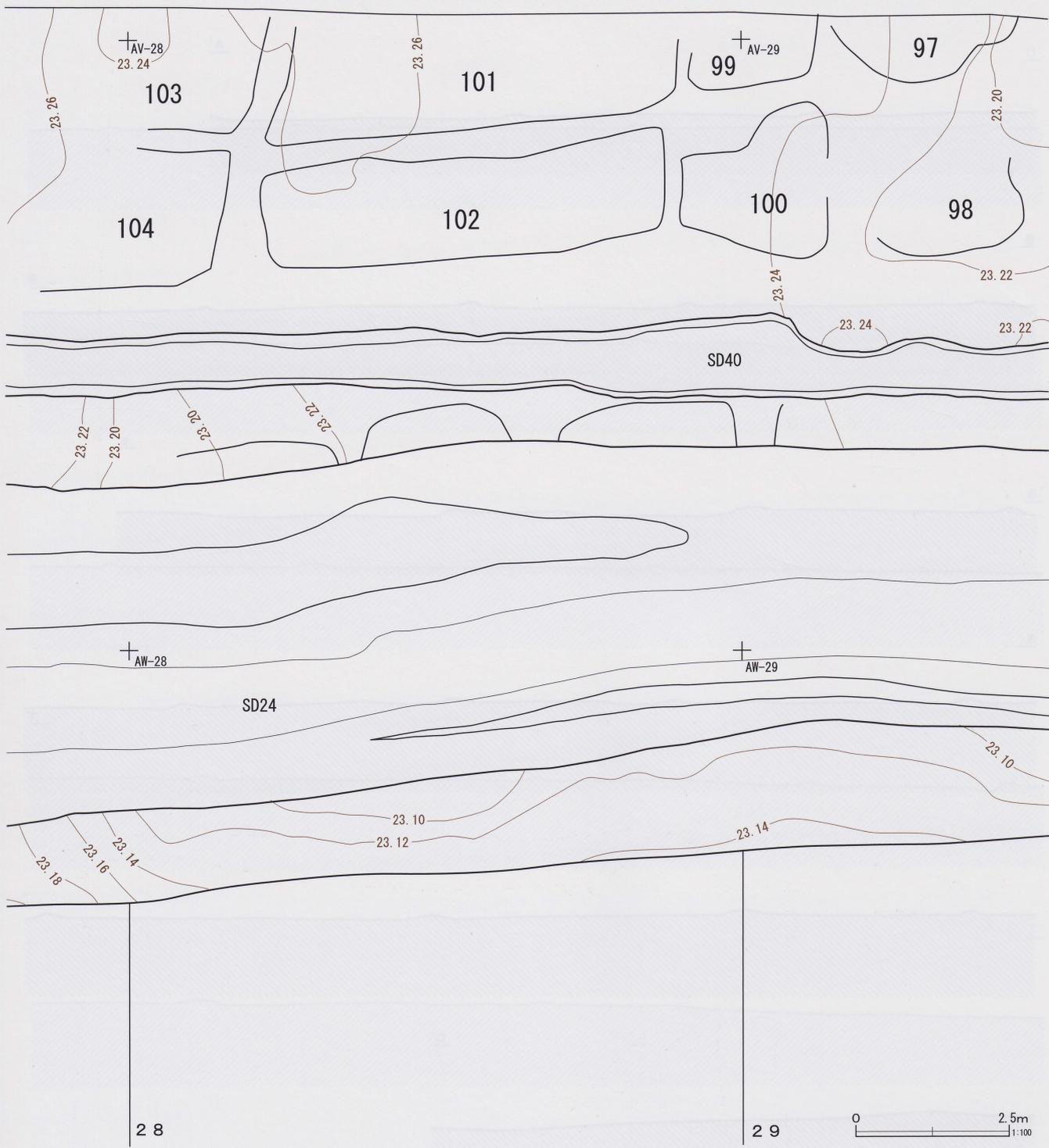


第229图 B区水田跡 (12)

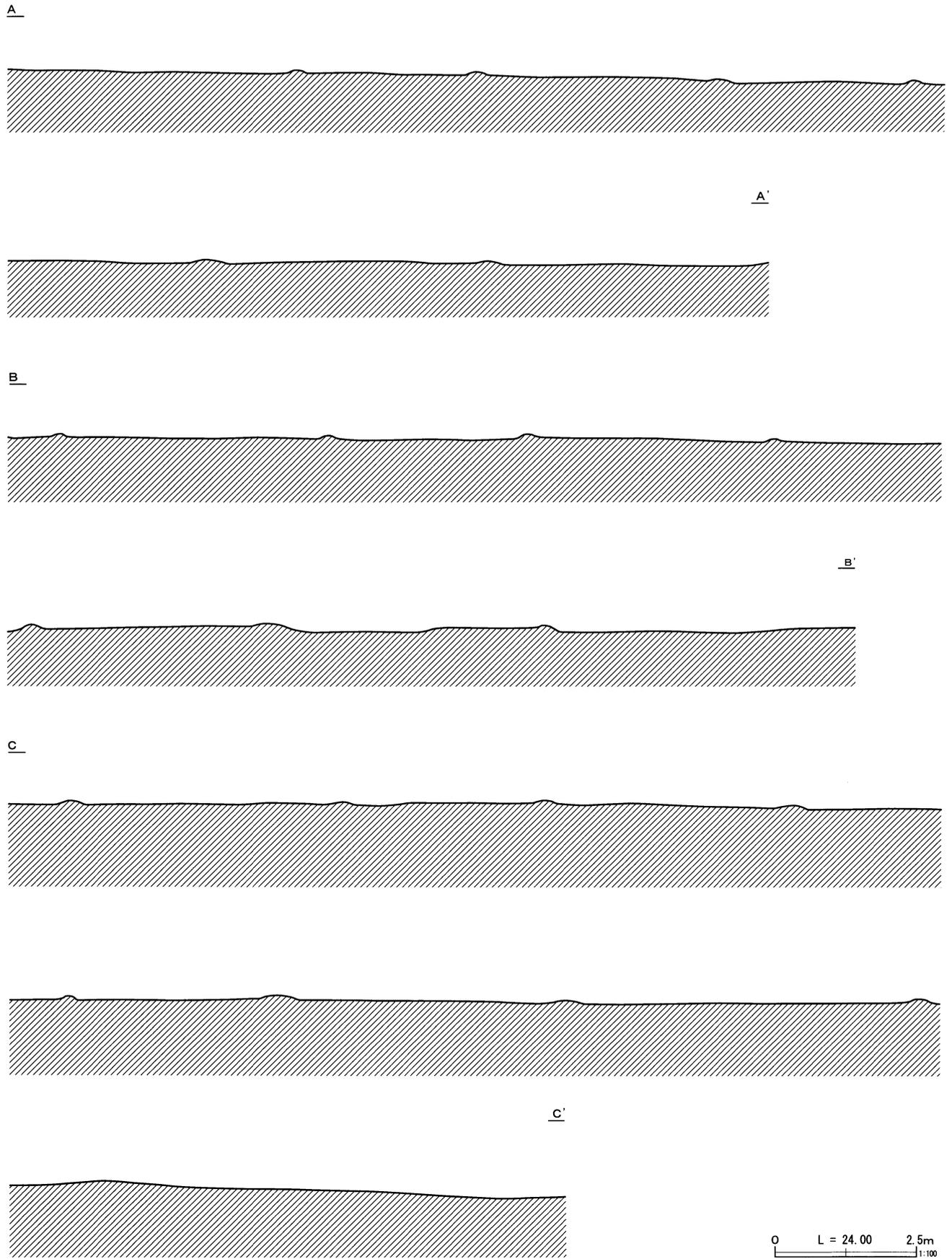




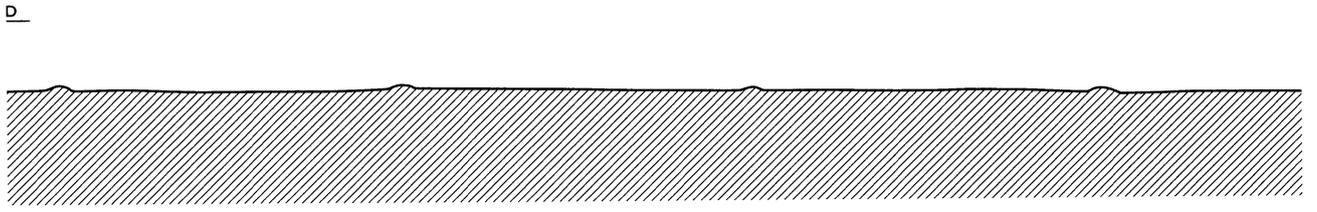
第230图 B区水田迹 (13)



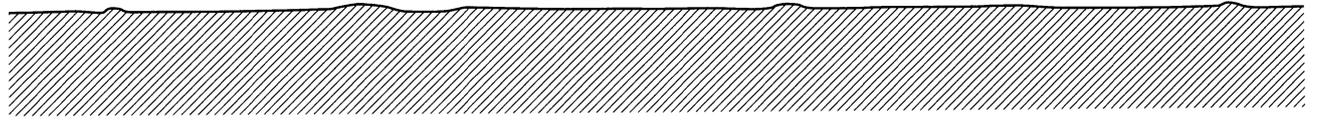
第231图 B区水田跡 (14)



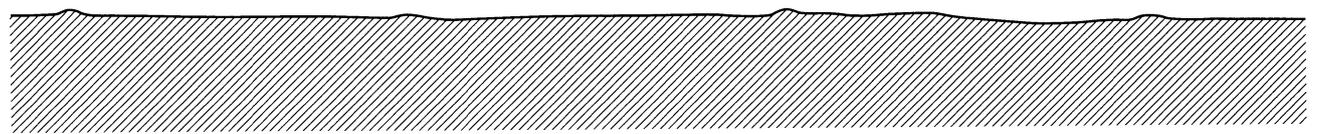
第232図 B区水田跡エレベーション図(1)



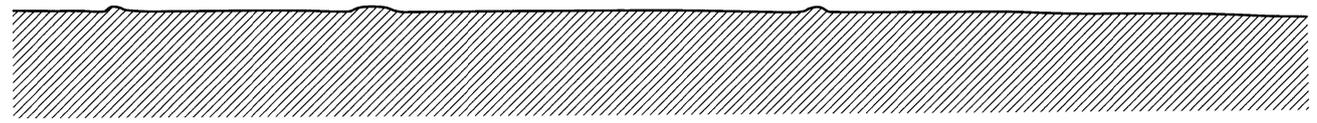
D'



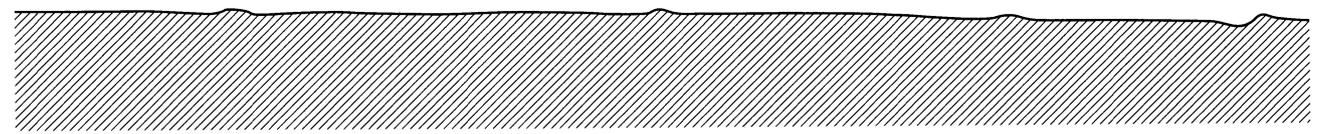
E



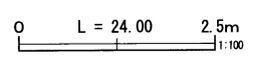
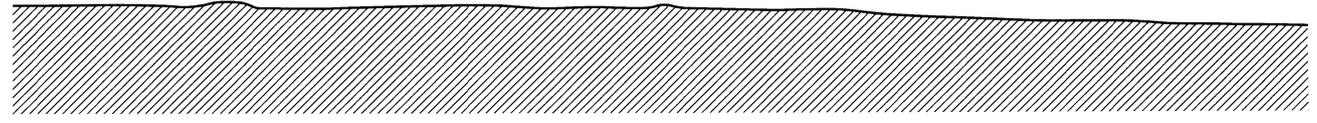
E'



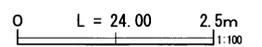
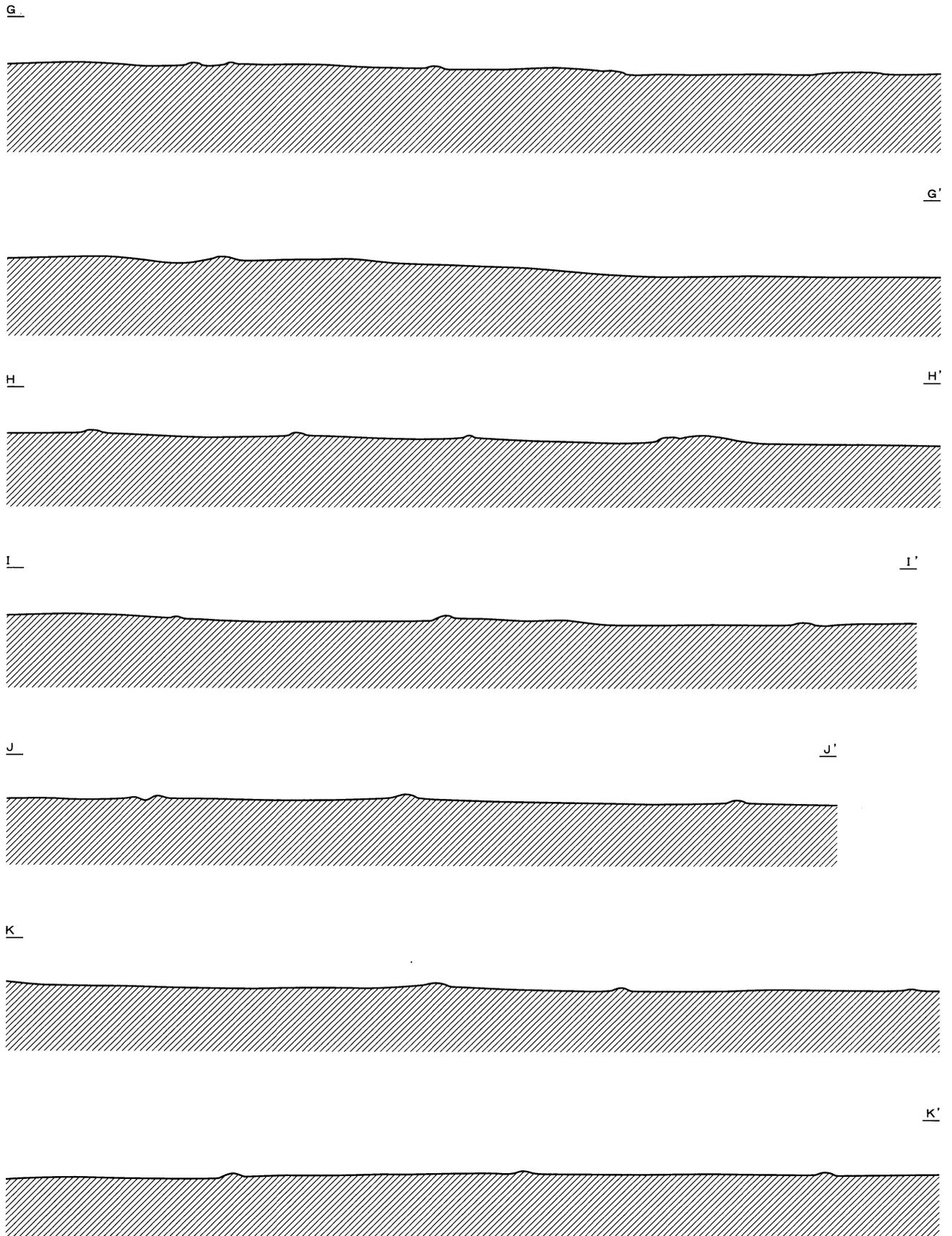
F



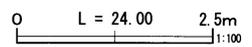
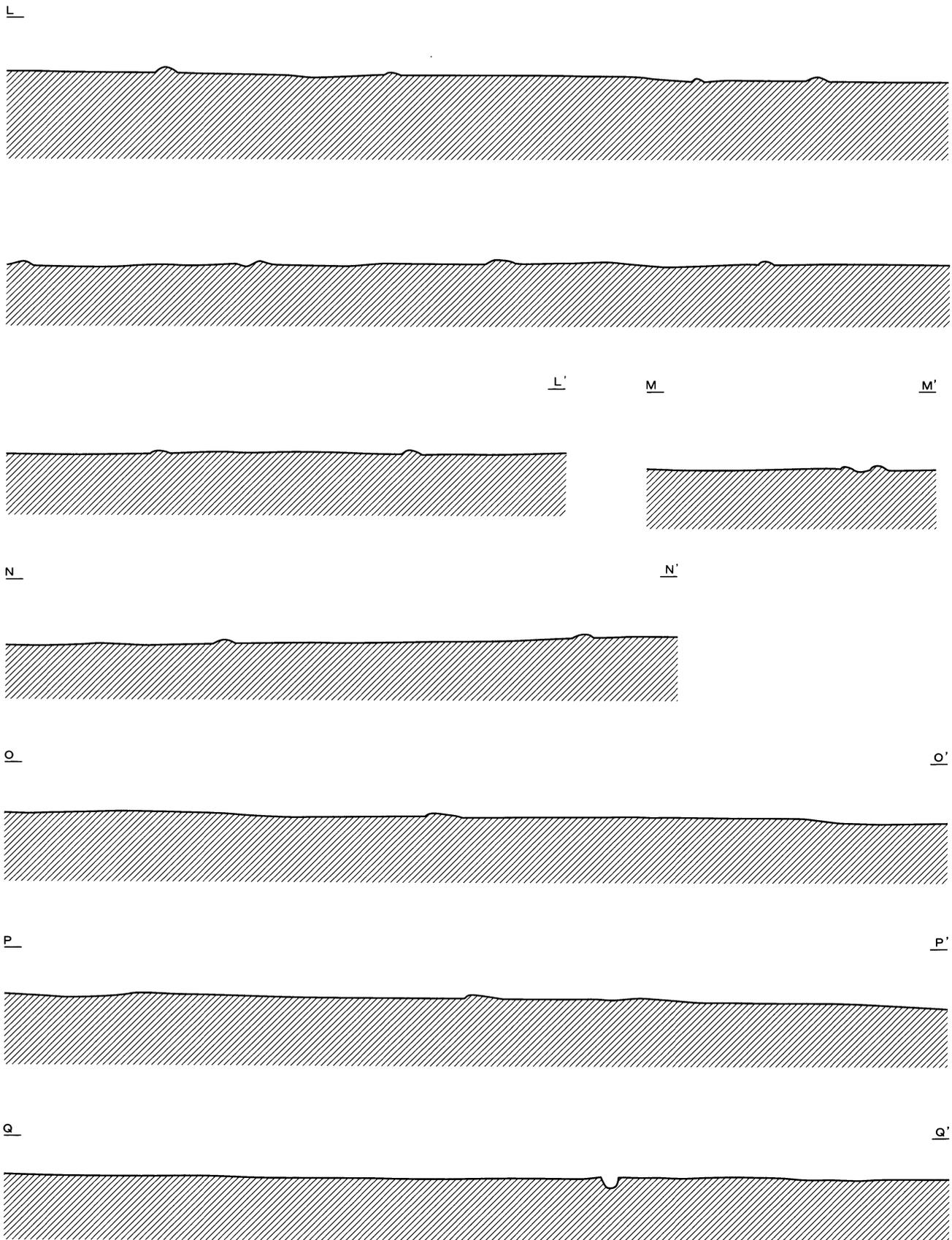
F'



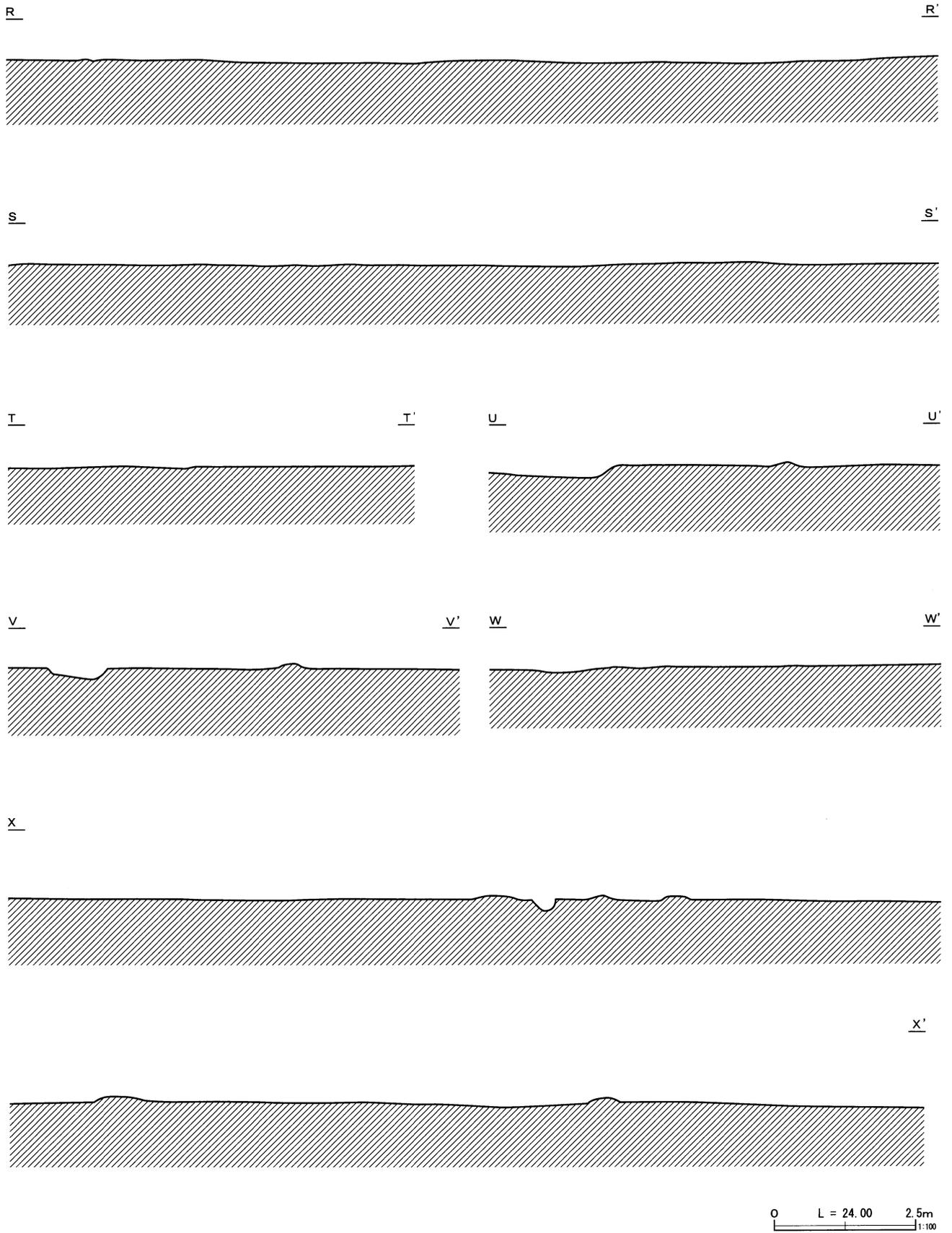
第233図 B区水田跡エレベーション図(2)



第234図 B区水田跡エレベーション図 (3)



第235図 B区水田跡エレベーション図(4)



第236図 B区水田跡エレベーション図(5)

85°-Eの方位を指すが、他の畦よりも幅広である。

畦の痕跡が、当時の幅をそのまま反映するものではないとしても、同様な、もしくはそれに近い風化、または変化を遂げていると推測される。

換言するならば、風化などによって痕跡が薄れ、幅が狭くなるとすれば、その度合いも近い変化をす
ると思われる。現状においては、他の畦の幅が30~50cmであるのに対して、この幅広の畦では110~190cmを測り、明らかに規模が大きいといえる。

また、B・C区間を東西に走る第78・79号溝跡は、坪界溝と推定されるが、この幅広の畦は、ほぼその延長線上に位置している。この畦の規模・位置からみて、第6・10号坪型区画跡の坪界に相当する大畦と推定される。

しかし、第27・37・50・58区画の南畦の幅も、100~190cmと上記の大畦同様に幅広である。方位は

やや北に振れるが、或いはこちらが大畦の可能性も否定できない。因みに、この畦の方位はN-80°-Wを指し、両畦には15°の開きがある。これらの畦の方位からみて、第11・12・19・20区画付近で合流すると考えられるが、畦の痕跡は認められなかった。第11・19区画は大畦に接する位置に該当するのであ
ろうか。

その場合は、大畦と重なることはないが第27・37・50・58区画の南畦の通る位置になると思われる。第11・12・19・20区画と、二つの畦には時期差があると考えられるが、水田区画が大畦を切っている
であろうか。

この本来、扇状に交わるべき位置関係にある二つの畦に挟まれた水田区画は、第28・43・51・59・60・62・63・65区画である。これらは、当然の結果として変則的な形状とならざるを得ないし、事実そ

第32表 B区水田跡計測表 (第215~236区)

水田番号	長辺(m)	短辺(m)	面積(m ²)	水田番号	長辺(m)	短辺(m)	面積(m ²)	水田番号	長辺(m)	短辺(m)	面積(m ²)
1	-	-	-	36	5.2	-	-	71	4.8	-	-
2	5.2	-	-	37	3.7	-	-	72	5.2	4.4	22.9
3	4.3	-	-	38	3.8	3.8	14.4	73	5.2	4.4	22.9
4	3.2	-	-	39	5.2	3.2	16.6	74	4.2	4.0	16.8
5	-	-	-	40	5.0	2.8	14.0	75	4.8	4.0	19.2
6	5.0	-	-	41	4.1	2.8	11.5	76	-	-	-
7	5.0	-	-	42	3.2	3.0	9.6	77	-	-	-
8	3.8	-	-	43	4.6	3.8	17.5	78	-	-	-
9	6.3	4.3	27.1	44	4.2	3.8	16.0	79	5.4	-	-
10	6.1	-	-	45	4.4	4.4	19.4	80	3.2	-	-
11	5.8	-	-	46	4.0	-	-	81	-	-	-
12	-	-	-	47	3.1	-	-	82	5.0	2.5	12.5
13	6.0	-	-	48	4.4	3.0	13.2	83	4.8	-	-
14	-	-	-	49	4.8	3.6	17.3	84	4.5	-	-
15	4.4	-	-	50	4.8	3.4	16.3	85	-	-	-
16	2.5	-	-	51	4.2	2.8	11.8	86	5.8	-	-
17	-	-	-	52	3.1	2.7	8.4	87	6.0	4.0	24.0
18	4.4	-	-	53	4.1	2.8	11.5	88	3.4	2.8	9.52
19	6.0	5.8	34.8	54	3.8	2.8	10.6	89	5.0	-	-
20	5.4	4.5	24.3	55	4.5	2.9	13.1	90	(9.2)	(6.7)	(61.6)
21	3.0	-	-	56	3.7	-	-	91	-	-	-
22	4.2	-	-	57	4.5	3.7	16.7	92	4.0	-	-
23	4.2	-	-	58	5.1	4.0	20.4	93	-	-	-
24	5.4	-	-	59	4.4	4.2	18.5	94	3.0	-	-
25	3.6	-	-	60	4.8	4.4	21.1	95	-	-	-
26	-	-	-	61	4.2	3.2	13.4	96	-	-	-
27	4.2	-	-	62	4.0	3.4	13.6	97	-	-	-
28	4.2	3.8	16.0	63	3.8	3.4	12.9	98	(2.6)	-	-
29	5.2	4.6	23.9	64	2.6	-	-	99	2.0	-	-
30	5.0	4.6	23.0	65	5.0	3.1	15.5	100	2.5	2.2	5.5
31	5.4	3.8	20.5	66	5.2	3.4	17.7	101	6.5	-	-
32	5.2	3.8	19.8	67	4.2	4.2	17.6	102	6.6	1.7	11.2
33	5.1	4.7	24.0	68	4.8	4.6	22.1	103	-	-	-
34	5.9	5.1	30.1	69	5.0	2.8	14.0	104	2.0	-	-
35	6.3	3.6	22.7	70	3.6	-	-				

ういった形状で検出されている。検出された形状が、当時の形状をそのまま伝えているとまではいえないが、変則的形状であるとまでは判断できる。

別な表現を用いるならば、両畦は同時に存在していたために、その範囲内の水田は変則的な区割りを行わざるを得なかった、ということを示しているとも考えられる。なお、この大畦と直行関係にある大畦として、第18地点の第718～746区画の西畦が考えられる。第18地点における水田跡の畦の幅は、30～50cmのものが多いのに比べ、この幅広の畦は60～100cmを測る。

A区の第5～12・18～20区画についても、変則的な区画となっている。これらの水田区画の位置する範囲は、谷地形が大きく開く肩の部分に相当しており、高低差が大きな部分である。第18区画と、第5区画の距離は9m程であるが、高低差は約30cm(傾斜率3.3%)である。

そのため、各水田を小区画にして高低差を緩和した結果と推定される。即ち、微地形の制約によるものといえる。第13～17区画についても、局地的にみれば、谷地形に望む肩の部分に当るために、他の水田区画とは異なる小規模なものとなったと思われる。

第22～27区画の西畦は、N-3°-Wの方位で、約58mに亘って確認されているが、畦の通りは良好で、南に位置するD区にまで及んでいる。

畦畔の並びを概観すると、南北方向は規則的な距離を置いて配置されていることから、条里の坪型区画の坪界溝に沿った方位であることが分かる。これに対して、東西方向については変則的な例も散見される。

地形的制約によって変則的な形状となった例と、扇状に開いた畦に挟まれた例はここでは措くとして、この二つの畦の北側と南側を比べてみたい。

北側では、第21・40・41・45・46区画にみるように、東西に長い水田区画が認められる。これに対して南側では、畦の検出状況をみる限り、南北方向に長いと思われる水田区画から構成されている。

この幅広の畦が坪界境の畦であるとするれば、同じ坪型区画に属することになるD区の水田区画についても、同じことがいえそうである。大畦を境にして、水田の区画が異なる一例といえるのであろうか。しかし、この点を考えるには、畦の遺存状況が悪く無理があるといわざるを得ない。畦の幅は、40～220cmというように開きがあるが、50～70cmのものが多い。

水口を推定させる切れ間は検出されていない。また、遺物は出土しなかった。

A区の水田区画の内、幾つか個別に眺めてみたい。

第6区画：検出し得た範囲では、南北規模は1.8mと推定される。東西に長く、畦の痕跡が確認されているが、途中の南北畦が失われた結果と考えたい。つまり、この水田区画内では、4.5mの距離で34cmの高低差があり、傾斜率は7.6%となる。この高低差で、1区画の水田とするには無理があると思われるためである。

第11区画：規模は、東西3.3m、南北2.3m、面積7.6㎡である。東西に主軸をもつが、短冊形ではなく、比較的正方形に近い長方形を呈する。これは、すでに述べたように微地形に制約された結果であると考えたい。

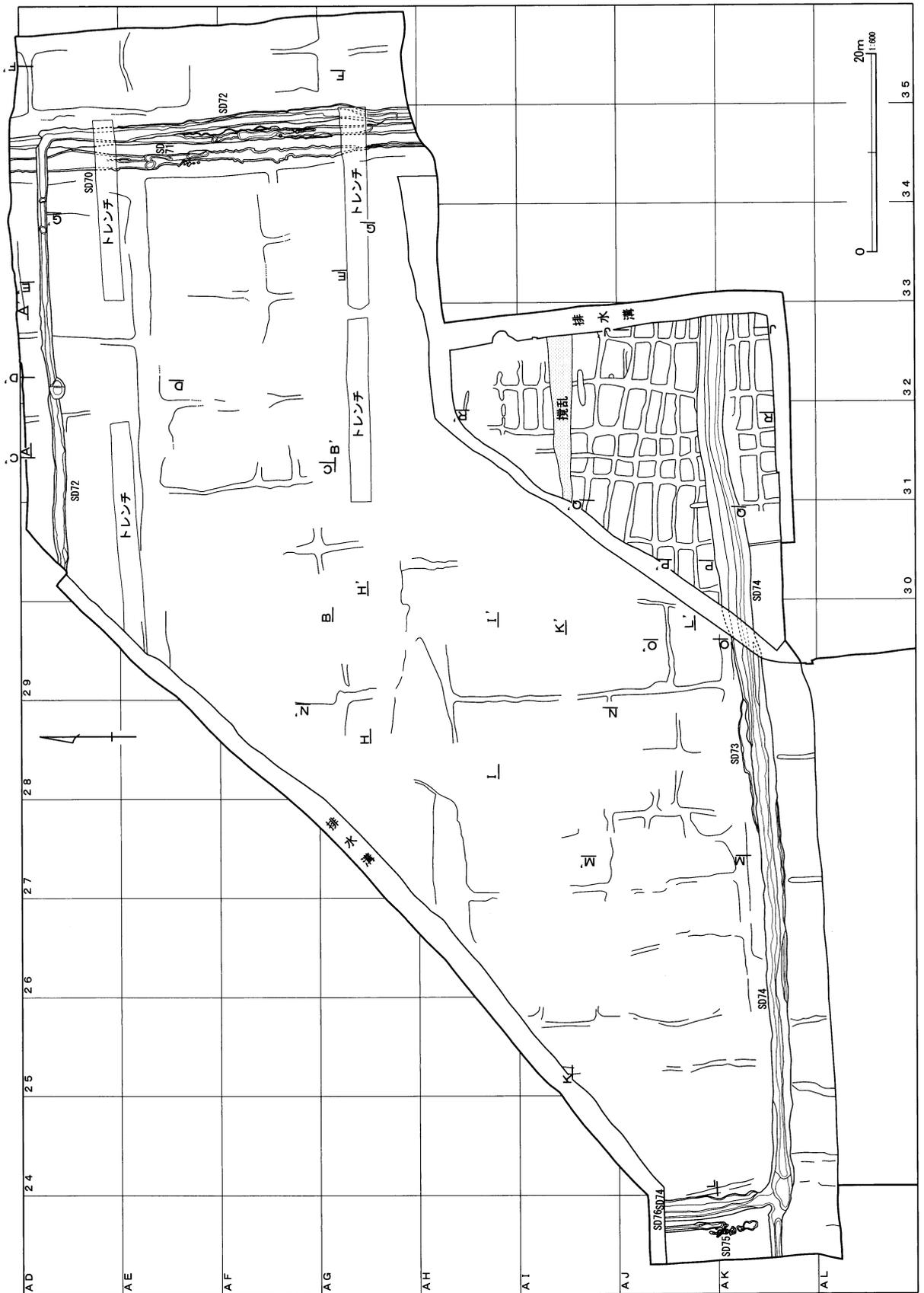
第19区画と共に、第27・37・50・58区画の南畦が通るべき位置に区画されており、これを切っている可能性がある。

第12区画：第11区画の南に隣接している。規模は、東西が3.1mで、南北は0.6mまでの検出にとどまる。形状は、東西に主軸をもつ短冊形を呈すると考えられる。東畦が東に振れているが、等高線と直行する方位を指しており、地形による制約の現われとも考えられる。

この水田区画は、南方向に約3mの距離で、高低差18cm、傾斜率6%となる。これがそのまま当時の傾斜率とは考えにくいだが、他の部分よりは高低差が大きかったと思われる。第20区画と共に、大畦の通るべき位置に区画されており、これを切っている可



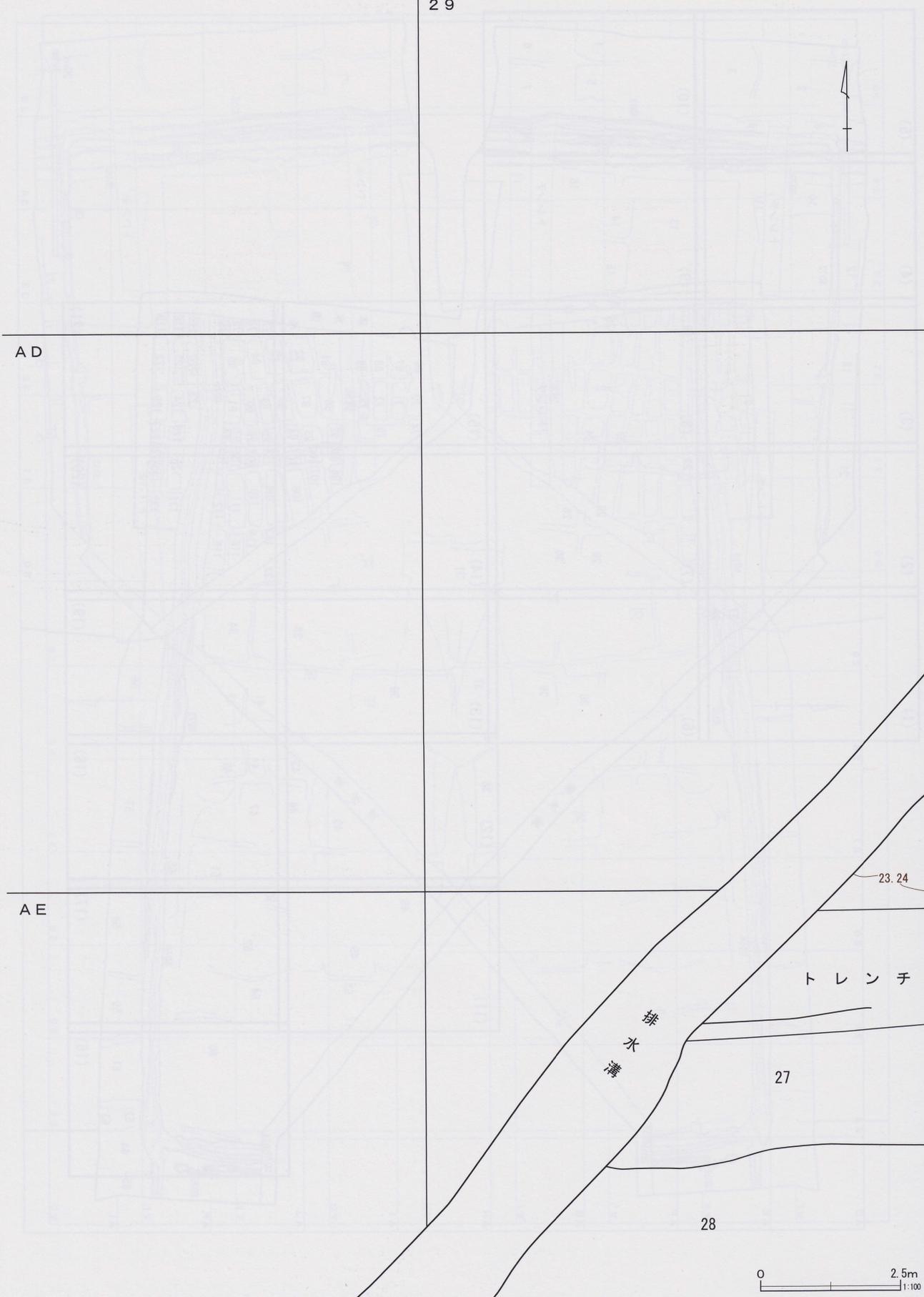
第237図 C区一面水田跡等高線図



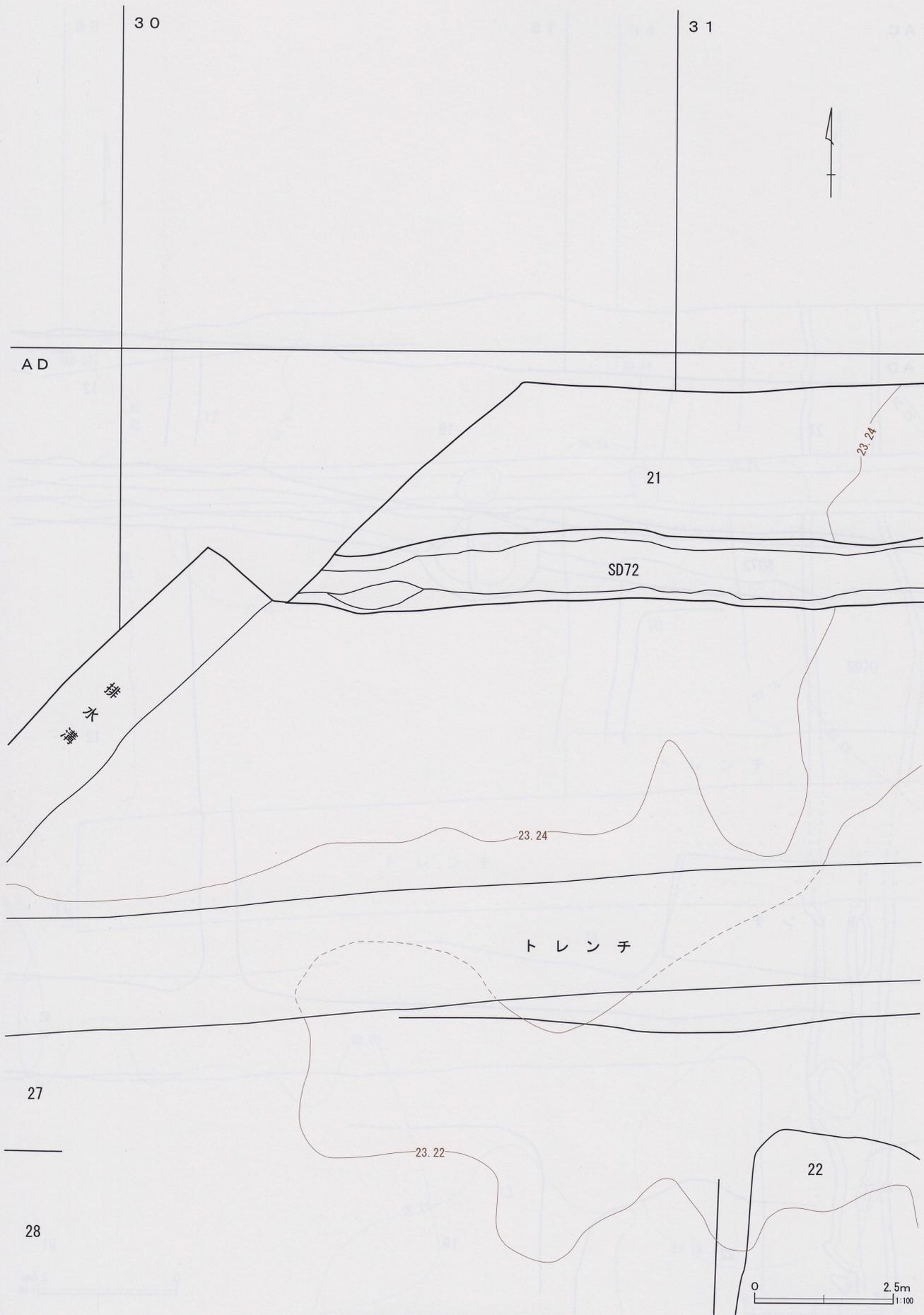
第238図 C区一面水田跡遺構全体図



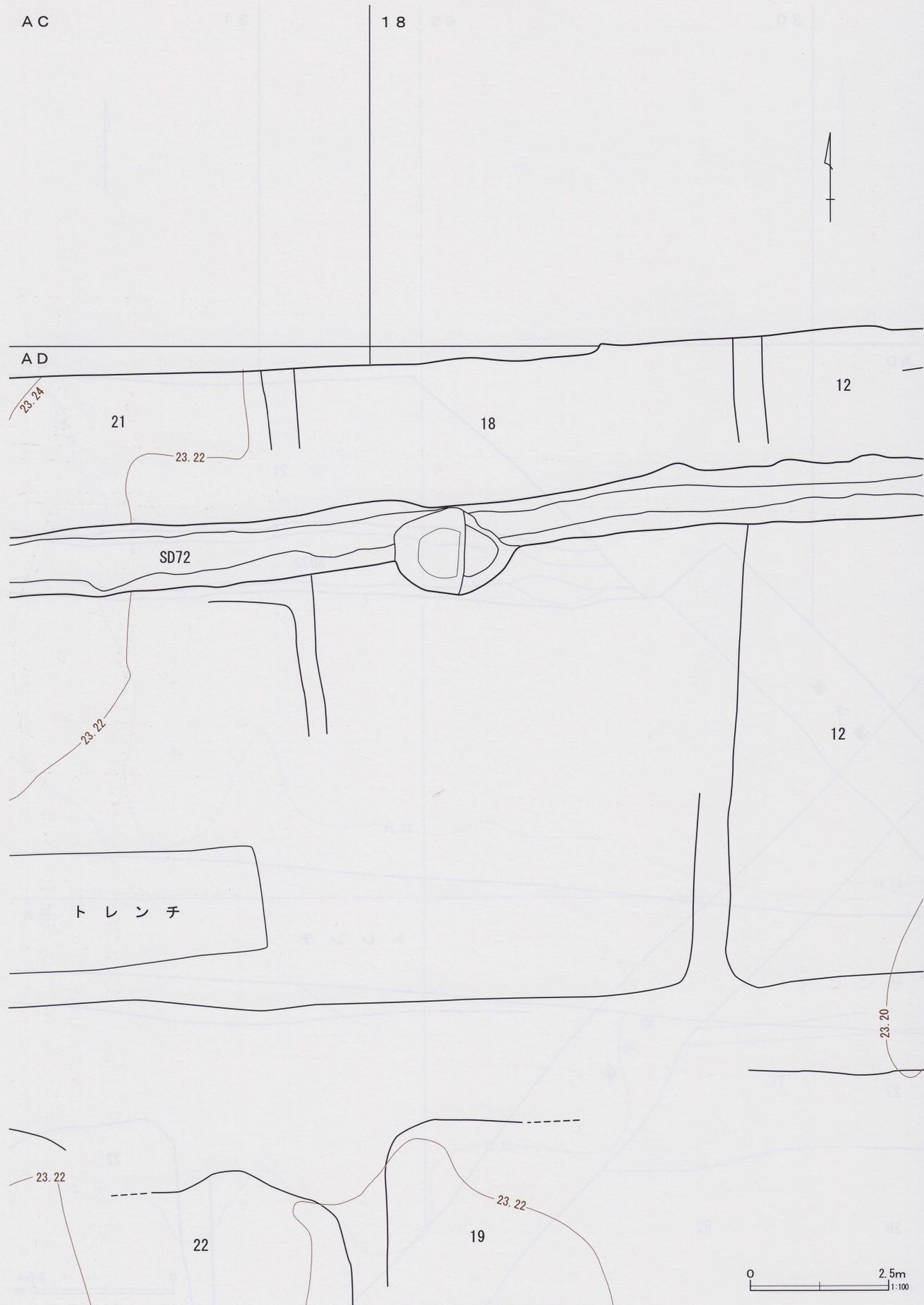
第239図 C区一面水田跡区割図



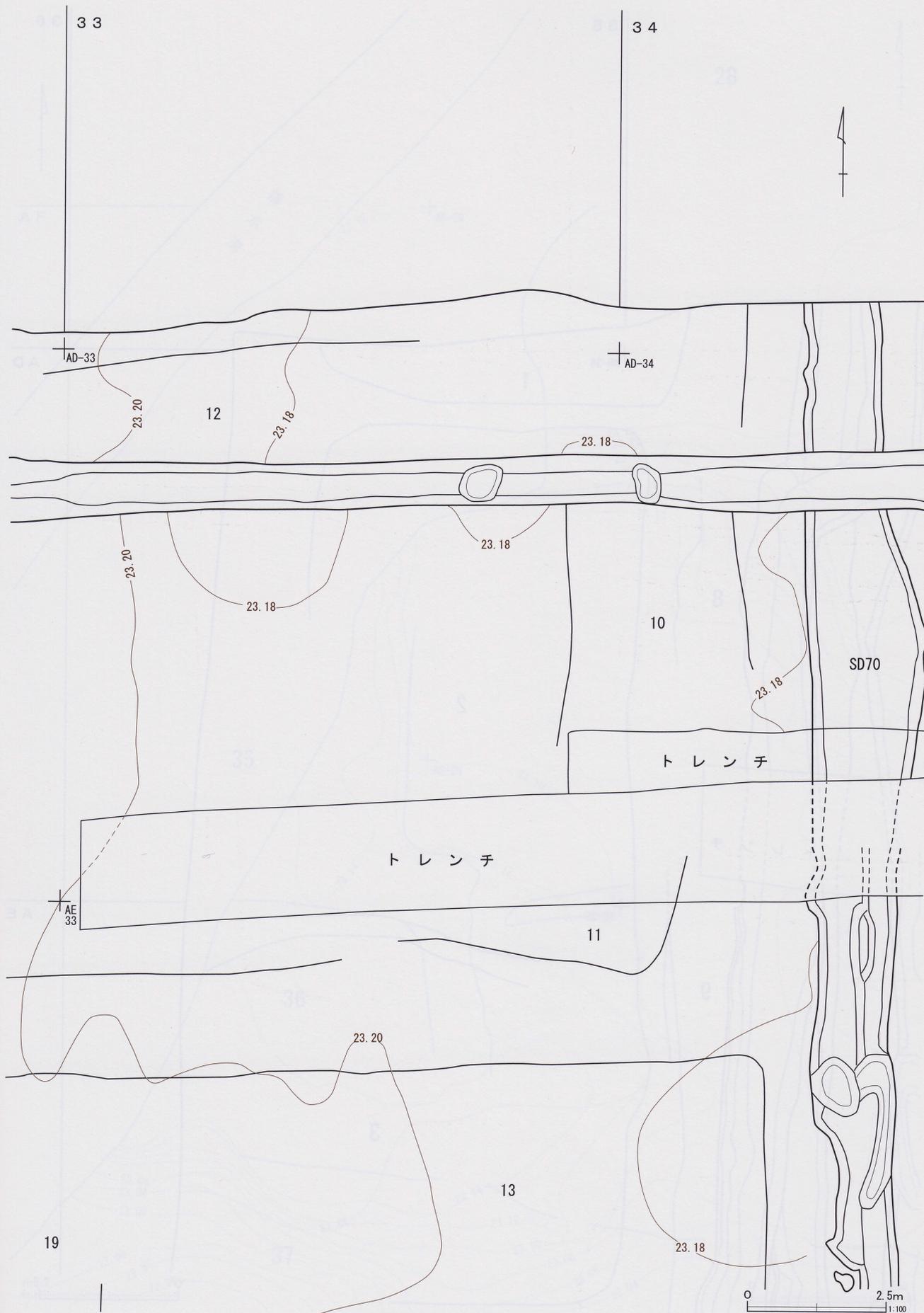
第240図 C区水田跡(1)



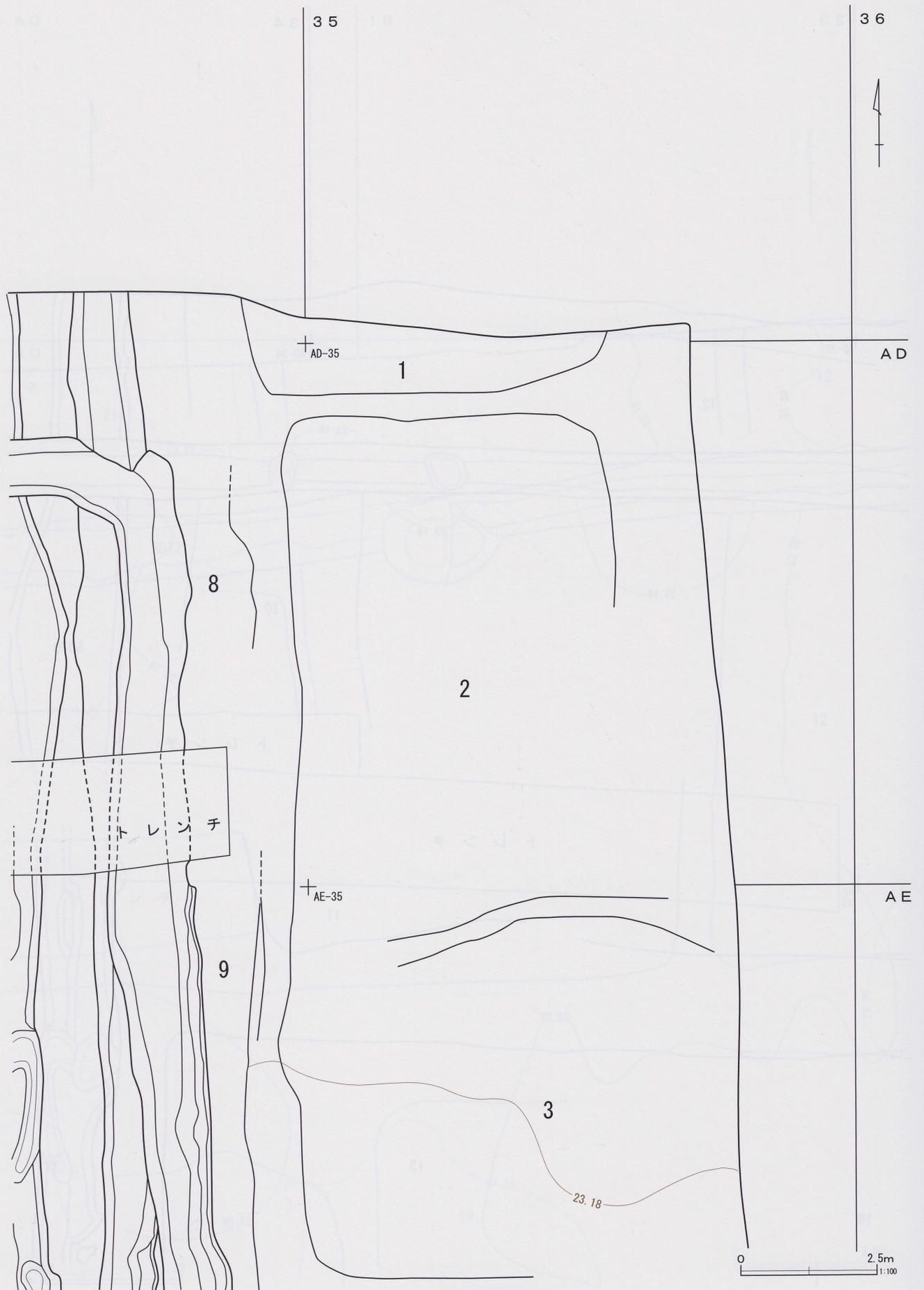
第241図 C区水田跡 (2)



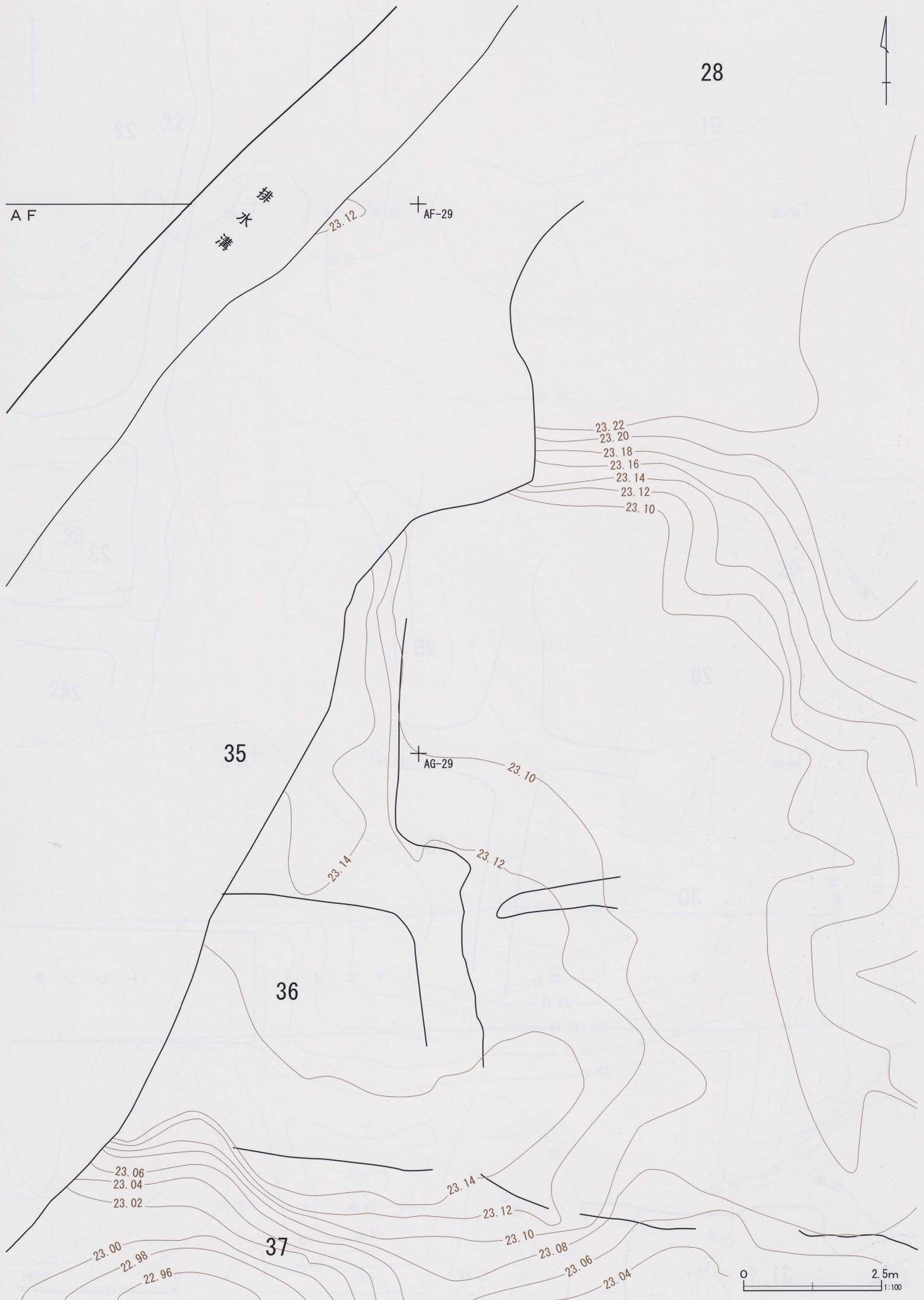
第242図 C区水田跡 (3)



第243図 C区水田跡 (4)



第244図 C区水田跡 (5)



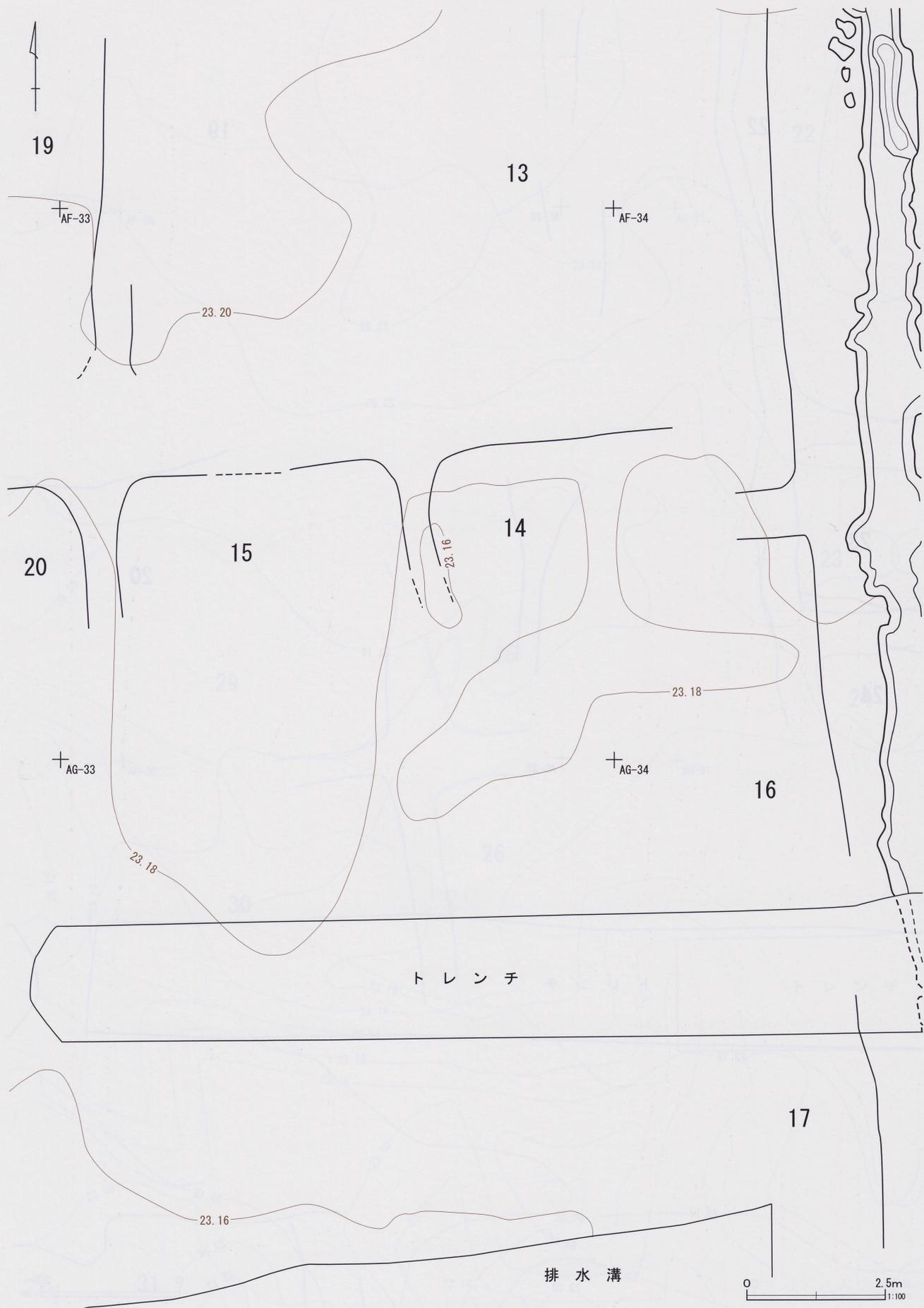
第245図 C区水田跡 (6)



第246図 C区水田跡 (7)



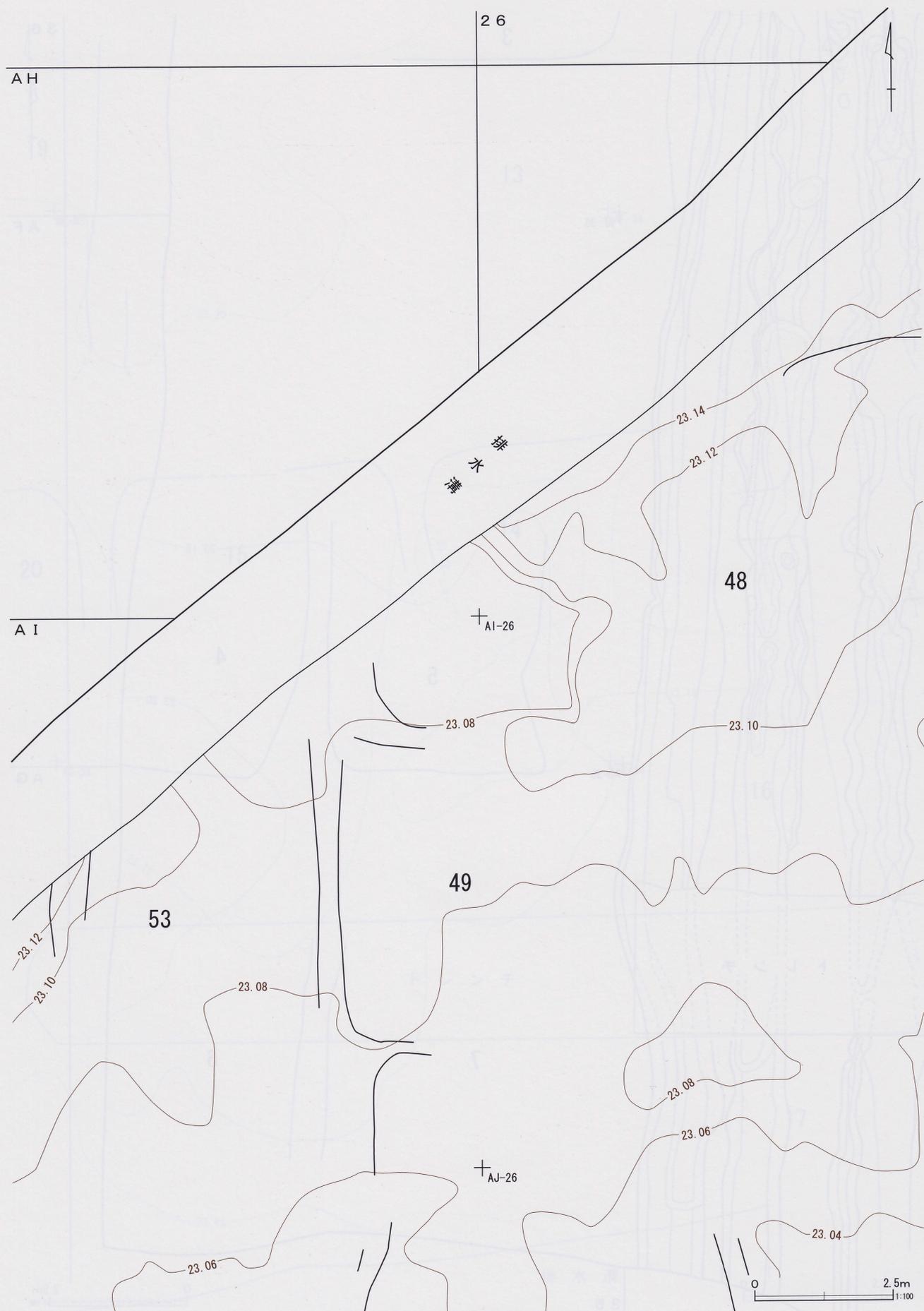
第247図 C区水田跡 (8)



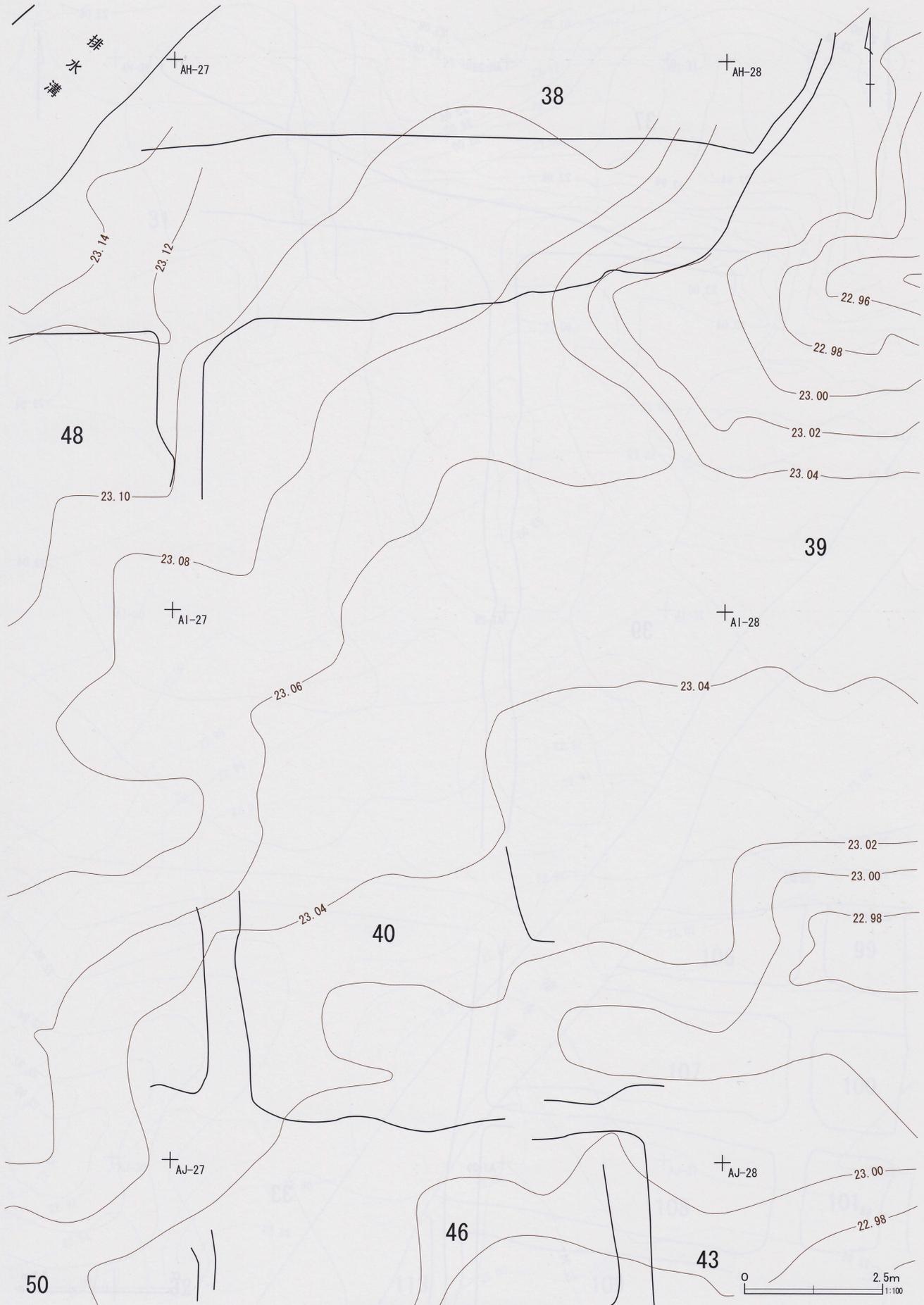
第248図 C区水田跡 (9)



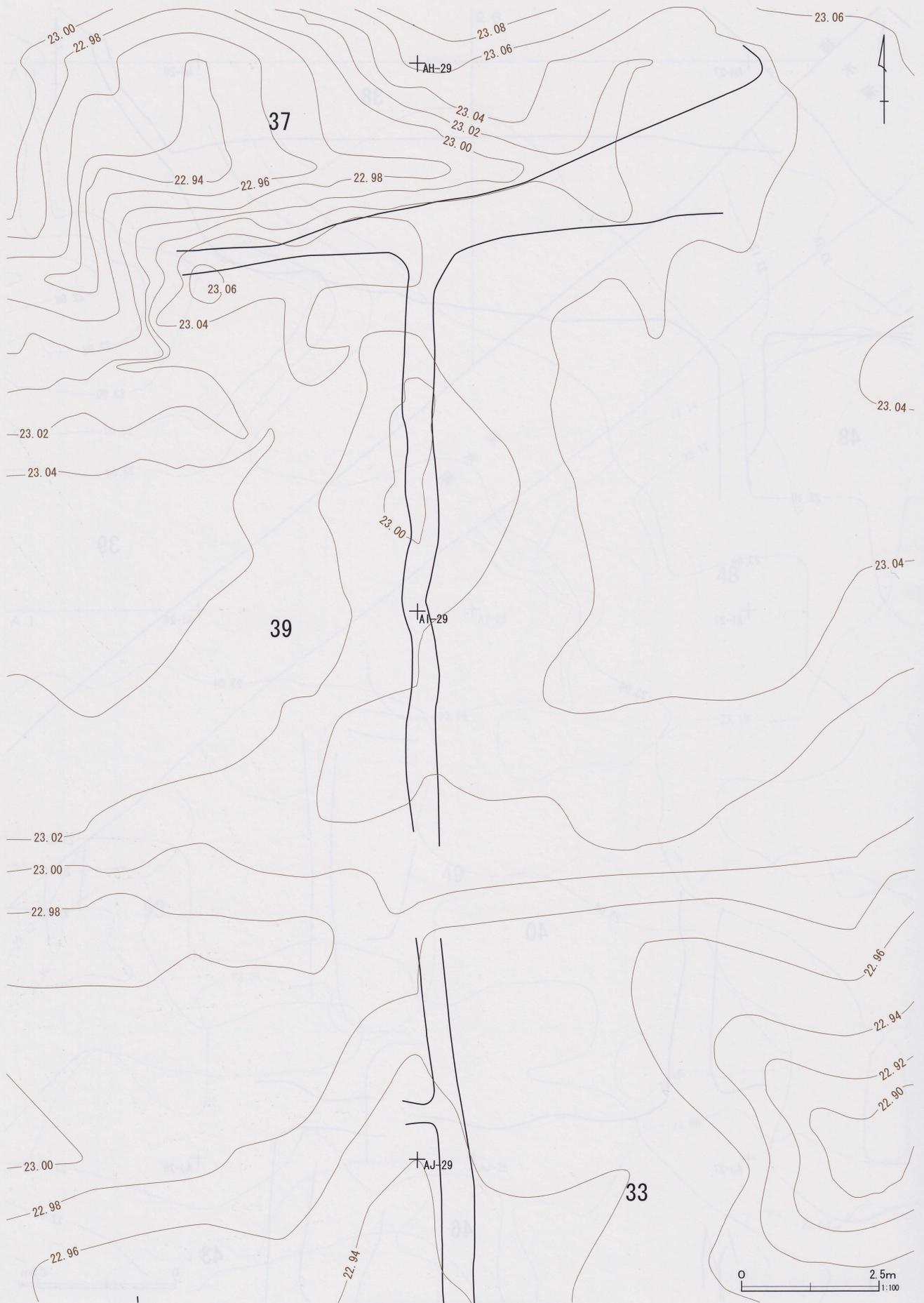
第249図 C区水田跡 (10)



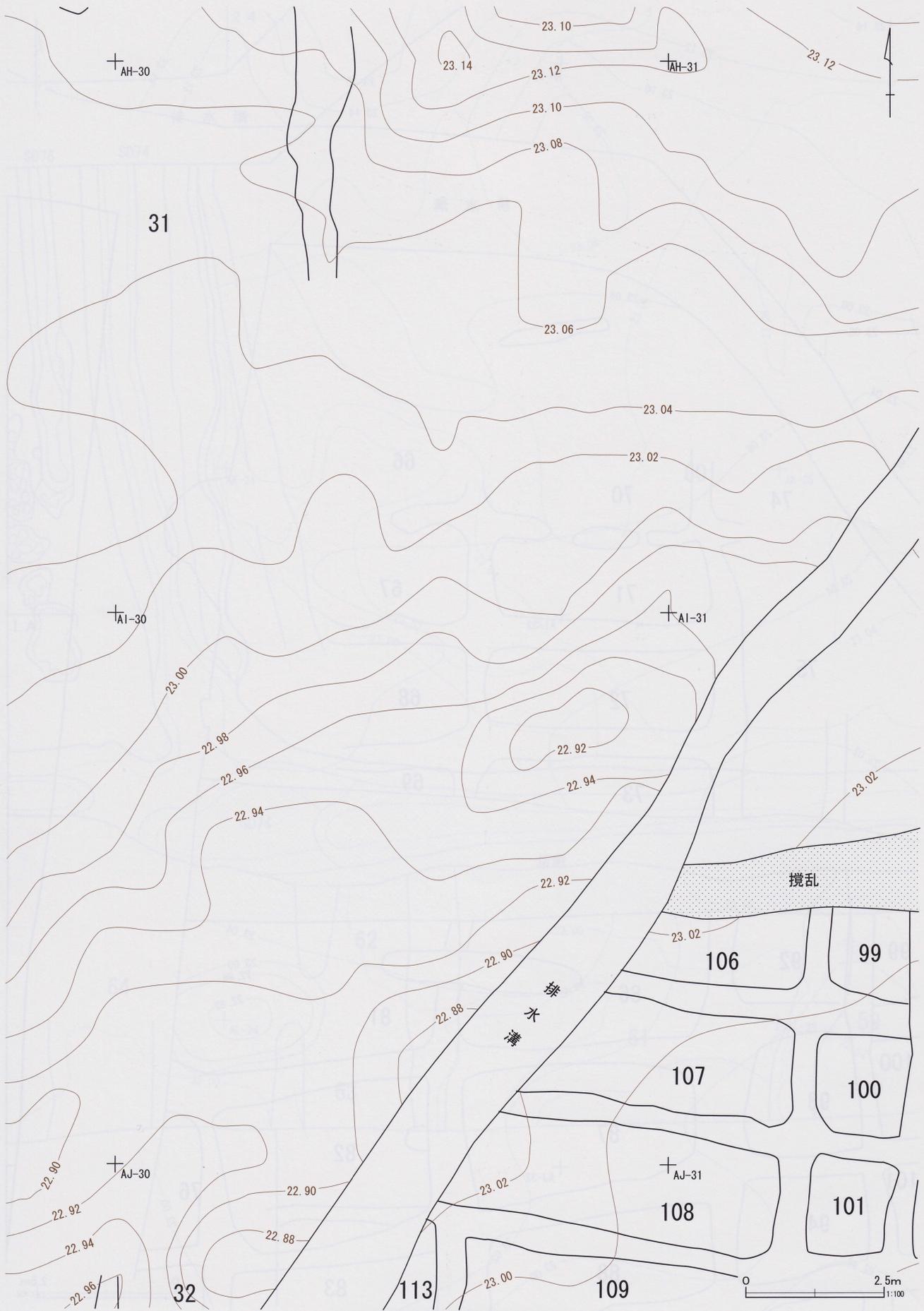
第250图 C区水田跡 (11)



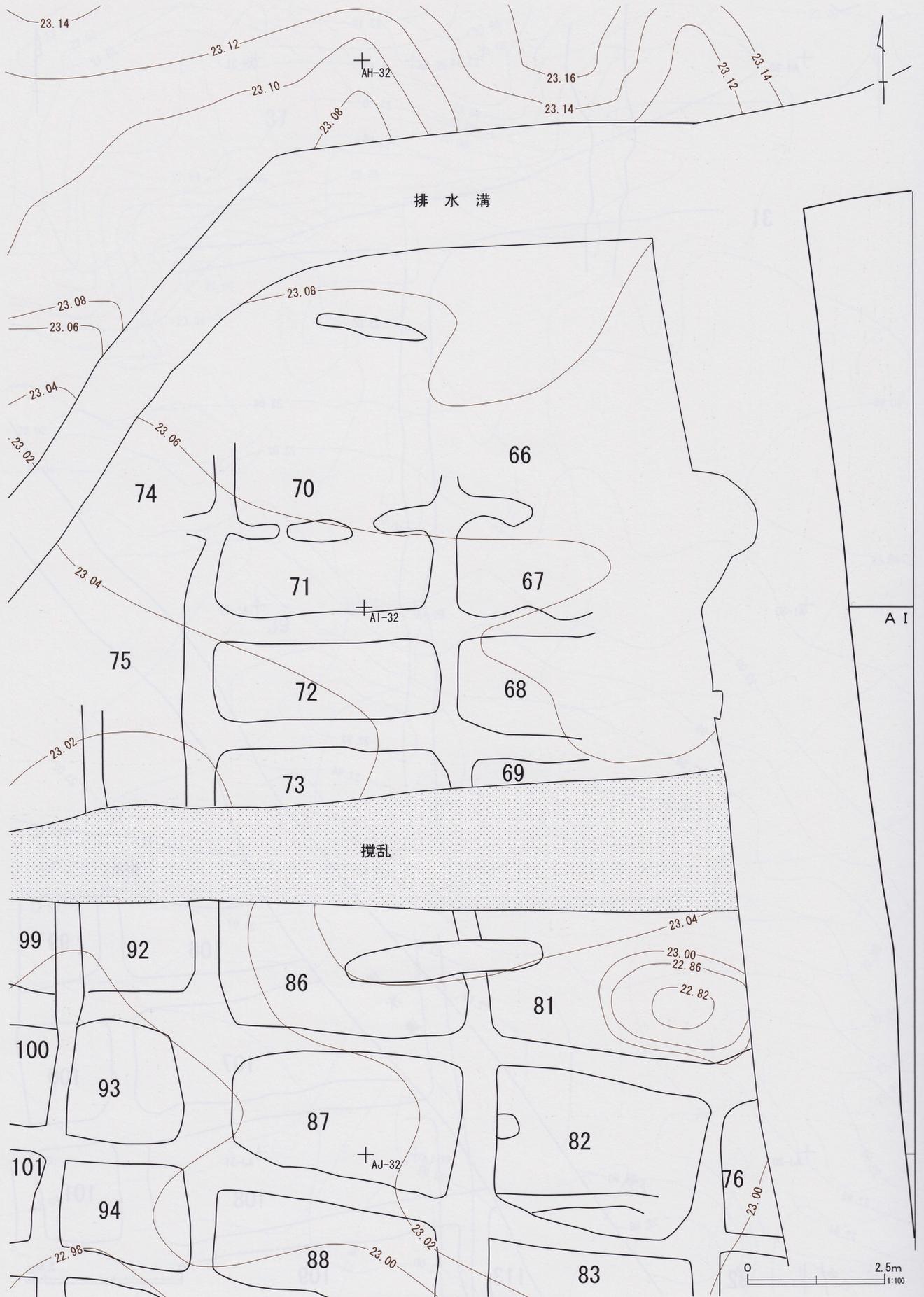
第251図 C区水田跡 (12)



第252図 C区水田跡 (13)



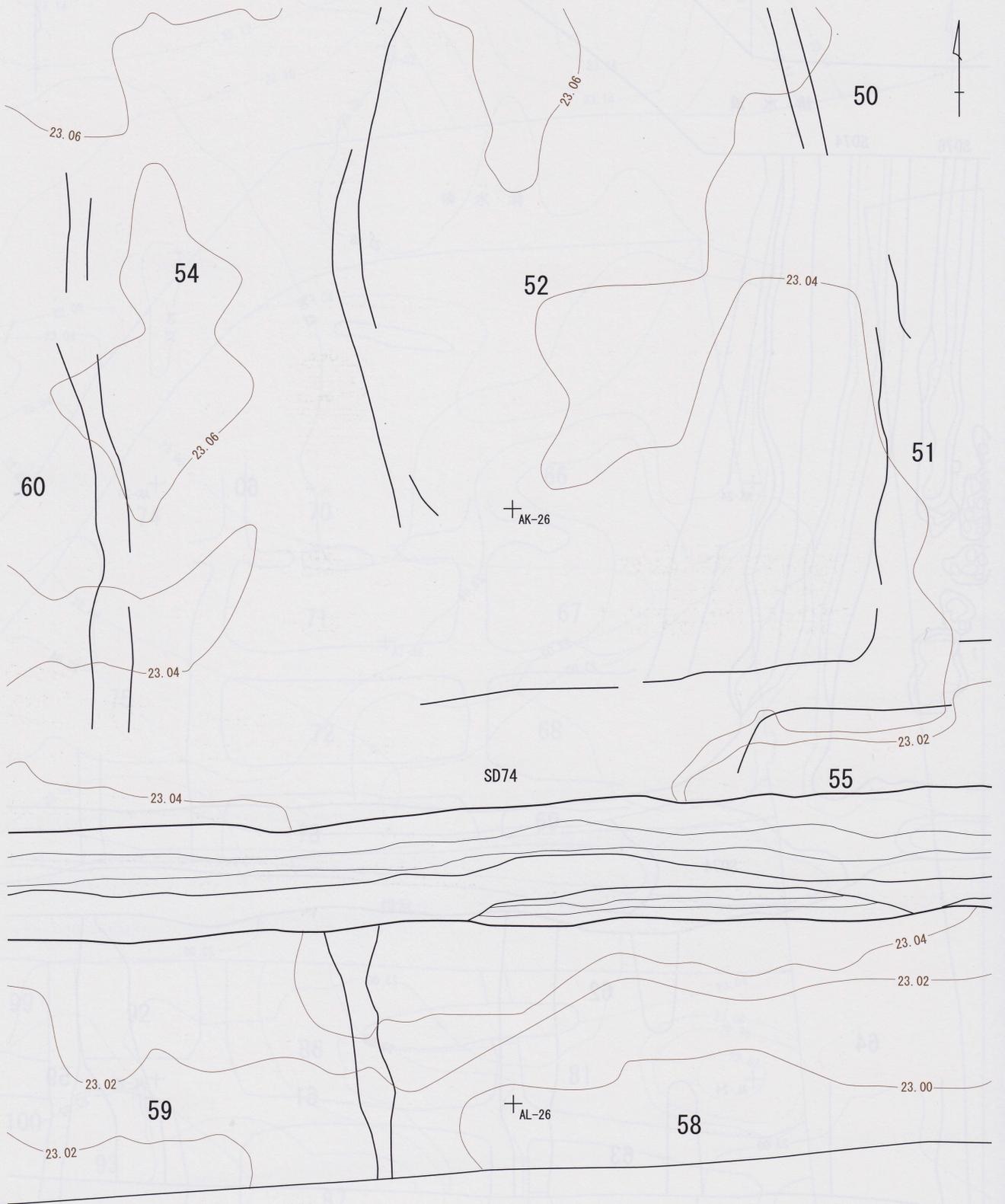
第253图 C区水田跡 (14)



第254图 C区水田迹 (15)

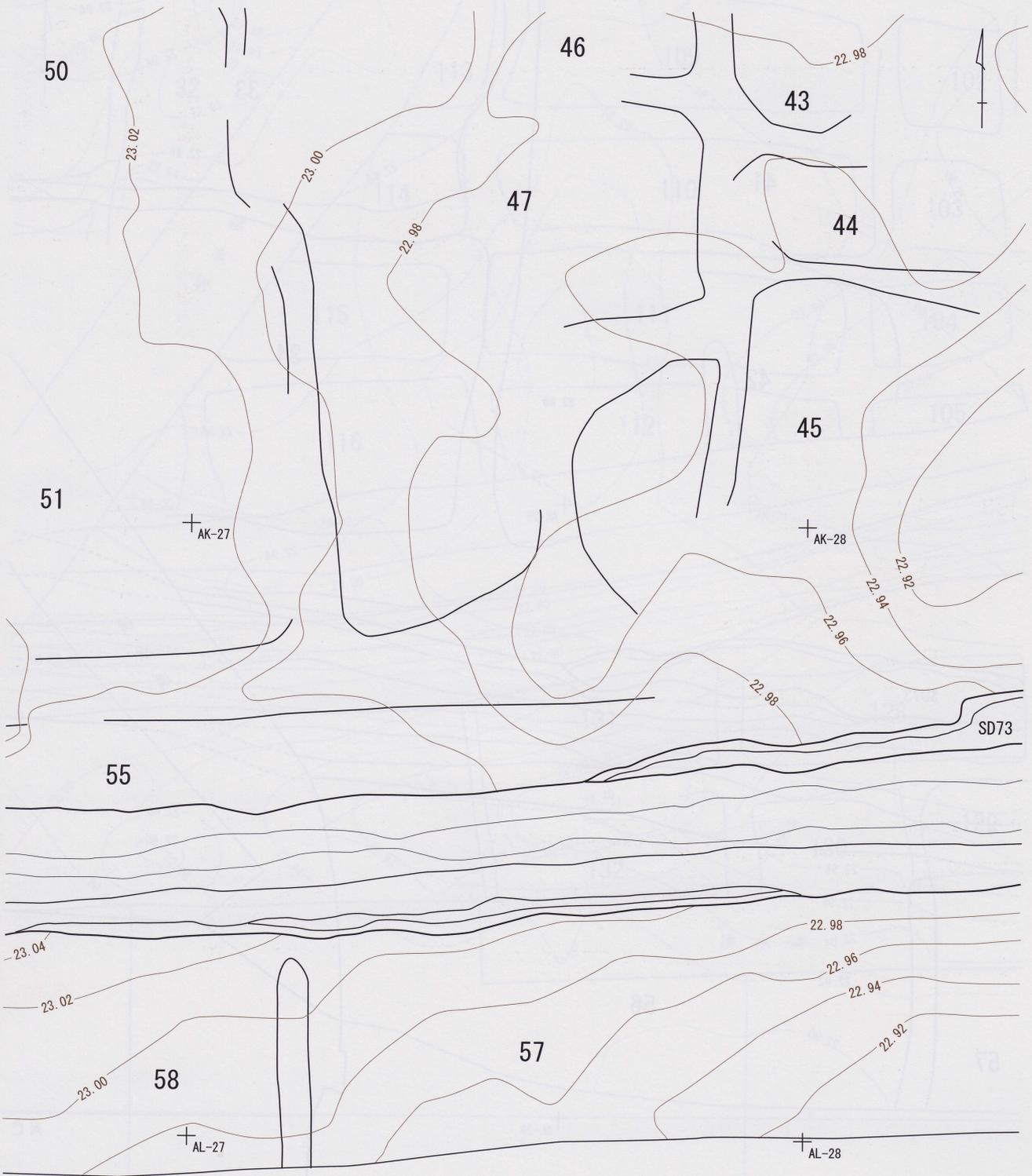


第255図 C区水田跡 (16)



第256图 C区水田跡 (17)



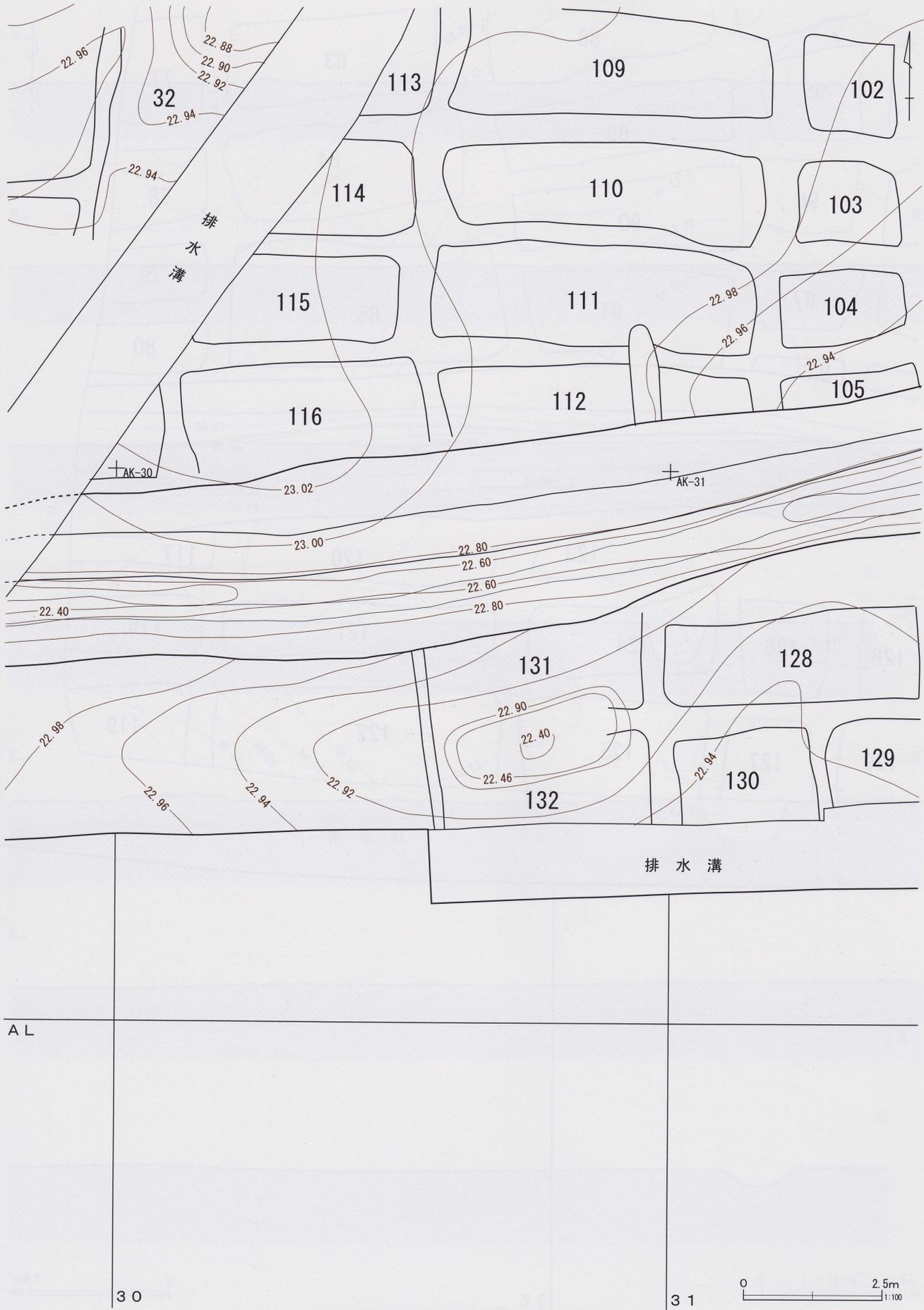


第257图 C区水田跡 (18)





第258图 C区水田跡 (19)



第259图 C区水田跡 (20)